

授 業 計 画

平成 29 年度

# *Syllabus 2017*

---

短期大学部 保育科第三部

平成29～28（2017～2016）年度

共通教育科目

平成27（2015）年度入学者

基礎科目・教養科目

《共通教育科目 建学の精神》

科目名	宗教と人生	科目ナンバリング	C3011LG G004
担当者氏名	本多 彩		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

本講義では、兵庫大学の「建学の精神」と仏教について理解を深める。また宗教へ多角的にアプローチすることによって宗教に対する理解を進める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではなく、宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（特に仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。

《授業の到達目標》

- ・「建学の精神」への理解を深め、自らの言葉で説明できるようになり、兵庫大学学生としての自覚を涵養する。
- ・日常生活領域に潜むさまざまな宗教を通して、①人間や世界や生や死について考え自分自身を見つめなおしていくきっかけとし、②異文化や他者理解を促進する。
- ・社会で起こっている様々な課題を仏教という視点からとらえなおし説明することができる。

《成績評価の方法》

受講態度（講義中の質問、建学の精神に関する宗教行事への参加を含む）30%、レポート 20%、定期テスト50%、この3項目で評価する。  
分らないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

建学の精神に関連する宗教行事への積極的な参加  
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～  
 宗教セミナー  
 宗教ツアー  
 花まつり法要 など

《備考》

身の回りの「宗教的なもの」をさがしてみよう。  
 仏教の本を読んでみよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教についてその機能を理解し説明することができる。
2	宗教の種類	分布や特徴によって分けられる宗教の種類を理解し説明することができる。
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性について理解し説明することができる。
4	建学の精神①	建学の精神である和と聖徳太子について学び説明することができる。
5	建学の精神②：学内宗教ツアー	学内の宗教施設をめぐるという体験を通して各施設の説明をすることができるようになり、建学の精神への理解を進める。
6	キリスト教を知る①	キリスト教の歴史や教えを学びその特徴を説明することができる。
7	キリスト教を知る②	キリスト教が現代社会に与えた影響とユダヤ教について学び説明することができる。
8	イスラームを知る	イスラームの歴史や教えを学びその特徴を説明することができる。
9	仏教を知る①	建学の精神にある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解し説明することができる。
10	仏教を知る②	初期仏教の展開と社会とのかかわりについて学び説明することができる。
11	仏教を知る③	大乘仏教の広がりや特徴について理解し説明することができる。
12	日本の仏教を知る①	日本仏教の特徴と展開について理解し説明することができる。
13	日本の仏教を知る②	日本の浄土系仏教の流れと教えについて理解し説明することができる。
14	建学の精神③	兵庫大学の建学の精神について理解を深め共有しお互いに説明し合うことができる。
15	建学の精神④	兵庫大学生としての誇りを持ち、建学の精神と自身の将来との関連を自分の言葉で説明することができる。

科目名	日本語(読解と表現)	科目ナンバリング	C3012L◇-001
担当者氏名	野田 直恵		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力		

《授業の概要》

大学での学習・就職活動および、日常生活・社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・文章表現法・敬語の用法といった日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。原則として、課題の答え合わせ・説明のあと、設問に取り組むというスタイルで授業をすすめる。

《授業の到達目標》

漢字・慣用表現、内容が伝わりやすい文や文書の書き方、敬語の適切な用法など、日本語の基本的な表現方法を身につける。それによって日本語についての知識を深め、コミュニケーション能力を高める。

《成績評価の方法》

授業時に複数回実施する課題の提出(50%)と学期末試験(50%)によって評価する。提出物には状況に応じてコメントを付し、返却する。授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 漢字の習得	授業についての説明 ※ ( ) はテキストの該当箇所。 (第1課) 「漢字習得の近道」漢字を習得するための効果的な方法
2	敬語の種類 同音異義語	(第25課) 「待遇表現①」さまざまな敬語の種類とその用法 (第2課) 「同音異義語」同音異義語の識別方法
3	敬意の表現 同訓異義語	(第26課) 「待遇表現②」敬語の使い分けや言い回しを通じた敬意の表現法 (第3課) 「同訓異義語」同訓異義語の識別方法
4	手紙の形式 生活の中の難読語	(第15課) 「手紙と葉書①」手紙などの基本的な書き方 (第4課) 「音訓と熟語」特別な読み・難しい読みの日常語
5	手紙の文面 熟語の成り立ち	(第16課) 「手紙と葉書②」手紙や葉書の文面を書くときの注意点 (第5課) 「熟語の構造」熟語の意味のとらえ方
6	一般的な文書の書式 生活の中の四字熟語	(第20課) 「ビジネス文書」会社などにおける書類の形式 (第6課) 「四字熟語」誤用しやすい四字熟語
7	さまざまな文書の書式 送り仮名の付け方	(第17・21課) 「日誌」・「案内状」さまざまな文書の書式 (第7課) 「仮名遣いと送り仮名」仮名と日本語
8	文の書き方 生活の中の慣用表現	(第8課) 「文のしくみ」文の内容をわかりやすくする工夫 (第13課) 「慣用表現の誤用」慣用表現の本来の意味と誤用の例
9	文と文章 日本語の表記	(第9・10課) 「文章構成」・「文章の要約」文章としての文の組み立て方 (第14課) 「原稿用紙の使い方」縦書き・横書きにおける表記法の違い
10	思考と言葉 感情と言葉	(第11・12課) 「アイデアの開発」・「レトリック」柔軟な発想と道具としての言葉 (第24課) 「広告のキャッチコピー」言葉が感情に与える作用
11	文章をまとめる方法 他者の文章に学ぶ事	(第22課) 「レポート・小論文」論文の基本的な構造 (第23課) 「論説文と批評文」目的によって異なる文章の書き方
12	自身について知るべき事 自身を表現する手段	(第18・19課) 「履歴書」・「エントリーシート」言葉がもたらす印象 (第30課) 「面接の作戦・自己アピール」言葉の効果的な使い方
13	敬語表現の応用	(第27・28課) 「来客の応対」・「電話の応対」敬語表現の復習
14	言葉が表現にしめる位置	(第29課) 「プレゼンテーション」総合的な表現
15	授業のまとめ	授業全体についてふり返り、授業内容をまとめる。

《テキスト》

丸山顯徳編『キャリアアップ国語表現法』(嵯峨野書院)

《参考図書》

資格試験対策研究会編『漢字検定2級頻出度順問題集』(高橋書店)

佐藤一明『秘書検定3級に面白いほど受かる本』(KADOKAWA)

佐藤一明『秘書検定2級に面白いほど受かる本』(KADOKAWA)

他は授業時に紹介する。

《授業時間外学習》

当日の授業の復習をしたうえで与えられた課題を解き、次回の授業で取り組む内容を予習しておく。また、日本漢字能力検定などの受検も視野に入れた学習を心がけるようにする。

わからないことは担当者に遠慮なく質問してください。

《備考》

国語辞典(電子辞書可)の積極的な活用を心がけること。

テキスト改訂により学習内容を変更する場合がある。

科目名	英語	科目ナンバリング	C3012L◆●002
担当者氏名	Michael.H.FOX		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得することができる。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切な指導を受け、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する。生きている英語を楽しみながら身につける。

《テキスト》

教科書『Talk Time Student Book 1』を購買部で購入。先輩から古本を受けることは禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視し、ぜひ精一杯に努力すること。分からないことはoffice hour等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction & Orientation	自己紹介をする
2	Describing People	人を述べる事
3	Everyday Activities	毎日の活動・習慣を喋る
4	Food and Drinks	食べ物と飲み物の話
5	Snacks	スナックの世界
6	Housing	家・住宅をデザインし、話す事
7	Free Time Activities	暇と活動
8	Popular Sports	人気なスポーツは？
9	Life Events	一生の一大事な行事
10	Weekend Plans	週末を過ごす
11	Movies	映画が好きですか？
12	TV Programs	テレビとその番組
13	Health Problems	健康と病気
14	On the telephone	電話の言葉
15	まとめ or 自己評価	まとめ or 自己評価

科目名	英語	科目ナンバリング	C3012L◆●002
担当者氏名	野寄 一恵		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力		

《授業の概要》

保育園や幼稚園で必要となる英語を中心に、日常生活に関係する英会話に慣れる。また、幼児向けの遊び歌やその他の英語の歌を聞き、歌い、英語に親しむと同時に、子どもに教えられるようにする。

《テキスト》

Maiko Tsuchiya著 Happy English for Childcare  
金星堂

《参考図書》

《授業の到達目標》

英語が必要な状況になった時に、簡単なフレーズの英語がすぐ口から出るようにする。子ども向けの英語の歌を見ないで歌えるようにする。

《授業時間外学習》

音声ファイルの無料ダウンロードを行い、必ず予習として音声を聞き、テキストの空欄を埋めておく。また毎回小テストを行うので、指定されたフレーズを覚えておく。

《成績評価の方法》

成績評価は日頃の学習の積み重ねを重視し次の項目で評価する  
 1) 授業参加(小テスト) 50%、2) 復習テスト 20%、  
 3) 発表 30%  
 復習テストはテスト用紙に、発表は別の用紙に、それぞれコメントを記入して返却・配布する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 1 Hi, I'm Yuri Tanaka	授業方針説明とクラスのルール クラスルームイングリッシュ 自己紹介 人に何かを頼む表現
2	Unit 2 Where Is the Multi-purpose Room?	位置を伝える表現 戸外での道案内
3	Unit 3 Good Morning. How Are You Today?	登園時の会話 今日の調子を聞く、答える表現
4	Unit 4 What Color Do You Like?	好きなもの、嫌いなものを聞くWhat の
5	Unit 5 There's a Ladybug on the Leaf	場所をあらわ明日表現 教室内の物の場所を示す
6	Unit 6 It's Time to Play Outside	人に何かするよう・しないよう言う表現 英語で「桃太郎」を読む
7	Unit 7 She Is Allergic to Eggs	食に関する好き嫌い、アレルギーの有無を伝える表現
8	Unit 8 You Should Go to the Bathroom	しなければならないこと、する必要があることを伝える表現
9	Unit 9 We Made Masks Today	一日の活動と様子を伝える表現
10	Unit 10 If It Rains, What Happens?	「もし、～なら」という仮定の表現
11	Unit 11 What Shall We Do Today?	Shall I/we～とWill you～?を用いた表現
12	Unit 12 I Feel Feverish	病気やけがの症状を伝える表現
13	Unit 13 This Is Yuri from ~	電話応対に便利な表現
14	Unit 14 Thank You Very Much for Everything	お礼の表現 動きの表現 誕生日カード
15	復習テスト	発表と復習テスト

科目名	コンピュータ演習	科目ナンバリング	C3011L◆-003
担当者氏名	佐竹 邦子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

パソコンなどの情報機器やインターネットを使えることは現在の社会では必須の能力となっています。この授業では、学生生活のために必要な情報技術・知識を習得し、さらには将来にわたって長く役立つ知識を習得することも目指します。授業は毎回演習形式で行います。

《授業の到達目標》

コンピュータやインターネットが広く利用されている現在の社会で、将来にわたってそれらを使いこなしていくための基礎知識を身につけられる。メールやインターネット、各種アプリの基本的な使い方から、ネットワーク社会でのマナーも身につけられる。

《成績評価の方法》

授業に取り組む姿勢 20%  
提出物 80%

フィードバック方法：オフィスアワーに質問を受け付けます。時間が合わない場合はメールで連絡を下さい。

《テキスト》

『学生のためのOffice2016&情報モラル』noa出版、2016

《参考図書》

- ・『ネット社会を賢く生きよう！最新情報モラル』日経BP社
- ・『Microsoft Word 2016 ドリル』FOM出版
- ・『Microsoft Excel 2016 ドリル』FOM出版
- ・『Microsoft PowerPoint 2016 応用』FOM出版

《授業時間外学習》

予習：テキストの該当箇所を読み、示されているYouTube動画を見る。操作のポイントをメモする。  
復習：授業内で学んだ内容を繰り返し行い、習熟度を高める。

《備考》

- ・アクティブラーニング形式で行う場合があります。
- ・欠席した場合、次回までに必ず自習して追いついて下さい。
- ・過去プリント要求は、授業直前は控えて下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバス内容を確認する。学内情報システムを理解する。実習室サインインアカウントを確認する。
2	Windowsの基礎 メール(1)	Windowsの基本操作を知る。 Webメールで送受信する。
3	メール(2) 情報検索	メールのマナーを知る。 ネット検索を行う。
4	情報モラル	著作権・肖像権を知る。 ネット上のコミュニケーションの特徴を理解する。
5	文書作成(1)	Wordの画面構成を知る。 文書を編集する。
6	文書作成(2)	レポートを編集する。 (ページ設定、表紙の作成、フッター、グラフの挿入)
7	Word課題	Wordを用いた演習課題を行う。
8	表作成(1)	Excelの画面構成を知る。 表を編集する。数式を入力する。
9	表作成(2)	関数(SUM, AVERAGE, ROUNDなど)を使う。
10	グラフ作成	グラフの種類と特徴を知る。 グラフを作成する。
11	Excel課題	Excelを用いた演習課題を行う。
12	スライド資料の作成(1)	PowerPointの画面構成を知る。 スライドを作成する。
13	スライド資料の作成(2)	スライドを効果的に見せる。
14	PowerPoint課題	PowerPointを用いた演習課題を行う。
15	総合課題	これまでのまとめとなる課題を行なう。

科目名	コンピュータ応用演習	科目ナンバリング	C3012L--058
担当者氏名	佐竹 邦子、稲富 恭		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

保育の現場へのICT導入が進められています。ICTを使い業務の効率化やデータ分析ができれば、よりよい保育につながります。

この授業では「コンピュータ演習」で学んだことをベースに各種アプリの習熟度を高めることを目指します。より早く魅力的な文書を作成できるよう、また、各種データを分析できるようになりましょう。

《授業の到達目標》

- ・ビジネス文書、図で魅せる文書、差し込み文書を作成できる。
- ・Excelでデータベースを活用できる。
- ・伝わるグラフを作成できる。
- ・簡単なデータ分析ができる。
- ・効率化のための工夫ができる。

《成績評価の方法》

授業に取り組む姿勢 20%  
提出物 80%

フィードバック方法：オフィスアワーに質問を受け付けます。時間が合わない場合はメールで連絡を下さい。

《テキスト》

『実践ドリルで学ぶ Office活用術 2016対応』noa出版、2016

《参考図書》

必要に応じ授業内で示します。

《授業時間外学習》

- ・予習：テキストの該当箇所を読み、示されているYouTube動画を見る。操作のポイントをメモする。
- ・復習：授業内で学んだ内容を繰り返し行い、習熟度を高める。

《備考》

- ・「コンピュータ演習」の修得を前提として授業を進めます。
- ・欠席した場合、次回までに必ず自習して追いついて下さい。
- ・教室設備の関係により履修者数を制限する場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業内容の説明。【必ず出席すること。履修希望者多数の場合、抽選実施する可能性あり。】文字入力の基本操作の確認、Word基本操作の復習
2	Word活用術（1）	文書の構成を知る。ビジネス文書のポイントを押さえる。表で分かりやすくまとめる。
3	Word活用術（2）	前回内容の練習、応用。
4	Word & 画像編集アプリ（1）	図で魅せる。画像編集アプリを使う。
5	Word & 画像編集アプリ（2）	前回内容の練習、応用。
6	Word & 画像編集アプリ（3）	実践例に取り組む。
7	Excel活用術（1）	書式をつけて見やすく編集。関数を使いこなす。伝わるグラフを作成する。
8	Excel活用術（2）	前回内容の練習、応用。
9	Excel活用術（3）	データベースを活用する。視点を変えて集計する。
10	Excel活用術（4）	前回内容の練習、応用。
11	Excel活用術（5）	実践例に取り組む。
12	Word&Excel活用術（1）	それぞれの特性を活かす。データを連携させる。
13	Word&Excel活用術（2）	前回内容の練習、応用。
14	まとめ（1）	総合実践例に取り組む。
15	まとめ（2）	総合実践例に取り組む。



科目名	文学	科目ナンバリング	C3012L--005
担当者氏名	厚美 尚子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力		

## 《授業の概要》

日本児童文学の歩みに沿って、主に昭和初期までの代表的な作品を読む。それぞれの作品について、作家の来歴・作品の背景・これまでの評価などについて学ぶ。

## 《テキスト》

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

## 《参考図書》

## 《授業の到達目標》

毎回のミニレポート・期末レポートの執筆を通して、研究的視点を身につける。自分の意見を書く、他人の意見を聴く経験を通して、物事を多面的に捉える姿勢を身につける。

## 《授業時間外学習》

次回に取り上げる予定の作家の作品をあらかじめ読み、ミニレポート執筆の準備をしておくこと。

## 《成績評価の方法》

毎回の授業時間内に提出するミニレポート（45%）、期末レポート（55%）

※毎回執筆されるミニレポートは、次回の授業時にいくつか紹介し、コメントする。また、文中に質問があればその都度口頭で返答もしくはコメントを付して返却する。

## 《備考》

コミュニケーションをとりながら進めたいと思います。まずは作品を楽しく読むことから始めましょう。

## 《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童文学を学ぶことについて	わたしたちが児童文学を学ぶことに、どういう意味があるのか考える
2	巖谷小波「こがね丸」を読む	作品を読み、ミニレポートを執筆する。作家とその時代について学ぶ。
3	巖谷小波「こがね丸」を読む	前回ミニレポートの紹介。作品の背景やこれまでの評価などについて学び、改めてミニレポートを執筆する。
4	小川未明「赤い船」を読む	作品を読み、ミニレポートを執筆する。作家とその時代について学ぶ。
5	小川未明「赤い船」を読む	前回ミニレポートの紹介。作品の背景やこれまでの評価などについて学び、改めてミニレポートを執筆する。
6	小川未明「赤い蠟燭と人魚」その他を読む	小川未明のさまざまな作品を読み、ミニレポートを執筆する。
7	小川未明「赤い蠟燭と人魚」その他を読む	前回ミニレポートの紹介。作品の背景やこれまでの評価などについて学び、改めてミニレポートを執筆する。
8	芥川龍之介「蜘蛛の糸」を読む	作品を読み、ミニレポートを執筆する。作家とその時代について学ぶ。
9	芥川龍之介「蜘蛛の糸」を読む	前回ミニレポートの紹介。作品の背景やこれまでの評価などについて学び、改めてミニレポートを執筆する。
10	有島武郎「一房の葡萄」を読む	作品を読み、ミニレポートを執筆する。作家とその時代について学ぶ。
11	有島武郎「一房の葡萄」を読む	前回ミニレポートの紹介。作品の背景やこれまでの評価などについて学び、改めてミニレポートを執筆する。
12	宮沢賢治「どんぐりと山猫」を読む	作品を読み、ミニレポートを執筆する。作家とその時代について学ぶ。
13	宮沢賢治「どんぐりと山猫」を読む	前回ミニレポートの紹介。作品の背景やこれまでの評価などについて学び、改めてミニレポートを執筆する。
14	坪田譲治「魔法」を読む	作品を読み、ミニレポートを執筆する。作家とその時代について学ぶ。
15	坪田譲治「魔法」を読む	前回ミニレポートの紹介。作品の背景やこれまでの評価などについて学び、改めてミニレポートを執筆する。

科目名	色彩学	科目ナンバリング	C3011L--006
担当者氏名	近藤 雅義		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力		

《授業の概要》

現代は生活環境の彩りを快適に暮らせるように思慮深く考える色彩化の時代であり、衣・食・住などの様々な生活環境において色彩の用い方に工夫が行われている。色彩の用い方を間違えると視覚上や心理面において不快感を感じさせる場合もある。授業では快い色の調和を得るには、どのように考えればよいのか、また色彩が私達の生活にどのような影響を与えるのか解説する。

《授業の到達目標》

色彩学の基本となる、「カラーシステム」「色の見え方」「色の感情効果」「配色調和論」等々の理論について学び、その色彩理論の知識を活用して色の組み合わせによる構成を考えることにより、色彩表現力を養い、色彩理論を応用できる能力を持つことを目標とする。理論を色でも理解することがこの授業のポイントである。

《成績評価の方法》

小テスト (50%)、カラーリング課題 (50%)  
 ※各種カラーリング課題の作品について指導を行います。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『生活と色彩』（朝倉書店）

《授業時間外学習》

「非常出口」の表示はベース（地色）のが白と緑色の2種類あるが、その違いは？フランスの国旗の青・白・赤、理髪店の赤・青・白のそれぞれの色は何を表わしているのか？子供の可愛い色はどのような色か注意して見ておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	色彩と生活	色彩は日常生活でどのように活用されているのか、色彩の果たす役割を改めて見直す。
2	色の見え方	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され脳で感じているという色知覚について学ぶ。
3	色の感情効果（1）	赤、橙、黄、青などそれぞれの色相がもっている、色の感情効果について。
4	色の感情効果（2）	色の連想、象徴について解説し、色の好みと性格について説明する。
5	色彩体系（カラーシステム）	色彩学の基礎となる色の三属性を基に、カラーシステムの成り立ちを解説する。
6	色名	平安時代、江戸時代における、日本の伝統色名やヨーロッパの色名について理解する。
7	色のイメージ	同じ人でも着用する色によってその人のイメージが異なる。どの様な色調がどの様なイメージ表現できるのかを学ぶ。
8	色の見え方の現象	日常生活において、同じ色でも見え方が異なる場合があり、それは何故その様な現象が起こるのか考える。
9	配色調和（1）	美しい調和の配色を得るには、配色調和の基本形式を理解し、その調和理論に従って実際にカラーカードで配色を作成する。
10	配色調和（2）	「可愛い」「落ち着いた」感じなど、色相、トーンなどのカラーシステムを基本に、自分が思い描くイメージをカラーカードで作成する。
11	色の伝達性	言葉とか文章ではなく、色だけによって何かを伝える事ができる。色が私達の行動に与える影響について事例をもとに説明する。
12	色彩と文化	国によって色の捉え方が異なることを説明する。例えばリンゴは日本では赤をイメージするがフランスではアップルグリーンという色名があるように全く異なる。
13	「衣」（ファッション）の色彩	各シーズン（春、夏、秋、冬）に発表される流行色はどの様につくられるのかについて解説する。
14	「食」の色	美味しそうに見える料理の配色について、また色と栄養価の関係から捉えた、食の五原色について説明。
15	「住」の色	「騒音」という言葉があるように、環境において「騒色」という言葉がある。それはどのようなことなのか解説する。

科目名	ジェンダー論	科目ナンバリング	C3011L--008
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

本講義では、「ジェンダー」概念と「ジェンダーの視点」の学習を通して、「女であること／男であること」の文化的・社会的側面について多面的に理解する。まず(1)諸データにより実態を把握し、次に(2)ジェンダーの視点を用いながら諸問題を批判的に見る目を養う。また、各分野のまとめにあたって、(3)作業シートによって、知識の定着を確認するとともに、社会問題へのジェンダーの視点によるアプローチを身につける。

《授業の到達目標》

- (1) ジェンダーについて社会的に語ることができる。
- (2) 日本社会の諸問題について統計データを用いて、ジェンダーの視点から説明できる。
- (3) 講義のなかから自分のテーマを見つけて、考えをまとめて、他の人に説明できる。

《成績評価の方法》

○毎回実施する「作業シート」の提出(配点:文章作成能力および知識の定着度45%) ○「学習のまとめ」シート(「持ち込み可」)を完成させること(配点:データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度:55%) ○試験やレポートにコメントを付して返却し質問を受け付ける。

《テキスト》

『女性のデータブック 第4版』井上輝子・江原由美子編

《参考図書》

『ジェンダーの社会学』江原由美子(放送大学教育振興会), 『ジェンダーで学ぶ社会学』伊藤公雄/牟田和恵編,(世界思想社), 『社会学がわかる事典』森下伸也(日本実業出版社), 『ジェンダー入門』加藤秀一(朝日新聞社), 『女性学・男性学』伊藤公雄/樹村みのり/國信潤子(有斐閣)

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りのためファイリングして活用してください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容をただ知識として暗記するのではなく、現実社会との関係のなかで理解するため、専門用語の図示・図解を行う演習を適宜取り入れる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ジェンダー論の基礎(1)	ジェンダーとは何か?(ジェンダー概念の誕生、ジェンダー論と学問領域、セックス/ジェンダーという二分法、知識社会学とジェンダーの社会学)について理解する
2	ジェンダー論の基礎(2)	「性」の多様性と「女らしさ/男らしさ」の形成について理解する
3	結婚・家族はどう変わったか(1)	少子化社会、近代結婚制度、結婚の意義と配偶者選択:少子化とジェンダーについて理解する
4	結婚・家族はどう変わったか(2)	男の子育て/女の子育て:ケアとジェンダーについて理解する
5	結婚・家族はどう変わったか(3)	高齢者の生活実態:ケアとジェンダーについて理解する
6	学習のまとめとワークショップ①	「ジェンダー論の基礎、結婚・家族はどう変わったか」についてまとめる
7	女の時間/男の時間(1)	アンペイドワーク、サービス経済と女性、M字型就労パターン:労働とジェンダーについて理解する
8	女の時間/男の時間(2)	非正規雇用、雇用管理、賃金格差:雇用とジェンダー:雇用とジェンダーについて理解する
9	学習のまとめとワークショップ②	「女の時間・男の時間」についてまとめる
10	学校の中のジェンダー(1)	ジェンダー・バイアス、隠れたカリキュラム:教育とジェンダーについて理解する
11	学校の中のジェンダー(2)	進路形成と進学、専攻分野の分化:教育とジェンダーについて理解する
12	マスメディアとジェンダー	メディアのなかの女性像/男性像、メディア行動、メディア産業:情報社会とジェンダーについて理解する
13	性・こころ・からだ(1)	性意識と性行動、親密性とセクシュアリティ:性とジェンダーについて理解する
14	性・こころ・からだ(2)	セクシュアリティと暴力、性の商品化:性とジェンダーについて理解する
15	学習のまとめ	「学校の中のジェンダー、マスメディアとジェンダー、性・こころ・からだ」についてまとめる

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)	科目ナンバリング	C3012L◆●009
担当者氏名	長尾 光城		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

健康を考えながらスポーツをする上で必要な知識を学習する。

《テキスト》

第2版 健康とスポーツを科学する  
 ☆これからの幸せを求めて  
 監修：長尾光城、中央法規出版

《参考図書》

必要が生じた際に紹介する。

《授業の到達目標》

健康に役立つスポーツを実践し、これからの人生に有意義にチャレンジする基礎をつくる。

《授業時間外学習》

授業で得られた知識を、自分自身と家族について考えていく。

《成績評価の方法》

筆記試験70%  
 レポート20%  
 授業中の積極的な姿勢10%

《備考》

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康とは？	健康の概念と体力から健康寿命を考える。
2	肥満	メタボリックシンドローム等について学ぶ。
3	筋・骨格系とスポーツ	筋肉と骨の基礎知識から健康との関連を考える。
4	栄養とスポーツ	食事を通しての栄養素の必要性について学ぶ。
5	サプリメント	サプリメントの位置づけを考える。
6	メンタルヘルス	こころの健康とストレスについて学ぶ。
7	スポーツとストレス	スポーツのストレス軽減効果について考える。
8	熱中症	熱中症対策について学ぶ。
9	スポーツ障害	スポーツ障害を分類し予防・再発防止について学ぶ。
10	発育期の身体活動	スポーツ活動、体力の現状を考える。
11	青年期の身体活動	今の自分自身のスポーツ状況を考える。
12	高齢期の身体活動	生活習慣病予防、介護予防の運動について学ぶ。
13	超高齢期の身体活動	スーパーオールドの身体活動から、遠い将来のヒントを探す。
14	生存の為の体力	天災時に避難する体力の必要性について考える。
15	学習のまとめ	総合評価

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	科目ナンバリング	C3011L◇●010
担当者氏名	永井 夕起子		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力		

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）  
 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

＜予習方法＞  
 シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。  
 ＜復習方法＞  
 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。ノート・レポート・テストにはコメントを付して返却する。  
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)  
 随時テーマに対するレポート提出(20%)  
 学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	②屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク等の中から1種目実施。
5	③屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
8	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
11	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
14	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	科目ナンバリング	C3011L◇●010
担当者氏名	三宅 一郎		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力		

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）  
 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

＜予習方法＞  
 シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。  
 ＜復習方法＞  
 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。ノート・レポート・テストにはコメントを付して返却する。  
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)  
 随時テーマに対するレポート提出(20%)  
 学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	②屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク等の中から1種目実施。
5	③屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
8	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
11	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
14	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	科目ナンバリング	C3011L◇●010
担当者氏名	北村 裕美		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力		

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）  
 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>

シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。

<復習方法>

実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。ノート・レポート・テストにはコメントを付して返却する。

毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)

随時テーマに対するレポート提出(20%)

学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	②屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク等の中から1種目実施。
5	③屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
8	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
11	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
14	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

科目名	日本国憲法	科目ナンバリング	C3032L◆-007
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「基本的人権の保障」「国民主権と権力の分立」「平和主義」など）について講義する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」「子どもの学習権」及び「日本の防衛と国際貢献」については、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006  
 『憲法第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法(国家の基本法)とは何か」「日本の憲法のおいたち」について理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

授業時間外学習の成果として提出を求めるレポート30%、第15週の授業時間中に実施する筆記試験70%で、成績評価を行う。  
 ※分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

法的思考を培い、現代社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義（1）	①前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。②第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義（2）	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史（1）	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史（2）	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障（1）	①「法の下での平等」原則について、また、②「雇用労働と男女の平等」「家庭生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障（2）	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障（3）	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障（4）	①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障（5）	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	「国民主権」と「権力の分立」（1）	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	「国民主権」と「権力の分立」（2）	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	「国民主権」と「権力の分立」（3）	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認するとともに、その学習成果を具体的に説明することができる。



平成29（2017）年度入学者

学科教育科目

《学科教育科目》

科目名	音楽教育A	科目ナンバリング	C3011SG G001
担当者氏名	崎元 りずみ		
授業方法	演習	単位・必修	1・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

保育現場で音楽活動を行うにあたっては、まず、楽譜に書かれている内容が理解できることが必須です。本授業では音楽の基礎である音楽理論を学びます。

《テキスト》

『やさしい楽典』（ドレミ楽譜出版社）

《参考図書》

その他、資料などは必要に応じて担当教員から指示・配布します。

《授業の到達目標》

- 音楽理論を理解し、楽譜を理解して演奏できるようになる。
- コードネームを見て伴奏づけができる。
- 律動や保育現場での音楽活動に必要なリズムが理解できる。
- 子どもの声の高さに合わせて移調ができる。
- 初見で歌ったり、演奏したりできる。

《授業時間外学習》

【復習】毎回の授業が理解できないと次の授業で更に理解できなくなります。必ず前回の授業内容を復習し理解したうえで毎回の授業を受けること。

《成績評価の方法》

平常点30% (授業中に指示する課題)  
 筆記試験70%  
 試験後解説を行い、達成度を確認する。

《備考》

1. 保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業を受ける前、受けた後の挨拶を徹底します。2. 悪い受講態度(スマホ使用、無駄話、重度な居眠りなど)は評価に反映します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	楽譜の基礎	五線、音部記号、音名(イタリア語、日本語、英語)、音高、# b ♯、異名同音 ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
2	拍子①、音の長さ①	拍子、4分の4拍子、4分の3拍子、4分の2拍子、小節、反復記号、3連符、リズム打ち、弱起の曲、タイとスラー、シンコペーション
3	拍子②、音の長さ②	拍子、8分の6拍子、8分の3拍子、付点音符、リズム打ち、リズム総復習 ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
4	音階、ハ長調、記号	音階、ハ長調の簡単なメロディーの初見奏、強弱記号、奏法記号 ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
5	主要三和音とコードネーム (ハ長調①)	I、IV、V、V7とC、F、G、G7の理解、和音の基本形と転回形、カデンツ(和声)
6	主要三和音とコードネーム (ハ長調②)	ハ長調の初見奏(和音あり、両手)、コードネーム付きメロディー譜で伴奏付け ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
7	主要三和音とコードネーム (へ長調)	へ長調の音階、I、IV、V、V7とF、B♭、C、C7の理解、へ長調の初見奏
8	主要三和音とコードネーム (ト長調)	ト長調の音階、I、IV、V、V7とG、C、D、D7の理解、ト長調の初見奏 ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
9	三和音の種類、その他のコードネーム	長三和音、短三和音、増三和音、減三和音とコードネーム、2度、3度の音程の理解
10	イ短調	イ短調の自然短音階、和声短音階、旋律短音階、イ短調の主要三和音とコードネーム ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
11	調について	調号の理解、#系の調、b系の調
12	移調	調の理解と確認、移調の方法、移調奏
13	復習①、伴奏法	音、拍子、リズムの復習、主要三和音、コードネームの復習
14	まとめ	理解の確認
15	復習②、理解度の定着	調、主要三和音、分散和音などの伴奏法

《学科教育科目》

科目名	器楽A	科目ナンバリング	C3012S◆●005
担当者氏名	田中 敬子、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子、森本 満穂子、井上 綾乃、田中 智子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> <li>◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル</li> <li>○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力</li> </ul>		

《授業の概要》

個人レッスン（ピアノ）と集団レッスン（歌）を組み合わせを行い、保育現場における音楽活動の基礎技能を身に付けます。個人レッスンでは、ピアノ曲のレパートリーを増やす他、弾き歌いができるようにします。一方、集団レッスンでは、弾き歌いの歌唱に関する部分を学習します。

《テキスト》

『標準バイエルピアノ教則本』（全音楽譜出版社）、『やさしく弾けるピアノ伴奏 保育のうた12か月』（新星出版社）その他、進度に応じた教材を担当教員が指示します。

《参考図書》

『ブルグミュラー 25の練習曲集』（全音楽譜出版社）  
『ソナチネアルバム1』（全音楽譜出版社）

《授業の到達目標》

- バイエル70番以上の曲を弾くことができる。
- 基礎的な歌唱技能を身に付けて、弾き歌いをするができる。
- ピアノ曲、歌の曲のレパートリーを多くつくる。

《授業時間外学習》

各自毎日十分な練習を行い、完成度を高くしてレッスンを受けるようにすること。

《成績評価の方法》

「グレード試験100%」。グレード試験の最終結果に基づき、点数化します。器楽Aはグレード2に合格しないと単位が出ません。\*授業時間外に別途実施されるグレード試験も必要に応じて任意で受けること。結果にコメントを付して返却します。

《備考》

15回の授業のうち1回を学生コンサートの出席で振り替える場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明、グレード試験の説明、担当教員との顔合わせ
2	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
3	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
4	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
5	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
6	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
7	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
8	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
9	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
10	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
11	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
12	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
13	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
14	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
15	期末発表	期末発表

《学科教育科目》

科目名	子どもの保健 I A	科目ナンバリング	C3012S-●013
担当者氏名	西村 美穂代		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感</li> <li>○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力</li> <li>◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> <li>○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル</li> </ul>		

《授業の概要》

子どもの保健 I Aを学ぶ意義と胎生（胎児）から青年期に至るまでの特性を理解し、胎生から子どもが健全に発育・発達・成長できるようにかかわることができるための学習であり、必要に応じてVTRを導入しながらイメージがしやすいようにする。

《テキスト》

『子どもの保健 I—心身の発達・健康と安全—』  
山崎知克 編著（建帛社）2013年11月25日

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

1. 胎生（胎児）から青年期に至るまでの、心と身体のメカニズム、および成長発達ごとの子どもの心身の健康を保持増進するための条件や方法を理解することができる。  
・毎回の講義前に前回の講義内容を復習し、解り難かったことを質問で受け付けて回答する。

《授業時間外学習》

テレビ番組の小児保健と関連する番組を視聴する。  
【ten!『めばえ』よみうりテレビ 月曜日～金曜日18:52～18:57】乳幼児の特徴や親の子どもに対する想い・関わり方を感じ取り、講義中にイメージできるようにしておくこと。

《成績評価の方法》

・学期末テスト（100%）

《備考》

ニュースや新聞での「子どもの健康」「子どもの事故」に関する記事を講義に取り入れることもあるので、着目しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの保健の意義	保育学に子どもの保健が欠かせないことが解り、健康な子ども像を明確にできる。
2	人の一生の中での小児期	人の一生の中での各小児期が解り、社会的広がり・自立への過程を理解することができる。
3	出生前期の子ども（胎児）	VTR視聴にて出生前期の成長発達の特徴が解り、成長・発達を保持増進する取り組みを理解することができる。
4	小児の特性	発達の方向性サイクルと大まかな運動発達の順序を理解することができ、説明することができる。（VTR視聴予定）
5	新生児の成長発達①	新生児の形態的・機能的・精神的成長発達を理解することができる。
6	新生児の成長発達②	新生児期の成長・発達を保持増進する取り組みを理解することができる。（VTR視聴予定）
7	乳児の成長発達①	乳児期全般の成長発達と各時期ごとの主な体の発達を理解することができる。
8	乳児の成長発達②	乳児期全般の成長発達と各時期ごとの主な心の発達を理解することができる。
9	幼児の成長発達①	幼児が健全に成長できるように幼児の成長発達を阻害する要因を理解することができる。
10	幼児の成長発達②	幼児期前期・幼児期後期の主な養護の目的と導入方法、かかわり方のポイントが解り、理解することができる。
11	乳幼児の健康管理	乳幼児の健康管理の目的、乳児・幼児の健康状態の観察項目が解る。
12	乳幼児の身体発育の評価	乳幼児が年齢に応じて発育できているか、身体発育の評価であるカウプ指数・パーセントイル値曲線を用いて説明することができる。
13	予防接種	集団での予防接種の意義が解り説明することができ、乳幼児に関係するワクチンの特徴・ワクチンの種類と感染症が理解できる。
14	小児保健行政	乳幼児を取り巻く主な行政対策が理解できる。
15	まとめ	1回目～14回目までの学習内容がどこまで理解できているかを確認する。

科目名	社会福祉	科目ナンバリング	C3031SG G019
担当者氏名	古川 督		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

社会福祉とは、広く人びとの幸せな社会生活を支援する考え方や具体的な方法、およびそれらを実現するさまざまな施策の総称である。本科目では、社会福祉の歴史や理念、法制度を学ぶことにより、社会福祉の実現にむけた担い手としての理解を深めることを目的とする。また、実践で求められる諸領域（児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉など）の基礎的知識など、保育士に必要な力を養うことを目指す。

《テキスト》

『社会福祉の基本体系（第5版）』勁草書房  
法制度の変更があるため、第5版を購入すること。

《参考図書》

授業内で適宜、紹介する。

《授業の到達目標》

- (1) 社会福祉の歴史や理念、法制度を理解する。
  - (2) 社会福祉の担い手としての知識や技術を体得する。
  - (3) 保育士に必要な諸領域の基礎的知識を身につける。
- 以上のことを通して、社会福祉にかかわる保育専門職としての価値・知識・技術を習得する。

《授業時間外学習》

具体的に指定はしないが、講義の内容をふまえて、普段から身近な福祉問題に関心を持ち、福祉の視点を育むようにすること。

《成績評価の方法》

平常点（20%）、小課題（レポートなど）（20%）、筆記試験（60%）により評価する。  
筆記試験の後に解説を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション（社会福祉の価値）	専門職として社会福祉にかかわるという将来像を見据え、多様な価値や視点がある社会福祉を学ぶ意義について理解する。
2	社会福祉の概念と理念	広く人びとの幸福を追求する社会福祉の理念や概念を理解するとともに、それを保障するための制度や支援の仕組みについて学習する。
3	社会福祉の歴史の変遷 ①：社会福祉の歴史	社会福祉が制度として確立されてきた諸外国の歴史と、その根底にある理念や特徴を学び、それが現代の社会福祉制度にどう反映されているのかを理解する。
4	社会福祉の歴史の変遷 ②：日本の社会福祉の歴史	日本における社会福祉の歴史とその社会的背景を学ぶことから、日本固有の社会福祉の特徴や価値を理解する。
5	社会福祉の支援と方法 ①：制度としての社会福祉	マクロな制度としての社会福祉の諸制度・施策やサービスについての基礎的知識を習得するとともに、社会福祉における制度と実践の相補性について理解する。
6	社会福祉の支援と方法 ②：相談援助の技術と方法	ミクロな実践としての社会福祉の支援方法や技術についての基礎的知識を習得するとともに、その根底にある価値や理論について理解する。
7	社会福祉の支援と方法 ③：権利擁護	個人の権利や意思を尊重する権利擁護の諸制度や支援体系に触れながら、社会福祉における利用者保護の仕組みについて学習する。
8	社会保障	社会保障制度の全体像を掴むとともに、とくに医療保障制度、所得保障制度についての知識を習得する。
9	社会福祉の機関と専門職の役割	社会福祉にかかわるさまざまな機関や専門職の役割を理解するとともに、その具体的な実施体系やサービス提供体制について学ぶ。
10	子ども家庭福祉	子ども家庭福祉に関する歴史や法制度（児童福祉六法など）を学習するとともに、子どもやその家族のかかえる問題を理解する。
11	高齢者福祉	高齢者福祉に関する歴史や法制度（介護保険制度など）を学習するとともに、高齢者に特徴的な問題を理解する。
12	障害者福祉	障害者福祉に関する歴史や法制度（障害者総合支援法など）を学習するとともに、障害者のかかえる問題を理解する。
13	生活困窮者福祉	生活困窮者福祉に関する歴史や法制度（生活保護制度、生活困窮者自立支援制度など）を学習するとともに、生活困窮者に特徴的な問題を理解する。
14	地域福祉	地域社会の福祉課題に対して、公私の社会福祉関係者と協力して解決を目指す地域福祉の考え方を学ぶとともに、その実現にむけた法制度や方法を理解する。
15	学習のまとめ	社会福祉を「学ぶ」意義について振り返り、学習内容が今後の専門職実践のなかでどのように反映されるのかを考察する。

《学科教育科目》

科目名	保育原理A	科目ナンバリング	C3011SG G023
担当者氏名	福田 規秀		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

今の社会に必要とされる保育について、システムや法令、歴史の変遷や現代的ニーズ等を中心として真摯に考えながら、何が子どもにとっての最善の利益なのかを、社会変化やそれに伴う保育の課題を軸に考察を深めていく。学生諸君の幼い日の経験が考える原点とも言えます。その中の何が現在の自分に影響しているのか、学びながら解き明かしていきましょう。

《授業の到達目標》

- 保育実践に必要な基礎的知識を習得する。
- 自らの保育や子どもへの想いを自覚する。
- 多様な角度から保育について考察し、子どもを理解することや保育のあり方について探求する中で、自らの子ども観・保育観の形成、向上を目指す。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（10%）と筆記試験（90%）の総合評価。課題は期限内に提出のこと。分からないことは、オフィスアワー等を利用して、聞きに来ること。提出課題、筆記試験については、講義内で講評を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業のオリエンテーション、保育の意味	保育とは何か
2	保育の意味を考える	なぜ保育が必要なのか
3	保育の場について知る	家庭－保護者の責務と限界
4	保育の場について知る	保育・教育施設－子ども・子育て支援新制度
5	保育の思想とその歴史を学ぶ	諸外国
6	保育の思想とその歴史を学ぶ	諸外国
7	保育の思想とその歴史を学ぶ	日本
8	保育の思想とその歴史を学ぶ	保育制度の成立
9	どのように保育を考え進めるべきかを考える	保育所保育指針－保育の原理
10	どのように保育を考え進めるべきかを考える	養護と教育・環境・発達過程・連携
11	どのように保育を考え進めるべきかを考える	子ども理解と保育観・倫理観
12	保育の内容を学ぶ	基本的な考え方・方法とは
13	保育の現状と課題	諸外国の現状
14	保育の現状と課題	保育のあした 保育制度の未来
15	まとめ	子どもへの想いを確認 基礎的知識の確認

《テキスト》

『新・保育原理(第3版)ーすばらしき保育の世界ー(みらい2016)』『最新保育資料集2017』森上史朗編(ミネルヴァ書房 2017)『保育所保育指針解説書』厚生労働省編(フレーベル館 2008)

《参考図書》

『フレーベルの生涯と思想』 荘司雅子著(玉川大学出版部1984), 『子どもの世界をどうみるか』 津守真著(NHKブックス1987), 『センスオブワンダー』レイチェル・カーソン著 上遠恵子訳(新潮社 1996), 『クリエイティブ進化論』道田泰司・宮元博章著秋月りす画(北大路書房 1999), 『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館 2008), 『教育・保育要領解説』(2015) またその他授業中に随時紹介する。

《授業時間外学習》

次回講義の予告を出来得る限り行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。講義中にとったメモをもとに、講義内容を自分なりの方法でノートにしっかりまとめておくこと。適宜課題を出すので真面目に取り組むこと(子どもに関する新聞記事のスクラップやネットを利用した情報収集、メディアを駆使した保育教材の探求等)。

《備考》

子どもに関し、授業で教えられるだけでなく、自分でも調べてください。また実際の子どもの観察する機会を多く持ってほしい。出席や受講態度、事前準備に気をつけること。

《学科教育科目》

科目名	社会的養護	科目ナンバリング	C3012S-●025
担当者氏名	古川 督		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心</li> <li>○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感</li> <li>○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力</li> <li>◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> </ul>		

《授業の概要》

社会的養護に関する基礎的な知識と歴史および今日的課題を理解する。現代の日本の家庭と子どもについて学び、子どもの権利を知る。また、社会的養護の制度や体系を知り、特に施設養護の実際と援助方法を学ぶ。

《テキスト》

『保育実践と社会的養護』勁草書房

《参考図書》

授業内で適宜、紹介する。

《授業の到達目標》

保育士として必要な社会的養護に関する基礎的な知識と技術を獲得し、社会的養護の歴史および今日の社会的養護の課題を理解できること。

《授業時間外学習》

社会的養護の今日的課題を理解するため、日々の新聞やニュース等からも積極的に情報を得ること

《成績評価の方法》

平常点（20%）、小課題（レポートなど）（20%）、筆記試験（60%）により評価する。  
筆記試験の後に解説を行う。

《備考》

教科書は授業、試験ともに使用しますので、必ず購入すること

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的養護の今日的課題	社会的養護が求められる社会背景について
2	社会的養護の基本原則	社会的養護における援助の原則について
3	社会的養護政策の特徴	施設養護から在宅福祉への変遷について
4	日本における子どもと家族	子育て家庭の現状や地域社会とのつながりについて
5	社会的養護の歴史①	第二次世界大戦後の子どもの養護について
6	社会的養護の歴史②	高度経済成長期以降の子どもの養護について
7	社会的養護の体系①	里親やファミリーホームなどの家庭養護について
8	社会的養護の体系②	施設や小規模グループケアなど施設養護について
9	社会的養護の体系③	在宅福祉サービスなど在宅養護について
10	社会的養護の制度	市町村や児童相談所などの社会的養護の相談機関について
11	施設養護①	乳児院、児童養護施設について
12	施設養護②	情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、母子生活支援施設などについて
13	施設養護の特質	施設養護の役割と集団での生活、保育士の役割について
14	施設養護の援助	治療的援助の方法やファミリーソーシャルワークについて
15	まとめと試験	これまでの学びの振り返りと、まとめの試験

《学科教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C3011S◆-027
担当者氏名	小林 孝子、青木 好代		
授業方法	実習	単位・必選	5・選択
		開講年次・開講期	1年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

教育実習に必要な知識や実践技能を学ぶ。見学観察実習の事前授業で、幼児の年齢による成長発達過程を理解し、遊びの内容を知り、幼児の姿をどう捉え、教師がどのようにかわるかを学ぶ。子どもを見る視点、保育を見る視点を知る。見学観察実習では現場を知り、幼児教育について理論と実践を繋げ、自分が身につけるべき知識技能を知る。記録、指導計画を書く力を付け、常に課題を持ち、参加指導実習に向け保育力をつける。

《授業の到達目標》

年齢による、身体と精神の成長発達を理解する。幼稚園での四季を通しての遊び、行事、触れ合い保育等様々な生活、遊びの内容を知り、その時々に応じた内容を考える。教師の一日の仕事、役割、援助の仕方から、幼稚園生活の流れを学ぶ。観察記録の書き方を知り、自らの課題を持つ。子どもの日々の姿から、環境構成の、子どもの活動、教師の援助を考え、指導計画作成に繋げる。

《成績評価の方法》

授業中に課する提出物 10% 授業中の発表内容、態度 20% 実習園の評価、実習ノート 70%  
 ・分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付け、授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次期の目標に反映させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	予備日	保育実習
2	予備日	保育実習
3	予備日	保育実習
4	予備日	保育実習
5	予備日	保育実習
6	予備日	保育実習
7	予備日	保育実習
8	予備日	保育実習
9	教育実習の考え方・心得 授業内容を知る。	教育実習について理解し、幼稚園教諭二種免許について知る。実習への心構えを学び、課題を持つ。幼児の前に立ち、話をする事を知り、常にその立場を考えておく。
10	教育実習の意義 見学観察実習について	幼稚園の現場への理解と見学観察実習の意味を知る。保育の教材の絵本等について理解し、読み聞かせ等をする。
11	幼稚園教育の基本 幼稚園教諭の仕事・役割	幼稚園教育要領の理解と幼児教育の基本を知る。幼稚園教諭の仕事、役割を幼児との生活を共に過ごす姿から理解する。 VTR視聴
12	幼稚園の生活を知る。 一日の流れと幼児の姿	幼児が1日の生活をどのようにしているか。1年間の生活、遊びを通し、どのような遊びがあるかを知る。3、4、5歳児の遊びを知り、心を動かす遊びを考える。
13	幼児の遊びと環境構成 幼児理解	幼児の遊びから、環境構成のあり方を知る。3、4、5歳児の成長発達の違いを知る。
14	保育を見る視点 観察実習への課題	見学観察実習で、幼稚園での保育の中で、何を観察し、どんなことを知り、どんなことを学びたいか明確に意識し、自分の課題を考える。
15	予備日	保育実習

《テキスト》

幼稚園教育要領解説、実習の手びき（授業で配布）  
 必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

適宜、授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

色々な教科の実践的な保育技術を身に付け、活かす。数多くの絵本、手遊び、子どもの好きな遊び、教材、遊び用具等を常に自分で調べ、考え、研究する。記録を書く、指導計画を書くことを意識する。子どもの楽しむことはどんなことか、保育のレパトリーをふやし、積極的に実践する。常に、ハサミ、のり、セロテープ、ホッチキス等準備し、持参する。

《備考》

実習を受ける資格条件を遵守。積極的、意欲的に授業に取組み遅刻早退欠席をしないようにする。提出物は必ず提出。授業妨害、私語、携帯電話の使用、飲食は厳禁。7週の授業計画。



《学科教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C3011S◆-027
担当者氏名	小林 孝子、青木 好代		
授業方法	実習	単位・必選	5・選択
		開講年次・開講期	1年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 <input type="radio"/> 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 <input checked="" type="radio"/> 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

参加指導実習の目的、意義を理解する。課題を持って、参加指導実習をする。幼稚園教育の目的、意義をよく理解する。年齢別に子どもの成長発達を理解する。子どもの遊びを研究し、子どもが楽しむ保育を考える。保育に参加するという目的を持ち意欲を持って臨む。知識、技能を活かし、参加指導実習で保育力を身につける。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』『実習の手びき』（授業で配布）  
必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

適宜授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

年齢による、身体と精神の成長発達を理解する。  
幼稚園の四季を通した生活、遊びを具体的に知る。  
環境構成、幼児の活動、教師の援助等を学び、実習記録の書き方を学ぶ。  
模擬保育を通して、子どもと楽しめる遊びを考え、実践力をつける。

《授業時間外学習》

図書館等で数多くの絵本、紙芝居に接し実践に活かす。保育雑誌などから保育の教材の研究をする。色々な教科で身に付いたことを実践に活かし、子どもが楽しむ事はどのようなことか常に考えておきましょう。身近に園児の遊ぶ姿から、四季の遊びを知り、自然物に興味を持つ。常にハサミ、のり、テープ、ホッチキス等準備をし、持参する。

《成績評価の方法》

授業中に課する提出物 10% 授業中の発表内容、態度 20%  
実習園の評価・実習ノート 70%  
・分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。  
授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《備考》

教育実習を受ける資格条件を理解し、遵守する。提出物は必ず提出し、積極的に発表し意欲を持って授業に臨む。授業の妨害、私語、携帯電話の使用、飲食は厳禁。(8週の指導計画)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	予備日	保育実習
2	予備日	保育実習
3	予備日	保育実習
4	予備日	保育実習
5	予備日	保育実習
6	予備日	保育実習
7	予備日	保育実習
8	見学観察実習で学ぶ課題と観察の視点	見学観察実習で学びたいことを明確にする。 幼稚園の生活を知る。
9	参加指導実習園の把握	参加指導実習園を選択し、実習をさせていただく園を決める。 園を訪問する時のマナー、言葉使いを考える。
10	幼稚園の年間行事を知る。	1年間の幼稚園の生活を知り、行事について考え、そのあり方、工夫や方法を知る。 DVD視聴
11	観察記録の書き方を知る。	幼稚園教育過程から、年、期、月、週、日の指導計画を知る。それにより、日々の保育の内容、ねらいがあることを知る。
12	指導計画の書き方を知る。	幼稚園の周辺、園庭、保育室から環境構成と記録の書き方を学ぶ。 準備物、教材、遊具、用具、配置、数量等の環境構成を知る。
13	指導案の書き方を知る。	保育環境によってどのように幼児が活動し、どのように心身の発達や成長が有り、学びがあるか、幼児の姿の捉え方と、記録を書く事を学ぶ。 DVD視聴
14	指導案の書き方を知る。	幼児の姿、活動から、教師のかかわりや援助の仕方を学び教師の意図、思いを汲み取る事の重要性を学ぶ。観察記録にどのように表現して教師の援助を書くかを学ぶ。
15	幼児が楽しむ指導案を考える。	観察記録を書く事から、1つのクラス活動としての遊びの指導計画を書く。ねらい、内容、保育の展開を考え、自分の指導計画を作成し、説明をする。

《学科教育科目》

科目名	保育実習 I 《保育所実習》	科目ナンバリング	C3011S-●028
担当者氏名	山村 けい子、古門 貞美		
授業方法	実習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	1年・通年(I期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力		

《授業の概要》

保育所の生活に積極的に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、それぞれの施設の機能や保育士の職務内容についても、より一層、理解を深める。

《テキスト》

特に決まったものはありません。実習中に自分で探すこと

《参考図書》

各教科や保育実習指導で使用した教科書、参考書、配布物等自分で書き留めたノート、自分で調べたり、体験したことを参考にし、実習先の先生方にも紹介をもらう。

《授業の到達目標》

- ① 保育所の役割や機能について理解を深める。
- ② 計画に基づく指導実習等を通して子どもへの理解を深める。
- ③ 実施した保育や実習記録から省察や自己評価を的確に行う。
- ④ 子どもの実態に即した指導計画を立案する。

《授業時間外学習》

積極的に保育現場を訪問し、子どもとの出会いを経験する。遊びのレポーターを増やしておく。体調管理等実習に臨む気持ちを高める。実習ノーマルとは丁寧を書く。素直な態度で臨むこと。

《成績評価の方法》

実習園の評価に「保育実習指導 I」の受講状況を加味したもの(60%)、実習ノート(40%)。なお、保育実習 I は、保育所2週間の実習をクリアしないと単位認定されない。実習ノートから各学生の成果と課題を明確にする。

《備考》

実習期間中のアルバイトは禁止。欠席等は、実習園と大学に連絡をすること。保育内容については実習園の指示に従うこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育所（園）見学観察実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
3	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
4	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
5	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
6	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
7	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
8	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
9	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
10	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
11	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
12	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
13	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
14	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
15	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照

《学科教育科目》

科目名	保育実習 I 《保育所実習》	科目ナンバリング	C3011S-●028
担当者氏名	山村 けい子、古門 貞美		
授業方法	実習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	1年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力		

《授業の概要》

保育所の生活に積極的に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、それぞれの施設の機能や保育士の職務内容についても、より一層、理解を深める。

《テキスト》

「保育実習指導」の授業でのレジュメ

《授業の到達目標》

- ① 保育所の役割や機能について理解を深める。
- ② 計画に基づく指導実習等を通して子どもへの理解を深める。
- ③ 実施した保育や実習記録から省察や自己評価を的確に行う。
- ④ 子どもの実態に即した指導計画を立案する。

《参考図書》

『幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイドー知りたいときにすぐわかる』同文書院  
 『学びつづける保育者をめざす実習の本ー保育所・施設・幼稚園』萌文書林

《授業時間外学習》

積極的に保育現場を訪問し、子どもとの出会いを経験する。遊びのレパトリーを増やしておく。体調管理等実習に臨む気持ちを高める。実習期間中のアルバイトは禁止。実習ノートは丁寧に書くこと。態度は素直が一番。

《成績評価の方法》

実習園の評価に「保育実習指導 I」の受講状況を加味したもの(60%)、実習ノート(40%)

なお、保育実習 I は保育所2週間の実習をクリアしないと単位認定されない。

《備考》

実習中アルバイトは禁止。健康管理に気をつける。欠席等は、実習園と大学に連絡すること。保育内容については、実習園の指示に従うこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育所(園)見学観察実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2	保育所(園)見学観察実習	詳細は実習要項参照
3	保育所(園)見学観察実習	詳細は実習要項参照
4	保育所(園)見学観察実習	詳細は実習要項参照
5	保育所(園)見学観察実習	詳細は実習要項参照
6	保育所(園)見学観察実習	詳細は実習要項参照
7	保育所(園)見学観察実習	詳細は実習要項参照
8	保育所(園)見学観察実習	詳細は実習要項参照
9	保育所(園)見学観察実習	詳細は実習要項参照
10	保育所(園)見学観察実習	詳細は実習要項参照
11	保育所(園)見学観察実習	詳細は実習要項参照
12	保育所(園)見学観察実習	詳細は実習要項参照
13	保育所(園)見学観察実習	詳細は実習要項参照
14	保育所(園)見学観察実習	詳細は実習要項参照
15	保育所(園)見学観察実習	詳細は実習要項参照

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導 I 《保育所実習》		科目ナンバリング	C3011S-●029
担当者氏名	山村 けい子、古門 貞美			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 1年・通年(I期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感</li> <li>○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力</li> <li>◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> </ul>		

《授業の概要》

「保育実習 I」（保育所見学観察実習 11月2週間）に必要な手続きについて指導するほか、実習の意義・目的、具体的な内容・方法・心構え、実習後の自己評価やそれに基づく新たな課題の発見などについて、「保育実習 I」のための事前・事後指導を行います。

《授業の到達目標》

[事前指導] 保育実習の意義・目的・内容・方法等を理解する。守秘義務や人権の尊重等実習中の留意事項や心構え、自らの実習課題について理解する。

[事後指導] 実習を総括、自己評価し、新たな学習課題を発見するとともに、保育実習 II に備える。

《成績評価の方法》

この授業は、実習の取り決めに基づいて出席を原則とする。事前指導60%、事後指導40%の比率で、受講態度や提出物、書類の作成状況等に基づき評価する。提出物は期限を守ること。最終的な成績は、施設実習に関する「保育実習指導 I」の評価を加え評価する。レポート等は、コメントを付けて返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育実習とは	保育実習についての全体像を把握する。
2	保育所の概要	保育所の概要と実習の様子を視聴覚教材を通して学ぶ。
3	保育実習等希望受付け	保育所実習希望受付け。内諾について説明を聞き、各自が必要な書類等を作成する。
4	保育所の機能	保育所の施設設備、機能の概要について理解をし、地域での役割を学ぶ。
5	保育士の職務内容	保育士の職務内容・職業倫理について学び、保育士と子どもとのかかわり等についても理解をする。
6	保育所での乳幼児の姿	乳幼児の姿を視聴覚教材で学び、子どもの発達・生活・遊び等の理解に努める。
7	実習中の留意事項	実習中の留意事項（守秘義務・人権の尊重等）について学ぶことにより、子どもや他者との関係づくりに役立てる。
8	実習課題 実習記録①	実習課題の作成をする。 実習記録① 実習記録の意義について学ぶ。
9	実習課題 実習記録②	実習記録② 例題等を参考にしながら、実習記録が適切に書けるように努める。
10	教育実習指導	予備日とする。
11	教育実習指導	予備日とする。
12	教育実習指導	予備日とする。
13	教育実習指導	予備日とする。
14	教育実習指導	予備日とする。
15	教育実習指導	予備日とする。

《テキスト》

開 仁志著 (2015) 『実習日誌の書き方』一藝社

《参考図書》

久富陽子著 (2002) 『実習に行くまえに知っておきたい保育実技』萌文書林

厚生労働所編 (2015) 『保育所保育指針解説書』

《授業時間外学習》

日頃から子ども達の生活や・遊びに興味や関心を持つように心がける。自分の得意なことを見つけておく。実習で役に立つような絵本を図書館で探したり、おもちゃ等を調べて準備しておく。

《備考》

欠席・遅刻・早退の場合は、必ず実習事務室へ連絡をすること。講義時は保育所の実習と考え、出席をすること（服装、態度）。講義中に行う実技演習は積極的に行うこと。

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導Ⅰ《保育所実習》		科目ナンバリング	C3011S-●029
担当者氏名	山村 けい子、古門 貞美			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				1年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感</li> <li>○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力</li> <li>◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> </ul>			

《授業の概要》

「保育実習Ⅰ」（保育所見学観察実習 11月2週間）に必要な手続きについて指導するほか、実習の意義・目的、具体的な内容・方法・心構え、実習後の自己評価やそれに基づく新たな課題の発見などについて、「保育実習Ⅰ」のための事前・事後指導を行います。

《授業の到達目標》

[事前指導] 保育実習の意義・目的・内容・方法等を理解する。守秘義務や人権の尊重等実習中の留意事項や心構え、自らの実習課題について理解する。

[事後指導] 実習を総括、自己評価し、新たな学習課題を発見するとともに、保育実習Ⅱに備える。

《成績評価の方法》

この授業は、実習の取り決めに基づいて出席を原則とする。事前指導60%、事後指導40%の比率で、受講態度や提出物、書類の作成状況等に基づき評価する。提出物は期限を守ること。最終的な成績は、施設実習に関する「保育実習指導Ⅰ」の評価を加え評価する。レポート等は、コメントを付けて返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習課題・配属園の地図	実習課題を清書する。配属園の地図を作成し、保育実習への意欲向上に努める。
2	実習記録について	保育実習記録について、その意義や書き方を再度学び、理解を深める。
3	実習の準備①	健康診断・実習ノート・証明写真について説明を受け、各自がしなければならないことを把握する。
4	実習の準備②	実習園でのオリエンテーションについて（電話のかけ方、オリエンテーション記録）巡回カード記入方法を学ぶ。
5	実習の準備③	細菌検査の重要性を知る。そして保育士の在り方を学ぶ。
6	実習のための事前学習	事前学習（実習でよく使われる漢字・穴埋問題等）を行い、正しい文章表現ができるような力量をつける。
7	実習中の留意事項	実習中の留意事項（守秘義務・人権の尊重等）について再度深く学び、子どもの理解につなげる。
8	指導案について	指導案について内容を理解し、適切に書くトレーニングをする。
9	教育実習指導	予備日とする。
10	教育実習指導	予備日とする。
11	教育実習指導	予備日とする。
12	教育実習指導	予備日とする。
13	教育実習指導	予備日とする。
14	教育実習指導	予備日とする。
15	教育実習指導	予備日とする。

《テキスト》

開 仁志著（2015）『実習日誌の書き方』一藝社

《参考図書》

久富陽子著（2002）『実習に行くまえに知っておきたい保育実技』萌文書林

厚生労働所編（2015）『保育所保育指針解説書』

《授業時間外学習》

日頃から子ども達の生活や・遊びに興味や関心を持つように心がける。自分の得意なことを見つけておく。実習で役に立つような絵本を図書館で探したり、おもちゃ等を調べて準備しておく。

《備考》

欠席・遅刻・早退の場合は、必ず実習事務室へ連絡をすること。講義時は保育所の実習と考え、出席をすること（服装、態度）。講義中に行う実技演習には積極的に参加すること。

《学科教育科目》

科目名	保育の心理学 I	科目ナンバリング	C3011SG G034
担当者氏名	杉田 律子		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

保育を行う上では子どもの発達を理解することが不可欠である。保育の心理学 I では、人間の生涯にわたる発達過程の理解を目標とし、誕生から死に至るまでの人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。また、発達のみずみについて理解することも目標とする。

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』厚生労働省編  
 『やさしく学ぶ保育の心理学 I・II』浜崎隆司ら編 ナカニシヤ出版

《参考図書》

『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学』岡本依子ら著 新曜社 2004

《授業の到達目標》

○保育実践に関わる心理学の知識を習得すること。○子どもの発達に関わる心理学の基礎的事項を理解すること。○子どもが人をはじめとする周囲の環境との相互作用を通して成長していく過程を理解すること。○人間の生涯発達の過程と、発達における初期経験の重要性を理解すること。○発達障がいについて正しく理解すること。○発達観さらには子ども観・保育観を涵養すること。

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる新聞報道に注目するなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深める努力をしてください。また、保育所見学やボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に増やしてください。まずは、自分の言語表現力を高める努力から始めて下さい。

《成績評価の方法》

15回目を行う試験の評価 70%  
 授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組みの評価 30%  
 試験終了後解説を行い、学習理解を深める。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておくこと。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育と心理学	心理学とはどのような学問か、保育における発達の理解の重要性について、そして「保育の心理学 I」ではどのような内容を学ぶのかについて解説する。
2	発達とは何か	心理学の歴史の流れを理解する。人間が発達するとはどういうことなのか、発達のイメージを明確にする。人間発達の多面性について理解する。
3	発達をささえる遺伝と環境	人間はなぜ発達することができるのかという根本的な問いを設定し、遺伝と環境という2つの観点から発達に影響を与える要因について理解する。
4	さまざまな発達理論	ハヴィガースト、エリクソンなどの発達理論の概要を理解し、各発達段階の課題について理解する。
5	胎生期の発達の特性と発達上の諸問題	胎児期の発達の特徴と発達上の諸問題について理解する。また、大脳生理の基礎的事項、出生前検診の概要を知り、理解を深める。
6	乳児期の発達の特性と発達上の諸問題①	赤ちゃんに生まれつき備わっている様々な特徴と生後1年までの赤ちゃんの発達について学ぶ。
7	乳児期の発達の特性と発達上の諸問題②	運動面、情動面、言語面などに焦点を当てて、乳児の発達の特性と発達上の諸問題について学ぶ。
8	幼児期前期の発達の特性と発達上の諸問題	自我の芽生え、自己意識の形成などに焦点を当てて、幼児の発達の特性と発達上の諸問題について学ぶ。
9	幼児期後期の発達の特性と発達上の諸問題	認知・思考の発達、社会性の発達などに焦点を当てて、幼児の発達の特性と発達上の諸問題について学ぶ。
10	児童期の発達の特性と発達上の諸問題	児童期の発達に関して、仲間関係、学校生活の問題に焦点を当てて児童期の発達の特性について学ぶ。
11	青年期の発達の特性と発達上の諸問題	青年期の発達に関して、アイデンティティの確立に焦点を当てて、青年期の発達上の諸問題について学ぶ。
12	成人期の発達の特性と発達上の諸問題	成人期の発達に関して、職業人としての社会性の発達について学ぶ。また、親としての成長をテーマにして保護者支援の方向性についても学ぶ。
13	老年期の発達の特性と発達上の諸問題	老年期の発達に関して、定年後の社会や家族との関係に焦点を当てて、心理的諸問題について学ぶ。
14	子どもの発達における諸問題	自閉症、ADHDなどの発達障害について、保育者として最低限身につけるべき事柄について学ぶ。
15	学習のまとめ	1回目から14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験(60分)を行う。試験の解説(30分)により理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	青年心理学	科目ナンバリング	C3012S-0038
担当者氏名	杉田 律子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

子どもから大人への過渡期である青年期の心理の特性を、自我、自己意識の発達や自己形成という観点から理解するとともに、家庭に潜む心の問題、学校や社会への不適応、就職など社会参加を目前にした情緒不安など、青年期に特有な心理的な諸問題について理解し、青年の自立と成長の支援とは何かについて考える。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。プリントをまとめるファイルを用意すること。

《参考図書》

授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

- ・青年期のさまざまな問題行動の背景にある心理を理解できるようになる。
- ・施設保育者として必要な、青年期の人々に特有な心理的な諸問題について理解できる。
- ・青年期の人々の悩みや問題に向き合うことができる
- ・青年期の人々の悩みや問題について、相談に乗ったり解決への支援ができる。

《授業時間外学習》

授業中に紹介した文献や新聞などを自ら進んで読み、授業内容について理解を深めてもらいたい。また、ボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に持ってください。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート課題の評価 70%  
 授業への取り組みの評価 30%  
 レポート課題について全体的な講評を行う。

《備考》

グループで取り組む課題を出すので能動的に学習に取り組むこと。また、グループ内で協働する力を身につけること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	青年心理学への導入	授業の進め方の概要。保育者が青年心理学を学ぶ意義について青年期の特徴について 青年期の課題について
2	青年期のとらえ方 青年心理学の研究法	青年期の特徴について理解を深める（生物学的現象 文化的現象 通過儀式） 発達心理学の研究手法について理解を深める（実験法 テスト法 事例研究法）
3	青年期前期の心的特性①	青年期前期の心的特性について理解を深める 自我の覚醒 自我の構造と機能 自己概念の形成 内面化
4	青年期前期の心的特性②	青年期前期の心的特性について理解を深める 不安定性 第二性徴 思春期発育 生活空間 共有世界と個有世界
5	1～4講の学習のまとめ	1～4講で学んだことをレポートにまとめ（60分）、課題を解説（30分）し、理解を深める。発達心理学の基礎的事項 自我の発達 青年期の特徴 青年前期の特徴
6	青年期中期の心的特性①	青年期中期の心的特性について理解を深める 自我の高揚 理想主義 価値観 第2の反抗 異議申し立て 英雄的反抗 虚勢的反抗
7	青年期中期の心的特性②	青年期中期の心的特性について理解を深める 形式的操作期 理性と感情 少年の病理 反社会的行動 非社会的行動 向社会的行動
8	青年期後期の心的特性①	青年期後期の心的特性について理解を深める 自我の拡充 現実との妥協 再衛星化 リーウェイ現象
9	青年期後期の心的特性②	青年期後期の心的特性について理解を深める 生活設計の開始 職業観 キャリア意識 キャリア設計 結婚観
10	6～9講の学習のまとめ	6～9講で学んだことをレポートにまとめ（60分）、課題を解説（30分）し、理解を深める。自我発達 キャリア形成 青年期の病理
11	青年期後期の心的特性③	青年期後期の心的特性について理解を深める 社会的人格の形成 エリクソンの斬成説
12	青年期後期の心的特性④	青年期後期の心的特性について理解を深める アイデンティティ（自我同一性）の確立と拡散 モラトリアム
13	青年期後期の心的特性⑤	青年期後期の心的特性について理解を深める アイデンティティ（自我同一性）に関する心理検査を通して自己分析
14	青年から大人へ	青年期から成人期への移行におけるトピックスについて理解を深める 結婚 家族の形成 社会的責任 人格の変容
15	11～14講の学習のまとめ	11～14講で学んだことをレポートにまとめ（60分）、課題を解説（30分）し、理解を深める。 アイデンティティ（自我同一性）の確立と拡散 自己分析

《学科教育科目》

科目名	保育課程総論	科目ナンバリング	C3011SG G042
担当者氏名	三宅 美由紀、春 豊子		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

教育・保育課程の意義を十分に理解し、理論と実践をつなぐことが出来るように、基礎的な知識を習得する。実際の保育を視聴覚機器を通して視聴し、保育に対する基本を理解した上で、子どもの主体性を尊重する指導計画の作成について理解することを目的とする。さらに、保育を巡る今日的課題を新聞やニュースなどから察知し、子どもや保育に関する様々な専門的知識を習得し保育の実践力を養う。

《テキスト》

『保育課程論』  
北野 幸子 編著 北大路書房

《参考図書》

『幼稚園教育要領』 文部科学省、  
『保育所保育指針』 厚生労働省、  
『認定こども園教育・保育要領解説』

《授業の到達目標》

- 教育課程・保育課程の全体構造や具体的な編成等を知る。
- 保育を巡る諸課題を情報収集し、保育に対する基本を理解した上で、子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する指導計画の作成を考える。
- 保育者の専門性を明確にし、保育者の役割と保育の計画性の関係について学ぶ。

《授業時間外学習》

- (1) 次回の授業範囲を予習しておくこと。特に教科書をよく読んでおくこと。
- (2) 適宜課題を出すので、その課題について深く考えたり、調べたりしてまとめること。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討議や発表などへの参加・態度と成果10%
- (2) レポート課題等の提出物30%
- (3) 筆記テスト60%

《備考》

・幼稚園・保育所・認定こども園などに関する情報（新聞、ニュースなど）を常に意識して収集しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション保育とは何か	授業の目的、内容、方法、評価について知る。「保育とは何か」について考え、幼児時代を振り返ることで授業への興味・関心・意欲を持つ。
2	教育課程・保育課程の意義	教育課程や保育課程の編成と、指導計画や保育の展開との関係について説明することができる。
3	幼児期の遊びと学び	なぜ、幼児期の遊びが大切なのかを説明することができる。
4	保育内容の変遷と教育課程	日本の保育の歴史において保育計画の考え方がどのように変遷してきたのか、まとめることができる。
5	幼稚園における教育課程(1)	1956年から2008年までの幼稚園教育要領における教育課程の編成についての考え方を説明することができる。
6	幼稚園における教育課程(2)	幼稚園の教育課程と保育所の保育課程の共通点と相違点について説明ができる。
7	保育所における保育課程	保育所の子どもの1日の生活と幼稚園の子どもの生活と比べ、違うところはどんなことか、また、その違いから、必要な保育上の配慮事項について説明することができる。
8	教育課程・保育課程の編成と実際	さまざまな園の教育課程・保育課程から、それぞれの園の特性がどのように表れているか調べて説明することができる。
9	教育課程・保育課程の実施と指導計画作成(1)	教育課程・保育課程と指導計画の関係について説明することができる。
10	教育課程・保育課程の実施と指導計画作成(2)	長期の指導計画と短期の指導計画の関連について説明することができる。
11	幼稚園における指導計画作成の実際	毎日の「日案」の記録をどのように「週案」に生かしていくかを説明することができる。
12	保育所における指導計画作成の実際	長期の指導計画立案する際に保育所や地域の実態、園の乳幼児の実態をどのような視点で把握したらよいかを考えることができる。
13	保育における評価	保育におけるさまざまな評価について説明ができる。(幼稚園・学校評価、教育課程の評価、日々の保育の評価)
14	教育課程・保育課程の課題と展望	本講義で学んできたことをもとに、自分が考える教育課程・保育課程について論じることができる。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知見とその成果を保育実践の場で生かすことができる。



科目名	保育内容総論	科目ナンバリング	C3012S◆●043
担当者氏名	青木 好代		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

《授業の概要》

- ・乳幼児のより良い成長発達を願って幼児理解や発達理解、保育者の援助等について学ぶとともに保育することの総合的な内容について理解する。
- ・教材演習（手遊びや絵本、折り紙等）を行い保育技術を培う。

《授業の到達目標》

《授業の到達目標》

- ・保育をするということの総合的な内容について理解する。
- ・幼児理解や保育者の援助の重要性、遊びの中の学びについて具体的な事例や演習を通して理解し、説明することができる。
- ・様々な教材演習をしたり、模擬保育を経験したりして、保育することへの期待感をもつ。

《成績評価の方法》

- 筆記試験 40%
- 課題レポート 40%
- 受講態度 20%

・オフィスアワー等で質問を受け、必要に応じて個別の指導を行う。また、授業の到達目標に対して全体の講評を行う。

《テキスト》

《テキスト》

生活事例から始める『保育内容総論』  
神蔵幸子・宮川萬寿美編著 青踏社

《参考図書》

《参考図書》

『幼稚園教育要領』文部科学省  
『保育所保育指針』厚生労働省  
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』  
内閣府・文部科学省告示第1号・厚生労働省  
『保育内容総論』光生館

《授業時間外学習》

《授業時間外学習》

- ・身近な乳幼児の行動を観察し、親しみの気持ちをもったり、ほほえましさを感じたりする。
- ・授業で学んだことを振り返り、まとめておく。
- ・模擬保育に必要な教材の選択と実施のための練習をする。

《備考》

《備考》

保育に役立つ演習や講義を中心に進める。受講者の前向きな姿勢で多くを吸収し、保育に活かせることを願う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方と、授業計画及び受講態度について共通理解を図る。
2	保育の基本と保育内容	幼稚園教育要領、保育所保育指針における保育内容について理解する。
3	幼稚園・保育所・認定こども園の比較	幼稚園、保育所、認定こども園の保育内容や管轄、法令等の違いを理解する。
4	子どもの発達と保育①	乳幼児の発達の過程について理解を深める。
5	子どもの発達と保育②	月齢・年齢による子どもの発達の姿を知る。
6	領域と幼児理解	五領域と幼児理解について学ぶ。
7	幼児期の遊びと学び	遊びを通して子どもは何を学ぶのかを考察する。
8	子どもの遊びと指導計画①	「発達の壁を乗り越える」4歳児の発達の特徴について学ぶ。
9	子どもの遊びと指導計画②	「育ちあい、学び合う」就学へつないでいく保幼小連携について学ぶ。
10	子どもの生活と保育	保育の1日の流れを理解し、その指導方法や保育の形態を知る。
11	保育内容の変遷	明治から現在に至るまで、それぞれの時代の社会的背景の影響を受けて変化してきた保育内容の歴史の変遷を学ぶ。
12	環境を通して行う保育	環境を通して行う保育とはについて学ぶ。
13	「命を守る」とは	震災を通して命の大切さを学ぶ。
14	保育の多様な展開	子どもの発達と社会の要求に即した保育の工夫や様々な事情を持つ子どもの保育について学ぶ。
15	授業のまとめ	授業の振り返り

科目名	保育内容・言葉	科目ナンバリング	C3012S◆●047
担当者氏名	金谷 公子、藤井 恵子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

言葉の機能と、乳幼児の言葉の獲得のプロセスを学ぶ。  
 乳幼児は日常生活の中で、人とかかわりを通してどのように言葉を獲得していくのか。その過程を実践事例から見ていき、乳幼児の言葉を育む保育者としての力を養う。  
 言葉を使ってものを認識し想像力や創造力が育つ、その指導方法について事例を通して具体的に学ぶ。

《授業の到達目標》

・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の領域「言葉」のねらいと内容を理解し、言葉の発達について理解する。また乳幼児が言葉を獲得する過程のなかで、一人一人の発達に応じた適切な援助を理解するとともに、言葉による自己表現を豊かにしていくための保育者の役割を理解し実践力を身に付けていく。  
 ・言葉の発達に際して特別の配慮を要する子どもへの援助やその保護者への支援のあり方について理解する。

《成績評価の方法》

- 筆記試験 50%
- 課題への取り組み（創作絵本） 20%
- 授業や演習への参加意欲と態度 30%
- レポートにはコメントをつけて返却する。

《テキスト》

『保育と言葉』 嵯峨野書院 2013

《参考図書》

- 『幼稚園教育要領解説』
- 『保育所保育指針解説書』
- 『演習 保育内容 言葉』 戸田雅美 建帛社 2014
- 『事例で学ぶ保育内容 言葉』 無藤 隆 萌文書林

《授業時間外学習》

・子どもとかかわる機会を作り、乳幼児期の子どもの「言葉」について興味を持ち、「言葉」の発達について理解を深めるように意識する。  
 ・多くの絵本等に親しみ、絵本のレポーターを増やすとともに自らの言葉を豊かにしていく努力をする。

《備考》

- ・皆が気持ちよく受講できるように受講マナーを守る。
- ・課題については定められた期間で取り組み提出する。
- ・テキストは資料と並行して活用するため毎回持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション領域「言葉」のねらいと内容	○講義の概要 ○履修上の注意 ○授業の進め方 ○絵本の読み聞かせの意義について理解する。
2	保育の基本と保育内容「言葉」	保育内容「言葉」のねらいと内容を理解し、保育者の役割を知る。
3	乳幼児期の言葉の発達	乳児期の「言葉」の発達段階と他者とかかわりを知る。
4	幼児期の言葉の発達	幼児期の「言葉」の発達段階を知り、生活や遊びのなかの「言葉」を理解する。
5	自分の考えや思いを伝えるための言葉	言語的コミュニケーションとしての「言葉」を理解し実践する。
6	体験と言葉	乳幼児期の体験が「言葉」に及ぼす影響を知り、自身の乳幼児期を振り返る。
7	保育内容「言葉」の指導計画と評価	「言葉」に関する指導計画を立て、保育をシミュレーションする。
8	保育内容「言葉」と保育実践（1）保育所	保育所における「言葉」の具体例を学び、保育者の援助についても理解を深める。
9	保育内容「言葉」と保育実践（2）幼稚園	幼稚園における「言葉」の具体例から子ども同士の「言葉」のやりとりや保育実践の留意点を学ぶ。
10	発達障害のある子どもに対する「言葉」の支援	発達障害についての理解を深め、特別支援教育について学ぶ。
11	小学校における「言語活動充実」実践	小学校における言語活動について学び、保育所・幼稚園との連携を考える。
12	これからの幼児教育の課題と保育内容「言葉」	保育環境をとりまく現状と今後の課題について考える。
13	創作絵本発表会（1）	自作の創作絵本を学友の前で読み聞かせ、保育実践を行う。
14	創作絵本発表会（2）	自作の創作絵本を学友の前で読み聞かせ、保育実践を行う。
15	まとめ	学習内容の再確認と「保育内容言葉」の学びについて具体的に説明することができる。

科目名	保育方法論	科目ナンバリング	C3012S◆-050
担当者氏名	福田 規秀		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

保育のあり方や具体的な課題を、事例等との関連の中でともに考え理解を深めていく。そして子どもたちが充実し、しかもその時期にふさわしい園生活を送れるような保育環境や保育指導の方法について、学生間で意見を出し合い、それを実践に結びつける方策について考察を進めていく。また環境構成については具体的な遊具や視聴覚教材を提示し、その利用法や新たな活用法についても理解を深められるようにする。

《授業の到達目標》

- 過去の知見や現代的な事例に触れながら考察する中で、保育方法についての基本的な考えと自分なりの実践の方法が示せる。
- 主体的に活動する子どもを援助し、子どもと一緒に保育を創る方法について、いろいろなアイデアが出せる。
- 自らの子ども観、保育観を向上させ、実習で得た課題へのヒントを見いだすことが出来る。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（10%）と筆記試験（90%）の総合評価。課題は期限内に提出のこと。  
 分からないことは、オフィスアワー等を利用して、聞きに来ること。  
 提出課題、筆記試験については、講義内で講評を行う。

《テキスト》

『幼児教育の方法』小田豊・青田倫子編著（北大路書房 2009）  
 『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館 2008）

《参考図書》

『専門家の知恵』ドナルド・ショーン著 佐藤学・秋田喜代美訳（ゆみる出版 2005）、『マインド・ストーム』シモア・ハート著 奥野貴世子訳（未来社 1995）、『幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』文部科学省（チャイルド本社 2005）、『幼稚園教育指導資料第4集 一人一人に応じる指導』文部科学省（フレーベル館 2006）、その他授業中に随時紹介する。

《授業時間外学習》

次回講義の予告を出来得る限り行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。メモ等に基づき、講義内容を自分なりの方法でノートにまとめておくこと。適宜課題を出すので真面目に取り組むこと（実習で出会った遊具についてのレポート、小さい頃に居心地のよかった場所についてのイメージ表現や保育実践を見ての感想等）。

《備考》

子どもとメディアについて柔軟な思考で対応できること。講義に持参した遊具等は積極的に触る。グループワークへの積極的な参加、適切な出席・受講態度・事前準備を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業のオリエンテーション、保育方法とは	保育方法といっても特定の方法がある訳ではない
2	環境を通しての保育	豊かな学びを保障する環境構成
3	遊びを通しての保育	遊びをはぐくむ環境
4	幼児の主体的な生活と保育	意図的・計画的な保育
5	保育者の役割	活動の理解者 援助者 モデル
6	遊びから学びを育む保育	感じる 気付く
7	遊びから学びを育む保育	友だちと関わる 共通の課題に向って
8	プロジェクトアプローチとチーム保育	レッジョ・エミリアの実践
9	保育における評価	リフレクション 記録 保育カンファレンス
10	小学校教育との連携	互惠性 継続性
11	家庭や地域との連携	保護者とのパートナーシップ
12	カウンセリングマインド	積極的な関心 傾聴 受容 ケアリング
13	保育に活かす遊具・視聴覚・情報メディア	子どものいうことを聞く遊具
14	保育に活かす遊具・視聴覚・情報メディア	表現の可能性 創造の可能性 コミュニケーションの可能性
15	まとめ	自分の想いの再確認 事例への具体的な対応

《学科教育科目》

科目名	社会的養護内容	科目ナンバリング	C3012S-●051
担当者氏名	藤本 政則		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

乳児院や児童養護施設等の入所型、生活型児童福祉施設における生活やそこで生活する子どもたちについて正しく理解する。またそのような子どもたちへのケアのあり方についても学び、援助者としての保育士の役割についても理解する。特に近年深刻化する児童虐待問題に関する内容に重点を置きたい。

《テキスト》

なし。レジュメ等の資料を適宜配布する。

《参考図書》

『新保育士養成講座 第5巻 社会的養護』全国社会福祉協議会

《授業の到達目標》

児童養護施設を中心とした子どもたちの生活と援助の実際について理解すると共に、児童福祉施設の住宅支援など新たな機能について視野を広める。

《授業時間外学習》

毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。  
授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《成績評価の方法》

1. 授業態度、授業内討論への参加、授業レポート（40%）  
2. 筆記試験（単位取得に必要な知識等を評価）（60%）  
授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《備考》

各講義の開始時に出席の確認を行うため、始業時間を厳守すること。  
授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家庭や社会の役割	今日の子育て家庭をめぐる現状を理解する。
2	社会的養護を必要とする子どもたち①	子どもが育つ環境としての社会の現状を理解する。
3	社会的養護を必要とする子どもたち②	子どもが育つ環境としての社会の現状を理解する。
4	児童虐待とは①	児童虐待の定義や実態を学ぶ。
5	児童虐待とは②	児童虐待の発生要因について考える。
6	児童虐待への対応①	児童虐待への対応の全体像を理解する。
7	児童虐待への対応②	児童虐待への対応における初期対応（発見・通告）を理解する。
8	児童虐待への対応③	児童虐待への対応における初期対応（通告・通知）を理解する。
9	児童虐待への対応④	児童虐待への対応における児童相談所の役割（調査・診断）を学ぶ。
10	児童虐待への対応⑤	児童虐待への対応における児童相談所の役割（一時保護・施設入所）を学ぶ。
11	虐待を受けた子どもの特徴	虐待を受けた子どもの心理行動的特徴を理解する。
12	虐待を受けた子どもの施設ケア①	児童養護施設等における虐待を受けた子どもへの施設ケアのあり方を理解する。
13	虐待を受けた子どもの施設ケア②	児童養護施設等における虐待を受けた子どもへの施設ケアの実際を学ぶ。
14	虐待を受けた子どもの施設ケア③	虐待を受けた子どもの家族再統合の為の支援や社会的自立支援のあり方について理解する。
15	学習のまとめ	これまでの授業の振り返りを行い、社会的養護の課題について考える。

《学科教育科目》

科目名	乳児保育A	科目ナンバリング	C3011S-●052
担当者氏名	鈴木 富美子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

1. 児童の発達について基本的な知識・理論を学ぶ。
2. 乳児保育の実施機関である保育所・乳児院・家庭的保育について知り、その保育内容を学ぶ。
3. 乳児保育の歴史・現状・課題を学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・援助活動の基礎となる乳児の発達の道すじを理解する。
- ・保育所・乳児院・家庭的保育の違いから目的や役割を理解する。
- ・乳児保育の歴史を知り、乳児保育が社会の流れと共に変遷していることを理解する。

《成績評価の方法》

筆記試験（60％）、作品・レポート（20％）、積極性・集中度・調和（20％）  
 ※レポート及び作品にはコメントをつけて返却する

《テキスト》

『乳児の生活と保育』ななみ書房 共著  
 『保育所保育指針』

《参考図書》

『乳児保育新時代』ひとなる書房 乳児保育研究会編  
 『乳児保育I 演習と講義』金子保 クオリティケア  
 『発達がわかれば子どもが見える』ぎょうせい  
 『見直そう子育て 立て直そう生活リズム』エイゼル研究所

《授業時間外学習》

- ・演習課題については必ず作成し提出する。
- ・地域社会や身近な環境において乳児の姿を観察する。
- ・教科書の指定した範囲は必ず読み、用語や意味を調べてくる。

《備考》

- ・皆が気持ちよく学習できるように受講マナーを守る。
- ・明確な理由のない遅刻・欠席・早退は厳重にチェックをする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、履修上の諸注意 乳児の概念（赤ちゃんとの出会い＝ベビー人形）
2	乳児保育の概念	乳児保育とは何か（乳児保育の内容）
3	乳児保育の歴史	保育所と幼稚園 —時代の流れと共に変遷する乳児保育—
4	乳児保育の発達I	0歳児前半期の発達の道すじと特徴 （新生児～6ヶ月まで）
5	乳児保育の発達II	0歳児後半期の発達の道すじと特徴 （6ヶ月～1歳半まで）
6	乳児保育の発達III	1歳児の発達の道すじと特徴
7	乳児保育の発達IV	2歳児の発達の道すじと特徴
8	乳児保育の一体	保育所・乳児院・家庭的保育での一日の過ごし方 （それぞれの施設の違いと役割）
9	乳児への保育者の関わり	0歳児～2歳児における保育者の関わり （発達に応じた援助活動のあり方）
10	基本的な生活習慣獲得と保育	基本的な生活習慣（食事・排泄・睡眠・着脱・衛生）の獲得の道すじ
11	乳児保育と計画I	保育計画の構造と内容
12	乳児保育と計画II	計画立案・実践・評価・反省 記録について
13	乳児の養護環境と乳児保育の課題	家庭の養護環境、家庭への支援活動 地域や関係機関との連携
14	乳児のおもちゃ	乳児用おもちゃの製作
15	学習のまとめ	授業の理解度を測る筆記試験

平成28（2016）年度入学者

学科教育科目

《学科教育科目》

科目名	音楽教育B	科目ナンバリング	C3022S◆○002
担当者氏名	崎元 りずみ		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

音楽教育Bでは、器楽合奏で使う打楽器や鍵盤楽器などの奏法や、保育現場での活用法を学習します。また、合奏を通し、合奏指導法や、指揮法も学びます。

《テキスト》

『やさしく弾けるピアノ伴奏 保育の歌12か月』  
(新星出版社)

《参考図書》

その他、資料等は必要に応じて配布します。

《授業の到達目標》

- 楽器の基本的な知識及び奏法を理解し、演奏することができる。
- 楽器を使った音遊び、アンサンブル、合奏指導ができる。
- 保育者自身の音楽表現力及び実践力を向上させる。

《授業時間外学習》

授業で取り扱った曲は、各自復習しておくこと。

《成績評価の方法》

筆記試験70%  
平常点(授業中に指示する課題)30%  
試験後解説を行い、達成度を確認する

《備考》

保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業の前後の挨拶を徹底します。15回のうち1回を学生コンサートに振替え、授業内容の順番を変更する場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	拍・リズムパターン	基本のリズム打ち・8ビート・ワルツ・チャチャチャ・サンバのリズム
2	リズム楽器①	リズム楽器の基礎的知識・奏法・活用法(カスタネット・鈴・タンブリン)
3	リズム楽器②	リズム楽器の基礎的知識・奏法・活用法(トライアングル)
4	リズム楽器③ 合奏①	リズム楽器の基礎的知識・奏法・活用法(ギロ・ウッドブロック・マラカス) 合奏練習①
5	打楽器① 合奏②	打楽器の奏法(小太鼓・大太鼓・シンバル) 合奏練習②
6	打楽器② 合奏③	打楽器の奏法(木琴・鉄琴・グロッケン) 合奏練習③
7	鍵盤楽器① 合奏④	鍵盤ハーモニカの指導法 合奏練習④
8	指揮法 合奏⑤	2・3・4拍子の指揮法 合奏練習⑤
9	曲の構成 合奏⑥	曲の構成や形式 合奏練習⑥
10	合曲想を生かした表現 合奏⑦	合奏における、曲想を生かした表現方法 合奏練習⑦
11	合奏発表	練習した曲を発表
12	編曲・アンサンブル①	子どもの歌をリズム合奏曲に編曲
13	編曲・アンサンブル②	編曲した曲をグループで発表
14	まとめ	理解度の確認
15	まとめ 日本の伝統楽器	学習内容の定着 和太鼓を使ったリズム遊び

《学科教育科目》

科目名	器楽B	科目ナンバリング	C3021S◆〇006
担当者氏名	田中 敬子、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子、森本 満穂子、井上 綾乃、田中 智子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

「器楽A」に引き続き、個人レッスン（ピアノ）と集団レッスン（歌）を組み合わせを行い、保育現場における音楽活動の基礎技能をさらに高めます。個人レッスンではピアノ曲のレパートリーを増やす他、弾き歌いができるようにします。集団レッスンでは、弾き歌いの歌唱に関する部分を学習します。

《テキスト》

器楽Aと同じ  
 ピアノが上達した場合は、バイエル→ブルグミュラー→ソナチネと進む（担当教員の指示を受けること）

《参考図書》

『標準バイエルピアノ教則本』（全音楽譜出版社）  
 『ブルグミュラー25の練習曲集』（全音楽譜出版社）  
 『ソナチネアルバム1』（全音楽譜出版社）

《授業の到達目標》

- ブルグミュラー程度以上の楽曲が弾けるようになる。
- 弾き歌いの伴奏が余裕を持ってできるようになる。
- 表現豊かな歌唱ができるようになる。
- ピアノ曲、歌の曲のレパートリーを多く作る。

《授業時間外学習》

各自毎日十分な練習を行い、完成度を高くしてレッスンを受けるようにすること。

《成績評価の方法》

「グレード試験100%」。グレード試験の最終結果に基づき点数化します。「器楽B」はグレード5を合格しないと単位が出ません。\*授業時間外に別途に実施されるグレード試験も、必要に応じて任意で受けること。結果はコメントを付して返却します。

《備考》

保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業を受ける前、受けた後の挨拶を徹底します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業内容、グレード制の説明、担当教員との顔合わせ
2	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
3	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
4	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
5	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
6	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
7	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
8	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
9	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
10	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
11	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
12	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
13	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
14	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
15	期末発表	期末発表



《学科教育科目》

科目名	造形A	科目ナンバリング	C3021SG G007
担当者氏名	柳楽 節子		
授業方法	演習	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> <li>◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル</li> <li>○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力</li> </ul>		

《授業の概要》

子どもの成長において造形遊びは重要な役割を担っているといえます。子どもの創造力は遊びを通して育まれます。造形遊びの楽しさを子ども達に伝えるには、保育者自身が造形の楽しさを知っていなければなりません。この演習では造形の基礎となる描写力、色彩の知識、画面構成力を養うためにさまざまな課題を準備し、受講生が作品制作を楽しみながら、自身の得意な領域を発見できることをめざします。

《授業の到達目標》

子どもの心の動きを感じ取りながら、造形遊びを楽しいものとして伝えることができる。子どもの作品に魅力を見いだすことができる。作品を制作するそれぞれの子ども達に対し、適切な言葉をかけることができる。造形遊びのための材料や用具をよく知り、正しく使うことができる。

《成績評価の方法》

○評価方法については提出作品（100％）で成績評価を行います。  
○提出された作品への批評とアドバイスを、適宜授業のなかで全体と個別の両方で行います。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

授業内容に応じて紹介します。

《授業時間外学習》

・描写のための画材や色面構成に使用する雑誌等、事前に連絡のあった準備物は時間外に調査・購入すること。

《備考》

・授業終了後の片付けは、指示に従い各自が丁寧にすること。  
・課題提出が遅れそうな場合は、担当教員に申し出ること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教員の自己紹介 授業計画の説明	担当教員の作品制作活動と造形に対する考え方を知り、これからの授業計画を理解する。
2	描写ー1（植物）	観察したものを描写するための視点を理解し、鉛筆の使い方と効果を体験する。
3	描写ー2（植物）	観察したものを描写するための視点を理解し、鉛筆の使い方と水彩絵の具の効果を体験する。
4	描写ー3（立方体）	シルクスクリーンで立方体の展開図を刷り、組み立てた後、鉛筆でデッサンする。立体描写・遠近法の考え方を理解する。
5	描写ー4（立方体）	画面構成と線・面の捉え方を理解し、描く事を体験する。
6	描写ー5（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方と効果、画面構成を体験する。
7	描写ー6（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方と効果、画面構成を体験する。
8	描写ー7（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方と効果、画面構成を体験する。
9	描写ー8（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方と効果、画面構成を体験する。
10	色彩の知識	テキストを使い説明を受けた後、カラーペーパーを貼り、色彩の基礎的な知識を理解する。
11	色面構成ー1	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
12	色面構成ー2	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
13	色面構成ー3	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
14	色面構成ー4	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
15	色面構成作品集制作	作品集としてまとめ、表紙を作成し、提出する。作品集として残す意味を理解する。

《学科教育科目》

科目名	造形A	科目ナンバリング	C3021SG G007
担当者氏名	岩見 健二		
授業方法	演習	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

子どもが絵を描きものを創るという行為は、とりもなおさず[心]を造形することであり、成長過程の中で重要な位置を占めている。子どもの[心]を的確に受け止め、生き生きと創作活動に打ち込めるようにするには、まず保育者自身が豊かな感性を持たなければならない。その為にも保育者が創作体験を持っていることが大切な要素になる。楽しく創作体験を重ねることで、材料経験を豊富にし、感覚を磨いてほしい。

《授業の到達目標》

自らの感性を磨くことにより、子どもの[心]を的確に受け止め、感性豊かな子どもを育てることが出来る。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

適宜指示する。

《授業時間外学習》

毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

《成績評価の方法》

- ・ 作品評価（100%）
- ・ 作品制作の中で、個別に作品評価し助言を行う。

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	クロッキー	短時間に 線だけで人物の動きを表現することができる。
3	鉛筆デッサン	遠近・立体感・明暗・質感などの要素を理解し、正確に物体を表現することができる。
4	鉛筆デッサン	遠近・立体感・明暗・質感などの要素を理解し、正確に物体を表現することができる。
5	鉛筆デッサン	遠近・立体感・明暗・質感などの要素を理解し、正確に物体を表現することができる。
6	水彩画（静物）	色彩豊かに 静物を表現することができる。
7	水彩画（静物）	色彩豊かに 静物を表現することができる。
8	水彩画（静物）	色彩豊かに 静物を表現することができる。
9	水彩画（静物）	色彩豊かに 静物を表現することができる。
10	色彩指導	色彩の三属性（色相・明度・彩度）を理解し、色彩についての科学的な知識を身につける。
11	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
12	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
13	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
14	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
15	子供の絵の見方	実際の子供の絵を鑑賞し、子供の感性をのびのびと伸ばすにはどのような助言が望ましいかを理解することができる。

《学科教育科目》

科目名	造形B	科目ナンバリング	C3022S◆○008
担当者氏名	柳楽 節子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

この演習では、造形の基礎から応用へと発展させる課題を設定し、受講生が作品制作を行うことによって、造形力と発想力を鍛えることを目標とします。さまざまな素材と技法を体験し、考え、試みることで、造形あそびへの興味と理解を深め、受講生がやがて保育の現場に役立てることができる経験となる授業をめざします。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

授業の必要に応じて紹介します。

《授業の到達目標》

自然や日常生活のなかに造形のヒントを探し出す視点が持てる。子どもの発達段階に応じた造形遊びの計画を立てることができ、その場に必要材料・用具を準備することができる。子どもの成長と造形遊びに関連する情報収集を自主的に行うことができる。

《授業時間外学習》

・各授業時に、必要な事前準備及び授業後の補足作業について指示を行います。作品制作のための準備物や資料等は時間外に調査・購入すること。

《成績評価の方法》

○評価方法については提出作品（100％）で成績評価を行います。  
 ○提出された作品への批評とアドバイスを、適宜授業のなかで全体と個別の両方で行います。

《備考》

・授業終了後の片付けは、指示に従い各自が丁寧にすること。  
 ・課題提出が遅れそうな場合は担当教員に申し出ること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業計画説明	授業計画と目標を理解する。
2	変身！被り物制作ー1	キャラクターを作り出すために、イメージを段階的に形にする方法を理解する。
3	変身！被り物制作ー2	さまざまな素材を使い、被り物制作を計画し、実行することができる。
4	変身！被り物制作ー3	さまざまな素材を使い、被り物を制作することができる。
5	変身！被り物制作ー4	さまざまな素材を使い、被り物を制作することができる。
6	変身！被り物制作ー5	完成した作品を作者が被り、演じる場面を写真に撮影し、制作の意図と効果を説明することができる。
7	立体作品制作ー1	設定されたテーマに添って、作品制作の意味と目的を理解し、制作の計画を立てることができる。イメージからラフスケッチを作成し、プランを絞り込むことができる。
8	立体作品制作ー2	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
9	立体作品制作ー3	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
10	立体作品制作ー4	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
11	立体作品制作ー5	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
12	立体作品制作ー6	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
13	立体作品制作ー7	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
14	作品撮影と展示効果の説明	完成作品を写真撮影し、作品の展示効果について理解することができる。
15	作品提出とまとめ	すべての作品を提出する。園における造形についての考え方と役割について、理解することができる。

《学科教育科目》

科目名	造形B	科目ナンバリング	C3022S◆○008
担当者氏名	岩見 健二		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

とらわれない心を持つ幼児の表現を理解するには、自らも豊かな感性を磨かなければならない。身近な材料を駆使し、既成概念にとらわれない斬新な作品を制作してほしい。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

適宜紹介。

《授業の到達目標》

自らの感性を磨くことにより、子どもの[心]を的確に受け止め、感性豊かな子どもを育てることが出来る。

《授業時間外学習》

毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

《成績評価の方法》

- ・ 作品評価（100%）
- ・ 作品制作の中で、個別に作品評価し助言を行う。

《備考》

特になし。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	影絵アイデアスケッチ	楽しい影絵劇の上演を目指してグループ分けをし、題材・制作分担等を話し合うことができる。
2	影絵制作	カッターナイフの正しい使い方を知り、グループの計画に従って登場人物等を制作することができる。
3	影絵制作	カッターナイフの正しい使い方を知り、グループの計画に従って登場人物等を制作することができる。
4	影絵制作	カッターナイフの正しい使い方を知り、グループの計画に従って登場人物等を制作することができる。
5	影絵制作	カッターナイフの正しい使い方を知り、グループの計画に従って登場人物等を制作することができる。
6	影絵上演	分担を決め、楽しい影絵を上演することができる。
7	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
8	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
9	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
10	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
11	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
12	壁画制作	明るく楽しい保育室にする為、子どもたちと保育者が協力して制作することを念頭に、個性豊かな壁画を制作することができる。
13	壁画制作	明るく楽しい保育室にする為、子どもたちと保育者が協力して制作することを念頭に、個性豊かな壁画を制作することができる。
14	壁画制作	明るく楽しい保育室にする為、子どもたちと保育者が協力して制作することを念頭に、個性豊かな壁画を制作することができる。
15	壁画制作	明るく楽しい保育室にする為、子どもたちと保育者が協力して制作することを念頭に、個性豊かな壁画を制作することができる。

《学科教育科目》

科目名	幼児体育A	科目ナンバリング	C3021SG G009
担当者氏名	永井 夕起子		
授業方法	演習	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

運動技能の発達が心身へもたらす影響について理解し、保育における運動遊びの意義を学ぶ。  
子どもたちが主体的に運動に取り組むことのできる環境や支援のあり方について考える。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- ・ 幼児期における身体活動、運動遊びの意義を理解する。
- ・ 基本的な運動技能を身につける。
- ・ 運動遊びの方法を体得し、実践上の留意点について考えることができる。

《授業時間外学習》

授業内容を再確認し、ノートにまとめる。ボランティアに参加するなどして、子どもの興味や動きの特徴について日ごろから観察する習慣をつける。

《成績評価の方法》

受講態度45%、提出物35%、発表20%。  
発表の後、講評を行い自らの達成度を確認する。

《備考》

動きやすい服装で参加する。体育館シューズ忘れは欠席と同等の減点とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と受講上の注意。幼児の発育発達の特徴と運動遊びとの関係について理解する。
2	からだ気づき	色々な体の使い方を体験し、自分の身体についての認知を深める。
3	パディを組んで遊ぶ	2人組で競争したり協力したりして遊ぶ。
4	仲間づくりの遊び	自然と仲間と仲良くなれる遊び。
5	仲間と協力して遊ぶ	複数人で力を合わせて遊ぶ。
6	縄を使った遊び	縄を使った遊びを行う。縄の使い方を考える。
7	フラフープを使った遊び	フラフープを使って遊ぶ。使い方を考える。
8	季節の遊び	季節をモチーフにした遊びの方法と意義について考える。
9	伝承遊び	昔から行われている遊びの方法と意義について考える。
10	ボールを使った遊び	投げる遊び。ボール遊びの種類と技能の発達過程について理解する。
11	新聞を使った遊び	新聞紙を使って遊ぶ。新聞紙を利用した遊びを考える。
12	運動遊びの計画	グループごとに新しい運動遊びを考案する。実践計画を立てる。
13	遊びの発表	考案した遊びを発表する。遊びの方法や援助の仕方について評価する。
14	遊びの発表	考案した遊びを発表する。遊びの方法や援助の仕方について評価する。
15	遊びの発表とまとめ	運動遊びにおける援助や展開の方法に関する理解について確認する。

《学科教育科目》

科目名	幼児体育B	科目ナンバリング	C3022S◆●010
担当者氏名	永井 夕起子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

運動技能の発達が心身へもたらす影響について理解し、保育における運動遊びの意義を学ぶ。  
子どもたちが主体的に運動に取り組むことのできる環境や支援のあり方について考える。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- ・ 幼児期における身体活動、運動遊びの意義を理解する。
- ・ 基本的な運動技能を身につける。
- ・ 運動遊びの方法を体得し、実践上の留意点について考えることができる。

《授業時間外学習》

授業内容を再確認し、ノートにまとめる。ボランティアに参加するなどして、子どもの興味や動きの特徴について日ごろから観察する習慣をつける。

《成績評価の方法》

受講態度45%、提出物35%、発表20%。  
発表の後、講評を行い自らの達成度を確認する。

《備考》

動きやすい服装で参加する。体育館シューズ忘れは欠席と同等の減点とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と受講上の注意。
2	運動能力調査	幼児の運動能力調査の測定方法と実施における注意事項について理解する。
3	体操・バランス遊び	1人技を体得する。
4	体操・バランス遊び	2人技を体得する。
5	体操・バランス遊び	複数人で力を合わせて体操演技をする。
6	体操演技を創作する	技を組み合わせ作品をつくる。
7	体操演技の発表	体操演技の作品をつくり発表する。
8	パラバルーンを使った遊び	パラバルーンの使い方について知り、遊び方を考える。
9	サーキット遊び	色々な動きを連続して行う遊ぶ方法について知る。サーキットのコースを考える。
10	ニュースポーツ	ニュースポーツ概念について理解し、子どもができるニュースポーツを知る。
11	ニュースポーツ	幼児ができるニュースポーツの種類について知る。
12	おもちゃ作って遊ぼう	身近にある道具を使っておもちゃを作って遊ぶ。
13	おもちゃ作って遊ぼう	作ったおもちゃを発表する。
14	おもちゃの作り方と使い方のまとめ	考案した遊びを発表する。遊びの方法や援助の仕方について評価する。
15	遊びの発表とまとめ	運動遊びにおける援助や展開の方法に関する理解について確認する。

《学科教育科目》

科目名	子どもの保健 I B	科目ナンバリング	C3021S-●014
担当者氏名	西村 美穂代		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

子どもの保健 I A で学習した乳幼児の発育・発達の特徴を想起しながら、乳幼児に起こりやすい病気・症状・事故についての理解を深めると共に、子どもの異変時に『子どもたちの命を守る』的確な判断と対応が行えるようになるための学習であり、必要に応じてVTRを導入しながらイメージがしやすいように展開していく。また、施設などにおける乳幼児の健康と安全管理が理解できるようにする。

《授業の到達目標》

1. 乳幼児特有の病気・症状の理解ができ、その予防と対応方法及び事故に対する安全対策・事故時の対応が行え、常に『危機管理』がのしかかっていることを理解することができる。  
 ・毎回の講義前に前回の講義内容を復習し、解り難かったことを質問で受け付けて回答する。

《成績評価の方法》

- ・VTR視聴後に課すレポート（10%）：コメントして返却
- ・学期末テスト（90%）

《テキスト》

子どもの保健 I A で使用したテキストを使用するため購入不要  
 『子どもの保健 I 一心身の発達・健康と安全一』  
 山崎知克 編著（建帛社）2013年11月25日

《参考図書》

その都度紹介する。

《授業時間外学習》

テレビ番組の小児保健と関連する番組を視聴する。  
 【NHK教育テレビ『すくすく子育て』土曜日21:00～21:29】  
 乳幼児が病気になった時の状態を知り、その対応方法を観て授業時にその病気と対応方法が想起できるようにしておくこと。  
 ※番組テーマは、毎週異なる。

《備考》

園児たちに『命の大切さ』を教えてほしいと願う思いから、病気の授業では『難病に罹り死にゆく子ども』のビデオを視聴する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの病気の特徴	発達段階ごとの病気の特徴とその病気の症状・対応について理解できる。
2	保育者のかかわり	病気をもった子ども・健康な子どもへの保育者の対応・役割が解るようになる。
3	学校において予防すべき伝染病	感染症と伝染病の定義が解り『学校において予防すべき伝染病』の感染症の種類と出席停止期間の基準がわかる。
4	子どもによくみられるアレルギー	子どもによくみられるアレルギー性の病気とアレルギーを起こす病気が解り、その対応と予防ができるようになる。
5	子どもによくみられる痙攣	子どもによくみられる痙攣の病気が解り、その対応と予防ができるようになる。
6	子どもによくみられるウイルス・細菌感染	子どもによくみられるウイルスによる感染症とウイルス・細菌による食中毒の病気が理解できて、現場でその対応・予防ができるようになる。
7	施設などでの衛生管理	施設などでのウイルス・細菌感染症の取り扱いが解り、二次感染を予防することの重要性が理解できる。
8	子どものさまざまな病気	子どもによくみられる骨・関節の病気・耳の病気・皮膚の病気・泌尿器の病気・心臓の病気が解り、その対応・予防ができるようになる。
9	子どもの精神保健	乳幼児期によくみられやすい『こころ』の病気と発達障害が理解でき、その対応と予防、及び保育者へのかかわり方が解る。
10	VTR視聴による学習	子どもによくみられる小児がんの病気を理解するために『白血病』に罹患した幼児のVTR視聴をし、その幼児の状態やおもいがわかるようになる。
11	保育現場での事故の種類	保育現場でのインシデント・アクシデント事例から、危険・事故防止・安全教育における保育者の役割が解る。
12	保育現場における事故防止・安全対策	子どもの発達段階ごとの事故の特徴とその種類が解り、子どもへの安全教育の重要性が理解でき、子どもに安全教育・指導ができるようになる。
13	子どもの救急処置①	保育所で起こった、けが・鼻出血・やけど・溺水・窒息を紹介しながら、それらの対応がわかる。
14	子どもの救急処置②	保育所で起こった熱中症の事例を紹介し、なぜ、熱中症が予防できなかったのか？をディスカッションし、熱中症の原因・症状・予防がわかる。
15	まとめ	『子どもの健康』が理解できているかを確認する。

《学科教育科目》

科目名	子どもの食と栄養 A	科目ナンバリング	C3021S-●016
担当者氏名	廣 陽子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感</li> <li>○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力</li> <li>◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> <li>○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル</li> </ul>		

《授業の概要》

子どもの食生活は、健全な心身の発育・発達をするため、また、正しい食習慣を確立するためにも大切である。子どもの食と栄養 A では、食物の栄養や摂取方法および調理方法を理解し、子どものみならず学生自身も正しい食生活を営むことができるようにする。それに加え、子どもや保護者への援助・指導できるように重点をおく。授業はテキストを中心に講義と演習、実習を交え学習を行う。

《テキスト》

『新しい時代の保育者養成 子ども食と栄養』  
進藤容子編、あいり出版 2015

《参考図書》

五訂増補食品成分表2015 女子栄養大学出版 2017

《授業の到達目標》

自身の健康維持をするための栄養の知識や食事摂取基準の概要及び食品の使用方法などの理解をし、これらの知識を踏まえ献立作成ができる。また、これらの知識を子どもの発育と発達にあわせて、「乳幼児期に適した食生活」として考えることができる。

《授業時間外学習》

多くの知見を覚える必要があるため、日頃から復習を大切に  
する。

《成績評価の方法》

- (1) 授業態度を含むグループ学習への協力と参加：20%
- (2) レポート・課題提出：20%（提出遅れは減点となる）
- (3) 試験：60%（試験は持ち込み不可とする）
- (4) フィードバックの内容・方法：学習のまとめの時間に難解なところを解説する

《備考》

毎日の食事内容や食習慣を意識しながら、生活を送るように心がける。学習したことは、正しい食習慣に役立て、実践する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの食と栄養	「子どもの食と栄養」についての全体の学習内容や学習方法の概要を理解する。
2	子どもの健康と食生活	子どもの心身の健康や食生活について学習し、今後の学習をする意義について理解する。
3	体のしくみと栄養 (1)	食べ物が消化・吸収されるしくみや代謝を理解し、栄養の生理について学習する。
4	体のしくみと栄養 (2)	食欲のしくみについて理解し、「食べる」ことを考えることができる。
5	栄養素の働き (1)	栄養の考え方を理解し、糖質・たんぱく質の働きを学習する。
6	栄養素の働き (2)	脂質・ビタミン・無機質・水分の働きを学習する。
7	食事摂取基準と食品 (1)	どれだけの栄養素や食品を摂取すると健康を維持できるかを学習する。
8	食事摂取基準と食品 (2)	食事摂取基準と食品 (1) を踏まえ、食事バランスガイドを理解し活用する。
9	献立と調理 (1)	調理の基本を理解し、食品の組み合わせを考える。また、食の安全についても学習する。
10	献立と調理 (2)	食品の目安量を習得する。
11	献立と調理 (3)	献立と調理 (1) (2) で学習したことを踏まえ、献立作成を行う。
12	献立と調理 (4)	献立と調理 (3) で作成した献立を実際に調理し、その手順・技術を確認する。
13	子どもの発育・発達と食生活 (1)	子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。
14	子どもの発育・発達と食生活 (2)	子どもの発育・発達から栄養状態の評価を客観的に評価する方法を理解する。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容を理解し、自身の知見として習得されているか確認する。



科目名	子どもの食と栄養B	科目ナンバリング	C3022S-●017
担当者氏名	廣 陽子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感</li> <li>○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力</li> <li>○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> <li>◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル</li> </ul>		

《授業の概要》

子どもの食生活は、健全な心身の発育・発達をするため、また、正しい食習慣を確立するためにも大切である。子どもの食と栄養Bでは子どもの食と栄養Aで学んだ知識をいかしながら、各年齢での食事摂取や食生活を演習を通して学習し、「子どもの発達過程と食」についての具体的な知識と技術の習得をねらいとする。また、保育所・幼稚園での食育について考える。

《授業の到達目標》

「子どもの発達過程と食」についてのイメージがもて、栄養の知識を確実なものとする。また、具体的に幼児への食指導、食の援助ができるようになる。

《テキスト》

『新しい時代の保育者養成 子ども食と栄養』  
進藤容子編、あいり出版 2015

《参考図書》

『授乳・離乳の支援ガイド 実践の手引き』  
柳澤正義 監修、財団法人 母子衛生研究会、2008  
『五訂増補食品成分表 2015』 女子栄養大学出版 2017

《授業時間外学習》

多くの知見を覚える必要があるため、日頃から復習を大切に  
する。

《成績評価の方法》

- (1) 授業態度を含むグループ学習への協力と参加：20%
- (2) レポート・課題提出：20%（提出遅れは減点となる）
- (3) 試験：60%（試験は持ち込み不可とする）
- (4) フィードバックの内容・方法：学習のまとめの時間に難解なところを解説する

《備考》

普段から乳幼児への関心を持ち、特に食事や生活に興味をもつこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	乳児期の心身の発達と食生活 (1)	授乳の意義と食生活について理解する。また、妊婦や授乳婦の食生活についても学習する。
2	乳児期の心身の発達と食生活 (2)	離乳の意義と離乳方法について理解する。
3	乳児期の心身の発達と食生活 (3)	乳児期の心身の発達と食生活 (1) (2) で学習したことを踏まえ、実際に調乳をする。
4	幼児期の心身の発達と食生活 (1)	幼児期の食生活の特徴を理解し、食事の援助について学習する。
5	幼児期の心身の発達と食生活 (2)	幼児期の心身の発達と食生活 (1) を踏まえ、間食の献立作成を行う。
6	幼児期の心身の発達と食生活 (3)	幼児期の心身の発達と食生活 (2) で考えた幼児の間食を実際に調理する。
7	乳幼児期の問題と解決 (1)	幼稚園教諭・保育士として乳幼児期の食生活での問題と解決法について学習する。
8	乳幼児期の問題と解決 (2)	幼稚園教諭・保育士として乳幼児期の食生活での問題と解決法について学習する。また、保護者の悩みも考え、支援につなげる。
9	食育の基本と内容	家庭・幼稚園・保育所などでの乳幼児への食育の考え方・方法等を学習する。
10	食育の実際 (1)	食育の基本と内容で学習したことを踏まえ、食育活動の計画を作成する。
11	食育の実際 (2)	食育の実際 (1) で作成した食育活動計画を発表する。
12	食育の実際 (3)	食育の実際 (1) で作成した食育活動計画を発表する。
13	子どもの食事と栄養の実際	家庭・幼稚園・保育園・児童福祉施設での食事と栄養について学習する。
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食物アレルギーや疾病及び体調不良の子どもへの対応、障がいのある子どもへの対応を学習する。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容を理解し、知見として得られているか再確認し、具体的に保育現場で応用できる。

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C3011S◆-027
担当者氏名	小林 孝子、青木 好代		
授業方法	実習	単位・必選	5・選択
		開講年次・開講期	2年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

教育実習に必要な知識や実践技能を身につける。見学観察実習事前授業では、学ぶべき課題を見つける。幼稚園教育の目的、意義をよく理解する。幼児理解をする。幼児の遊びを研究し、幼児が楽しむ保育を考える。見学観察実習の目的、意義を知り、現場で知識を得る。参加指導実習に向けて保育する力をつける。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』『実習の手びき』授業で配布  
必要に応じプリントを配付する。

《参考図書》

適宜、授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

幼児を見る視点、教師の動きから意図すること、思いなどを読み取る力をつける。環境構成、幼児の活動、教師の援助等の実習ノートの書き方を学び書くことができる。幼児へのかかわり方など保育技術を学ぶ。幼児の遊びを常に考え、共に楽しむ遊びは何か、それを保育内容としてそのように指導計画を立てるかを考え、作成する力を持つ。保育者としてのより良い資質を身につける。

《授業時間外学習》

絵本の読み聞かせ、手遊び、リズム遊び、ピアノで歌唱指導など授業で学んだことを力にして実践に活かす。図書館などで数多く絵本に接し、幼児の前で読む絵本を選ぶ。保育雑誌で実際に役立つ遊びや教材を研究する。動くおもちゃ、折り紙、幼児が楽しむものを制作し実習に役立てるように準備しておく。常に、ハサミ、のり、セロテープ等準備し持参。

《成績評価の方法》

授業中に課する提出物 20% 授業中の発表内容、態度 10%  
実習園の評価・実習ノート 70%  
・分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付け、授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次期の目標に反映させる。

《備考》

教育実習を受ける資格条件を理解し、遵守する。積極的に発表をし、意欲を持って授業に取り組む。遅刻早退しない。授業の妨害、私語、携帯電話の使用、飲食は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習の心得と観察実習の意義	教育実習の資格条件を理解し遵守する。見学観察実習の意義を知り、課題を持つ。
2	実習録の書き方	実習園の組織、園舎内外の環境、教育目標等の教育課程を学び、実習ノートに記入する。
3	実習録の書き方	一日の観察の記録をどのように書くか、観察のポイントが説明できる。幼児の活動と教師の援助の書き方を知り、記録の方法を説明する。
4	実習録の書き方	環境構成の書き方を学ぶ。幼児が活動しやすい環境について知る。使用する用具、教具、教材を学ぶ。
5	実習直前指導	実習中の心得、諸注意、配布物、持参するもの等リーダーが説明する。実習生の園での姿など、DVDを視聴し、具体的な行動、言葉の使い方を知る。
6	観察実習の反省と課題自己評価	見学観察実習の反省をし、自ら課題を見つけることができるグループで実習を振り返り、問題点を討議し、これからの学びに繋げる。
7	参加指導実習の目的と意義	参加指導実習の目的と意義について学び、部分実習、研究保育を検討する。
8	参加指導実習の心得と準備	参加指導実習においての実習生の心得と準備の検討を重ね、保育する立場として、何を身につけるか検討する。 DVD視聴
9	幼稚園教育課程 3歳児指導計画	幼稚園教育課程を理解し、3歳児の保育を考え、四季や時期の指導計画を検討する3歳児の成長発達を知り、生活、遊びを考え、保育に活かす方法を説明する。
10	幼稚園教育課程 4歳児指導計画	幼稚園教育課程を理解し、4歳児の保育を考え、四季や時期の指導計画を検討する3歳児の成長発達を知り、生活、遊びを考え、保育に活かす方法を説明する。
11	幼稚園教育課程 5歳児指導計画	幼稚園教育課程を理解し、5歳児の保育を考え、四季や時期の指導計画を検討する3歳児の成長発達を知り、生活、遊びを考え、保育に活かす方法を説明する。
12	指導計画作成と実践相互学習①	相互学習の中で、グループで模擬保育をしながら、実践力を身につける指導計画を立てる。自分たちで考えた保育内容とし、進め方の検討や課題を話し合う。
13	指導計画作成と実践相互学習②	相互学習の中で、グループで模擬保育をしながら、実践力を身につける指導計画を立てる。自分たちで考えた保育内容とし、進め方の検討や課題を話し合う。
14	指導計画作成と実践相互学習③	相互学習の中で、グループで模擬保育をしながら、実践力を身につける指導計画を立てる。自分たちで考えた保育内容とし、進め方の検討や課題を話し合う。
15	相互学習の反省と課題	相互学習①～③で学んだこと、課題などをどのように参加指導実習の各自の部分保育、研究保育に活かすか、指導計画を作成し、説明する。

《学科教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C3011S◆-027
担当者氏名	小林 孝子、青木 好代		
授業方法	実習	単位・必選	5・選択
		開講年次・開講期	2年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

教育実習に必要な知識や実践技能を身につける。見学観察実習での経験を活かし、学ぶべき課題を見つける。幼稚園教育の目的、意義をよく理解する。幼児理解をする。子どもの遊びを研究し、子どもが楽しみ、学ぶ保育内容を工夫と創造をする。教育的効果を考えながら指導計画が作成できるようにする。模擬保育をし、参加指導実習に向けて保育する力をつける。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』『実習の手びき』  
必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

適宜授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

子どもを見る視点、教師の動きから意図すること、思いなどを読み取る力をつける。環境構成、子どもの活動、教師の援助等の実習ノートの書き方を学び書くことができる。子どもの姿、活動から子どもの学びが保証できる、環境構成のあり方、教師の援助、教材準備の方法を学び、指導計画に繋げる事ができるようにする。積極的に模擬保育をし、保育する力を身に付け、保育者の資質の向上を図る。遊びのレパートリーを増やす。

《授業時間外学習》

絵本の読み聞かせ、手遊び、リズム遊び、ピアノで歌唱指導など授業で学んだことを力にして実践に活かす。図書館などで数多く絵本に接し子どもの前で読む絵本を選ぶ。保育雑誌で実際に役立つ遊びや教材を研究する。動くおもちゃ、折り紙、子どもが楽しむものを制作し実習に役立てるように準備をしておく。常にハサミ、のり、セロテープ等準備し持参。

《成績評価の方法》

授業中に課する提出物 10%  
 授業中の発表内容、態度 20%  
 実習園の評価・実習ノート 70%  
 ・分からないところはオフィスアワー等で質問を受け付ける  
 ・授業の到達目標に対しては、次年度目標に反映させる。

《備考》

教育実習を受ける資格条件を理解し、遵守する。積極的に発表をし、意欲を持って授業に取り組む。遅刻早退しない。授業の妨害、私語、携帯電話の使用、飲食は厳禁。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	予備日	保育実習
2	予備日	保育実習
3	予備日	保育実習
4	予備日	保育実習
5	予備日	保育実習
6	予備日	保育実習
7	予備日	保育実習
8	予備日	保育実習
9	予備日	保育実習
10	予備日	保育実習
11	予備日	保育実習
12	参加指導実習の事前指導 指導計画の作成	6月、7月の子どもの遊びを考える。参加指導実習の目的と意義について説明ができる。各自の実習園で行う部分保育の指導計画を立て、ねらい、内容を説明する。
13	指導計画の作成・部分保育	6月、7月の子どもの遊びを考えて、部分保育の指導計画を立て、どのように保育を進めるか、時間配分、環境構成、子どもの活動、教師の援助など説明する。
14	指導計画の作成・部分保育	部分保育の指導計画を立て、どのように保育を進めるか、時間配分、環境構成、子どもの活動、教師の援助など説明する。(自分の保育の展開を考える)
15	指導計画の作成・部分保育	研究保育の指導計画を立て、教材準備、保育への導入などシミュレーションをして保育を進める方法を説明する。(保育の導入・展開・整理まとめの流れ)

《学科教育科目》

科目名	保育実習 I 《施設実習》		科目ナンバリング	C3011S-●028
担当者氏名	古川 督、足立 法子、黒澤 祐介、大西 輝彦、中野 一人			
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期
				2年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル			

《授業の概要》

施設の役割と機能（施設の生活と一日の流れ）。子ども理解（①子どもの観察とその記録、②個々の状態に応じた援助やかかわり）。養護内容・生活環境（①子どもの心身の状態に応じた対応、②健康管理、安全対策の理解）。計画と記録（①支援計画の理解と活用、②記録に基づく省察と自己評価）。専門職としての保育士の役割と倫理（①保育士の業務内容、②職員間の役割分担や連携、③保育士の役割と職業倫理）。

《授業の到達目標》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について具体的に理解する。観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。既習の教科の内容をを踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

《成績評価の方法》

施設の評価表に基づく評価（60%）、学習成果の表れである実習ノート（40%）

《テキスト》

「保育実習指導」の授業でのレジュメ

《参考図書》

『施設実習パーフェクトガイド』わかば社

《授業時間外学習》

万全の体調で実習に臨めるように、実習10日前から検温し、自己管理する。実習中は慣れない環境と緊張とで著しく体力を損なう可能性が高いため、生活のリズムを整えることに尽力し、実習に集中できるように努める。

《備考》

「保育実習指導 I」においての諸注意に気を配り、必要に応じて実習事務室等への連絡を行うようにする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	観察参加実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2	—	「詳細は実習要項参照」
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

《学科教育科目》

科目名	保育実習 I 《施設実習》		科目ナンバリング	C3011S-●028
担当者氏名	古川 督、足立 法子、黒澤 祐介、大西 輝彦、中野 一人			
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期
				2年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル			

《授業の概要》

施設の役割と機能（施設の生活と一日の流れ）。子ども理解（①子どもの観察とその記録、②個々の状態に応じた援助やかかわり）。養護内容・生活環境（①子どもの心身の状態に応じた対応、②健康管理、安全対策の理解）。計画と記録（①支援計画の理解と活用、②記録に基づく省察と自己評価）。専門職としての保育士の役割と倫理（①保育士の業務内容、②職員間の役割分担や連携、③保育士の役割と職業倫理）。

《授業の到達目標》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について具体的に理解する。観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。既習の教科の内容をを踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

《成績評価の方法》

施設の評価表に基づく評価（60%）、学習成果の表れである実習ノート（40%）

《テキスト》

「保育実習指導」の授業でのレジュメ

《参考図書》

『施設実習パーフェクトガイド』わかば社

《授業時間外学習》

万全の体調で実習に臨めるように、実習10日前から検温し、自己管理する。実習中は慣れない環境と緊張とで著しく体力を損なう可能性が高いため、生活のリズムを整えることに尽力し、実習に集中できるように努める。

《備考》

「保育実習指導Ⅰ」においての諸注意に気を配り、必要に応じて実習事務室等への連絡を行うようにする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	観察参加実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2	—	「詳細は実習要項参照」
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導 I 《施設実習》		科目ナンバリング	C3011S-●029
担当者氏名	古川 督、足立 法子、黒澤 祐介、大西 輝彦、中野 一人			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 2年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識			

《授業の概要》

本演習では、保育実習の意義・目的を理解し、児童福祉施設等での実習を円滑に進めるために、授業等で習得した知識・技術を再確認する。実習前には、実習課題を設定し、目的を明らかにして実習にのぞみ、実習後は実習の自己評価、他者評価をもとにして実習報告書を作成する。

《テキスト》

特に指定しない。各回の講義でレジュメを配布する。

《参考図書》

『施設実習パーフェクトガイド』わかば社。  
そのほか実習施設に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

○実習施設における子どもの人権と子どもの最善の利益を考える姿勢、個人を尊重する考え方を理解できる。 ○プライバシーの保護と守秘義務について理解できる。 ○実習計画書の作成、実習中の観察、日誌等記録の書き方、養護技術を学習し、習得できる。 ○実習終了後は、実習全体を振り返り、「実習報告書」を作成するとともに新たな課題や学習目標を明確にすることができる。

《授業時間外学習》

実習施設の種別に応じた課題を出します。各自それに従って自主学習をしてください。

《成績評価の方法》

事前指導：実習計画書の作成（50%）  
事後指導：報告書の作成（50%）

《備考》

実習のとりきめに基づいて出席を原則とします。やむを得ず欠席をする場合は、事前に実習事務室に連絡をしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	「保育実習 I」（施設）の内容説明、評価基準・方法、使用テキストと参考書の活用について・予定表の配布 ・個人票の作成 ・安全・疾病予防
2	実習施設の選定	・実習ノートの内容説明 ・実習計画書の作成について ・個人票の作成（清書） ・実習施設種別ごとの「保育実習指導」の予定表配布
3	事前指導 1	視聴覚教材による学習 1
4	事前指導 2	視聴覚教材による学習 2
5	事前指導 3	書籍 専門雑誌による学習
6	事前指導 4	実習施設の特徴、具体的実習内容についての学習、実習計画書の書き方と提出方法
7	事前指導 5	養護系施設、障害系施設の実際について学ぶ ・実習生に求められること
8	事前指導 6	養護系施設、障害系施設の実際について学ぶ ・実習日誌の書き方・記録について
9	事前指導 7	施設でのオリエンテーション（4クラス合同）、オリエンテーションの意義と諸注意 ・実習生の立場と心構えについて
10	事前指導 8	報告書の書き方と提出方法/実習報告書作成の意味
11	事前指導 9	実習直前指導
12	事後指導 1	「実習報告会」の準備・発表内容の作成、確認、実習報告書の作成
13	事後指導 2	「実習報告会」の準備・発表内容の作成、確認、実習報告書の作成
14	事後指導 3	「実習報告会」・実習施設ごとの報告
15	事後指導 4	「実習報告会」・実習施設ごとの報告

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導 I 《施設実習》		科目ナンバリング	C3011S-●029
担当者氏名	古川 督、足立 法子、黒澤 祐介、大西 輝彦、中野 一人			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 2年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識			

《授業の概要》

本演習では、保育実習の意義・目的を理解し、児童福祉施設等での実習を円滑に進めるために、授業等で習得した知識・技術を再確認する。実習前には、実習課題を設定し、目的を明らかにして実習にのぞみ、実習後は実習の自己評価、他者評価をもとにして実習報告書を作成する。

《テキスト》

特に指定しない。各回の講義でレジュメを配布する。

《参考図書》

『施設実習パーフェクトガイド』わかば社。  
そのほか実習施設に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

○実習施設における子どもの人権と子どもの最善の利益を考える姿勢、個人を尊重する考え方を理解できる。 ○プライバシーの保護と守秘義務について理解できる。 ○実習計画書の作成、実習中の観察、日誌等記録の書き方、養護技術を学習し、習得できる。 ○実習終了後は、実習全体を振り返り、「実習報告書」を作成するとともに新たな課題や学習目標を明確にすることができる。

《授業時間外学習》

実習施設の種別に応じた課題を出します。各自それによって自主学習をしてください。

《成績評価の方法》

事前指導：実習計画書の作成（50%）  
事後指導：報告書の作成（50%）  
実習計画書及び報告書について内容・改善点などの説明・解説を行う。

《備考》

実習のとりきめに基づいて出席を原則とします。やむを得ず欠席をする場合は、事前に実習事務室に連絡をしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	「保育実習 I」（施設）の内容説明、評価基準・方法、使用テキストと参考書の活用について・予定表の配布 ・個人票の作成 ・安全・疾病予防
2	実習施設の選定	・実習ノートとの配布と内容説明 ・実習計画書の作成について ・個人票の作成（清書） ・実習施設種別ごとの「保育実習指導」の予定表配布
3	事前指導 1	視聴覚教材による学習 1
4	事前指導 2	視聴覚教材による学習 2
5	事前指導 3	書籍 専門雑誌による学習
6	事前指導 4	実習施設の特徴、具体的実習内容についての学習、実習計画書の書き方と提出方法
7	事前指導 5	養護系施設、障害系施設の実際について学ぶ ・実習生に求められること
8	事前指導 6	養護系施設、障害系施設の実際について学ぶ ・実習日誌の書き方・記録について
9	事前指導 7	施設でのオリエンテーション（4クラス合同）、オリエンテーションの意義と諸注意 ・実習生の立場と心構えについて
10	事前指導 8	報告書の書き方と提出方法/実習報告書作成の意味/
11	事前指導 9	実習直前指導
12	事後指導 1	「実習報告会」の準備・発表内容の作成、確認、実習報告書の作成
13	事後指導 2	「実習報告会」の準備・発表内容の作成、確認、実習報告書の作成
14	事後指導 3	「実習報告会」・実習施設ごとの報告
15	事後指導 4	「実習報告会」・実習施設ごとの報告

科目名	児童心理学	科目ナンバリング	C3022S◆○037
担当者氏名	土井 裕貴		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

幼児期の子どもたちが、大人をはじめとする周囲の環境との関わりの中で、どのように発達していくのかを学ぶ。子どもの成長のプロセスを、人間関係やコミュニケーション、そして認知など様々な側面から学ぶ。  
 また、養護系の児童福祉施設で生活する子どもたちが抱えやすい諸問題について理解し、心理的アプローチについて理解する。

《授業の到達目標》

- 子どもの発達について、人間関係や言語そして知力など様々な角度から捉えられるようになること。
- 子どもの発達にとって、大人をはじめとする周囲の環境とのかかわりがなぜ重要なのかを理解できること。
- 特別な支援が必要な子どもたちへの支援の重要性について理解し、基本的な支援について学ぶこと。

《成績評価の方法》

15回目に行う試験の評価70%  
 授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組みの評価30%

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。プリントをまとめるファイルを用意すること。

《参考図書》

「はじめて学ぶ乳幼児の心理—こころの育ちと発達の支援」 桜井茂男（編） 有斐閣 2006

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献などを自ら進んで読むことを通じて、授業内容について理解を深めてもらいたい。  
 また、ボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に増やしてください。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておくこと。  
 質の高い保育者になることを志す学生の受講を期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童心理学の概要 子どもの発達の特徴	児童心理学の概要について理解する。また、児童心理学を学ぶ意義について、子ども時代の特徴を中心に理解を深める。
2	大脳生理の基本事項/ 感覚・知覚・認知	中枢神経系の発達や大脳機能の局在など大脳生理の基礎事項、また、感覚・知覚・認知の概要について理解する。
3	運動機能の発達	乳幼児期の運動の発達について理解を深める。運動面に遅れのある子どもへの支援についても考える。
4	情動の発達	乳幼児期の常道の発達について理解を深める。情動面に課題のある子どもへの支援についても考える。愛着とは何か。親子間の愛着形成の重要性について理解を深める。
5	社会性の発達	乳幼児期の社会性の発達、特に愛着について理解を深める。遊びとは何か。遊びの発達を通して、乳幼児の社会性や認知の発達について理解を深める。
6	言語の発達	言語とは何か。内言語と外言語のそれぞれの機能について理解を深め、言語の持つ象徴性について理解する。
7	認知・思考の発達	ピアジェの認知発達理論について学び、認知思考の発達過程について理解を深める。
8	自我の発達	自己統制や自己実現、動機づけの発達について理解を深める。
9	人格の発達	養育態度と人格の発達との関連性について理解を深める。
10	知能と知能検査	知能の概要と知能検査の概要について知り、その活用方法について理解を深める。
11	発達障がい ①発達障がいの概要	自閉症スペクトラム、ADHD、学習障がいなどの発達障がいの概要を理解する。
12	発達障がい ②発達障がい児への支援	発達障がいのある子どもへの基本的な支援についても考える。また、保護者に対する対応のあり方についても学ぶ。
13	特別な支援が必要な子ども ①問題の概要	外国籍の子どもの問題、社会的貧困、家庭の養育の不良、児童虐待など子どもをめぐる諸問題の概要を理解し、その支援についても考える。
14	特別な支援が必要な子ども ②支援の方法	様々な問題を抱えることにも対する基本的な支援の方法について学ぶ。
15	学習のまとめ	1回目から14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験を行う。



《学科教育科目》

科目名	臨床心理学	科目ナンバリング	C3022S-〇039
担当者氏名	原 志津		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

臨床心理学は「意味」を考える心理学である。人のこころの研究の創始者であるフロイトは、大人の患者との精神分析治療の中で、人のこころの発達における幼児期の体験を重視した。それ以降の研究者たちは、もっと小さな乳幼児期の母子関係に焦点をあて「関係性」の研究をすすめた。この授業ではこころの研究の歴史を辿り人と人が関わることを意味を学んでほしい。

《テキスト》

『保育・教育に生きる臨床心理学』  
 松島恭子監修・篠田美紀編著  
 光生館 税別2200円

《参考図書》

スクールカウンセラーがすすめる112冊の本  
 滝口俊子・田中慶江編 創元社

《授業の到達目標》

- ・人の不安の源泉はどこにあるのかを知る。
- ・乳幼児期の子どものかころの発達について知る。
- ・子どもの関係性の発達理論を知り、関わりに活かす。
- ・対人関係上の問題を呈する人々への理解と自己理解を深める。

《授業時間外学習》

テキストをよく読んで、授業にのぞむこと。  
 こころを理解するのに役立つ参考文献一覧を授業初回に配布するので、できるだけ多くの本を手にとって、子どもとかかわる現場にでるまでに読んでおいてください。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%  
 授業内容の理解70%（まとめ①②③）  
 まとめ①②についてはコメントをつけて返却  
 まとめ③については全体的に講評を行う

《備考》

集中講義で実施する。第5回・第10回・第15回の授業でその日学んだ学習内容のまとめレポートを作成する。配布した資料と授業のポイントを各自ノートにまとめておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業のすすめ方、臨床心理学の基本的な考え方について知る
2	こころについての探求	フロイトの発見したことを知る
3	精神分析①	フロイトの精神分析について知る
4	精神分析②	フロイトの精神分析の用語を学ぶ
5	まとめ①	第4回までの授業のまとめ（筆記試験）
6	こころの世界の研究①	乳幼児のこころの世界①・・・メラニー・クラインの研究を知る
7	こころの世界の研究②	乳幼児のこころの世界②・・・マーガレット・マラーの研究を知る
8	こころの世界の研究③	乳幼児のこころの世界③・・・ウィニコットの研究を知る
9	こころの世界の研究④	乳幼児のこころの世界④・・・親子関係観察ビデオから学ぶ
10	まとめ②	第9回までのまとめ（筆記試験）
11	心理療法について①	ユングの心理学について知る
12	心理療法について②	箱庭療法を知る
13	心理療法について③	来談者中心療法・・・ロジャーズのカウンセリングについて学ぶ
14	カウンセリングのプロセスについて	体験過程とフォーカシングについて・・・セルフカウンセリングを知る
15	まとめ③	第14回までのまとめ（筆記試験）

《学科教育科目》

科目名	教師・保育者論	科目ナンバリング	C3022SG G041
担当者氏名	春 豊子		
授業方法	講義	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ◎ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

学生がめざす保育者像を明確にし、その実現に必要な学習過程を計画する。また、保育に関する知識を深め、1年生から積み重ねてきた理論や実習からの学びを通して、保育者としての資質の向上を図る。さらに、学生の人生経験を振り返らせ、その結果を今後の進路選択に活用し、自らの望ましい保育者像を構築する。

《授業の到達目標》

- 教職の意義と保育者の役割を理解することができる。
- 教職（保育）に対する自らの適性を探求し、保育実践者としての意欲を高めることができる。
- 保育者像を形成することの意義を理解する。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討議や発表などへの参加・態度と成果 20%
- (2) レポート課題の提出物 30%（提出遅れは減点）
- (3) 筆記試験 50%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法などのガイダンス。
2	保育者をめざす	何故、保育者をめざしたかを問い直し、各自の努力目標を具現化することにより、学びを深める。
3	保育職とは	保育者という仕事の特徴を理解し、教職の意義について学ぶ。
4	保育者の一日	子どもも保育者も主体的に生きる保育の創造について、意見交流を行う。 （環境構成・生活のしかた・子ども同士を繋ぐ）
5	保育者の専門性①	幼稚園における保育者の役割について理解を深める。
6	保育者の専門性②	保育者の実践活動を通して、保育者の専門性について深く学ぶ。（視聴覚教材）
7	保育者の安全危機管理①	園内外の安全確保について学ぶ。
8	保育者の安全危機管理②	災害等に対する備えについて深く学ぶ。
9	法と保育者①	法的・制度的側面から保育者がどのような存在か、そしてどうあるべきかについて理解し、法律上、制度上の位置づけや意味づけを知る。
10	法と保育者②	保育者の研修は、職務遂行のため、保育者の権利と位置付けられていることを理解する。
11	保育の歴史と保育者像①	海外で幼稚園や保育所の発展に力を尽くした教育者や保育者の思想と実践について理解する。
12	保育の歴史と保育者像②	日本で幼稚園や保育所の発展に力を尽くした教育者や保育者の思想と実践について理解する。
13	保育者への学習課題	討議「保育者の資質」
14	現代社会の課題と保育者	本講義で学んできたことを基に、子どもと親、園、社会を繋ぐ保育者に求められる役割について論じる
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知見とその成果をまとめる。

《テキスト》

改訂保育者論 [第3版] 民秋 言 編著 建帛社

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』 文部科学省  
 『保育所保育指針開設』 厚生労働省  
 『認定こども園教育・保育要領解説』  
 その他授業中に随時紹介する。

《授業時間外学習》

- (1) 次回の授業範囲を予習しておく。
- (2) 出題課題について調べたり、まとめたりする。
- (3) 授業で学んだことを振り返り、ノートにまとめる。

《備考》

- ・幼稚園・保育所などに関する情報（特に教職に関すること）を常に意識して、収集しておく。
- ・教科書は必ず持参する。

科目名	保育内容・健康	科目ナンバリング	C3021S◆●044
担当者氏名	鈴木 富美子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

1. 乳幼児期は人間の生涯にわたって必要となる健康な心身を培う最も大切な時期であり、発達過程をたどりながら「健康な心身」の概念を形成し、その重要性を学ぶ。
2. 保育内容・健康の視点から乳幼児の健康的な発達と園生活の関連を学び、遊びや生活の援助方法を学ぶ。
3. 健康を阻害する様々な要因を事例より学び、「命を守る保育」について学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・「健康」の概念を身につけ、乳幼児の心身の健康の重要性について説明することができる。
- ・保育内容・健康の目的と内容を理解し、生活習慣の自立や遊びとの関係について説明し、また実践することができるようになる。
- ・事例などをおし、配慮の行き届いた安全環境を作り、家庭・地域を含め、命を守る保育に向かえるようになる。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）、課題レポート（20%）、積極性・集中度・調和（20%）

※レポート及び作品にはコメントをつけて返却する

《テキスト》

『保育内容・健康』近藤充夫編著 建帛社  
『保育所保育指針』

《参考図書》

『事例で学ぶ保育内容・健康』ひかりのくに  
『発達がわかれば子どもが見えてくる』ぎょうせい  
『保育内容・健康』ミネルヴァ  
『幼児期-子どもは世界をどうつかむか』岡本夏木著 岩波新書  
『見直そう子育て たて直そう生活リズム』エイデル研究所

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定範囲は必ず読み、用語や意味を調べてくる。
- ・配布した資料は必ず目をおし、理解を深める。
- ・指定した課題はレポートを作成し提出をする。

《備考》

- ・皆が気持ちよく学習できるように受講マナーを守る。
- ・明確な理由のない遅刻や欠席は厳重にチェックをする。
- ・小型遊具を作るので指定した回に必要なものを持ってくる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・授業の概要と進め方、履修上の諸注意 ・健康の定義について
2	保育内容・健康の「ねらい」及び「内容」	・保育所保育指針「健康」の領域 ・ねらい・内容・内容の取り扱い
3	子どもの体と健康	①体格と生理機能 0歳～5歳の発達過程
4	子どもの体と健康	②運動能力の発達 発達を促す遊び 実技「小集団遊び」
5	子どもの体と健康	③基本的な生活習慣の形成 発達との関係、生活習慣と動作
6	子どもの心と健康	①情緒の発達と運動とスキンシップ遊びの実践 ②社会性の発達と運動と群れ遊びの実践
7	子どもの心と健康	③パーソナリティの発達と運動 ④知的能力の発達と運動
8	子どもの心と健康	⑤子どもの健康をめぐる問題 健康被害の事例、不適切なかかわりの事例
9	子どもの心と健康	⑥食育について 食の大切さ、人とのかかわり、身近な栽培
10	乳幼児の遊びの発達と健康	・発達の視点から見る遊具 大型遊具と小型遊具の特徴と遊び
11	乳幼児の遊びの発達と健康	・小型遊具で遊ぶ ・小型遊具の製作 実技「お手玉」
12	乳幼児の遊びの発達と健康	・小型遊具で遊ぶ ・小型遊具の製作 実技「お手玉」
13	乳幼児の遊びの発達と健康	・小型遊具で遊ぶ ・小型遊具の遊びの実践
14	安全保育について	①乳幼児の安全管理 ②安全教育のねらい ③安全教育の指導
15	学習のまとめと理解度の確認	筆記試験

科目名	保育内容・人間関係	科目ナンバリング	C3022S◆●045
担当者氏名	小林 孝子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

幼児期の人間関係は、年齢及び成長発達により培われる。良い人間関係は、将来の人間形成の基礎となり、そこに保育者は重要な役割を担うのである。様々な幼児の姿、活動から幼児の行動を分析し、心を読み取り、より良い援助ができる力をつけるそのためには自分自身が豊かな心情、感性を持つ。また常に考える態度で臨み、知識、技能が身に付くようにし、保育の方法や実践力を習得する。

《授業の到達目標》

保育所保育指針、幼稚園教育要領の解説を熟読し理解し知識とする。乳幼児期の成長発達と心情の理解をする。様々な子どもの姿、行動の事例から、保育者としてのことばかけ、支援、援助を学ぶ。積極的な関心と柔軟な心を持ち、乳幼児の良き支援者になる。具体的な事例、演習問題から、丁寧な対応や気持ちのくみ取りができるようになる。事例から色々な場面を設定し考えを明確にする。プロ意識を持ち、保護者対応もできる。

《成績評価の方法》

事例、演習問題への解答 20% 授業態度 10% 筆記試験 70%  
 筆記試験については、授業のまとめと考えや身に付いたことを評価する。資料の持ち込みは不可。  
 ・小テストやレポートにコメントを付して返却する。  
 ・授業の到達目標に対しては、全体の講評を行う。

《テキスト》

「保育所保育指針解説書」「幼稚園教育要領解説書」  
 随時プリント配布

《参考図書》

「保育内容・人間関係」森上史朗・吉村真理子・後藤節美編  
 ミネルヴァ書房  
 「幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集」文部科学省  
 授業中適宜紹介する。

《授業時間外学習》

復習をし、疑問点を質問できるよう考える。前回の事例、演習問題を発表できるようにする。レポートの提出は必ず期限までにする。新聞で社会情勢を知る。保育、教育の記事、子育てに関する記事を見る。保育雑誌など見る習慣をつけ、保育者としての資質を高める努力をする。子どもの見本となることをいつも意識をする。

《備考》

保育者としての意識で、日頃から、挨拶、言葉使いを丁寧にすることを心掛ける。授業中の携帯電話の使用と飲食は禁止です。私語、授業の妨害は厳禁です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の進め方領域「人間関係」の本質	保育所指針・幼稚園教育要領の領域人間関係の「ねらい」「内容」を知る乳児の心の育ちと母親（養育者）のかかわりについて学ぶ。0歳児の遊びと心の発達。
2	「ねらい」「内容」と内容の取扱いの理解	「内容の取扱い」を理解し、乳幼児の成長に必要なかかわりの内容を知る。1歳児の成長発達と、人のかかわりの姿から心の発達やかかわりの内容を理解する。
3	乳児の価値観と成長発達の問題	発達の方向性、発達の段階と、己意識を理解し、養育者との愛着関係を説明する。2歳児の成長発達と遊びの中の人のかかわりの姿を学び、社会性の芽生えを知る。DVD視聴
4	幼児の人のかかわり依存の欲求、集団生活	幼児期の友だち関係について、様々な経験を通して集団意識が育つことを知り、過程の大切さを理解する。2歳児の遊びから、周囲の友だちとのかかわり方を知る。
5	家庭、地域の人々のかかわり	人間関係の基礎となる家庭のかかわりと地域の人々とのつながりが、子どもの心の成長にどのような影響があるか学ぶ。成長発達に繋げることの大事さを知る。
6	自立へ向けての経験、体験集団生活の育ち	様々な経験、体験から、立することについて知る2歳児の成長発達の姿から、自立から自律へ向かう姿の理解と基本的生活習慣について説明する。
7	集団の自立と育ち	生活行動の自立と当番活動の意義と幼児の意識の育ちの関係を知る。3歳児の遊びと人のかかわりの育ちを学び、援助の方法を知る。
8	グループの活動と課題をもった遊び	集団遊びから育つことについて知る。子どもが楽しんでする集団遊びを考える。ハプニング、トラブルからその解決方法を子どもの立場、保育者の立場で説明する。
9	年齢による遊びの変化	一人遊び、並行遊び、かかわり遊び、群れ遊びなど、子どもの成長に合わせての遊びから、心の成長発達について知り、その時々の子どもの心を説明ができるようになる。
10	色々なエピソードからの育ち	生活、遊びの中から育つ人のかかわりを考え、様々なエピソード、事例から子どもの心の成長を説明できる。3歳児の人間関係から見た指導計画を知り理解する。DVD視聴
11	クラス活動からの学び	クラス活動を通して、道徳心、規範意識の育成を目指す保育を知り、どのように培っていくかを知る。4歳児の人間関係から見た指導計画を知り、理解する。
12	保育の実践と視点	目に見えるもの、目に見えないものについて、道徳心、規範意識をどのように培っていくかを知り、説明する。4歳児の人間関係から見た指導計画を知り、理解する。DVD視聴
13	コミュニケーション	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションがあり、ことばをあまり話さない乳幼児に大切な非言語的コミュニケーションとは何かを理解し学ぶ。
14	保育者の役割と仕事	子どもとの信頼関係を築くには、保育者としての役割をしっかりと理解し、子どもと温かな人間関係を持つ。5歳児の人間関係から見た指導計画を知り、理解する。DVD視聴
15	学習の振り返りまとめ理解度の確認	授業のまとめと振り返りをして自己評価と理解度の確認をする筆記試験。

科目名	保育内容・環境	科目ナンバリング	C3021S◆●046
担当者氏名	鈴木 富美子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

1. 子どもは周囲の様々な環境に対し、乳幼児の特性である能動性をもって働きかけながら、その相互作用をとおして成長発展を遂げる「育ちのメカニズム」を学習し、環境による保育の重要性を学ぶ。
2. 事例検討をとおし、様々な育児環境を知る。
3. 発達に応じた環境構成に意欲的に取り組み、実践力を身につける。

《授業の到達目標》

- ・乳幼児の発達は、適切な環境との相互作用により望ましい方向に導かれていくことを理解し、「環境との相互作用」について説明することができるようになる。
- ・乳幼児の成長発達にふさわしい環境設定や取り組みができるようになる。
- ・保育者は、乳幼児の最も身近な人的環境である認識を持ち、自ら感性を養うことができるようになる。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）、課題レポート（20%）、積極性・集中度・調和（20%）

※レポート及び作品にはコメントをつけて返却する

《テキスト》

『保育内容『環境』』共著 北大路書房  
『保育所保育指針』

《参考図書》

『保育内容 環境』共著 建帛社  
『環境』共著 チャイルド社  
『保育内容 環境』共著 ミネルヴァ  
『アイディアたっぷり年中行事』ひかりのくに

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定範囲は必ず読み、用語や意味を調べてくる。
- ・配布した資料は必ず目をとおし、理解を深める。
- ・指定した課題はレポートを作成し提出をする。

《備考》

- ・皆が気持ちよく受講できるように、受講マナーを守る。
- ・明確な理由のない遅刻や欠席は厳重にチェックをする。
- ・四季折々の自然環境を取り入れるので必要な物を持参する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・授業の概要と進め方、履修上の諸注意 ・環境の概念
2	保育の基本と保育内容	・保育内容の構造と領域「環境」 ・環境をとおして行う保育
3	乳幼児の発達過程と特徴	・0歳児から5歳児までの発達と特徴 ・発達の順序性と連続性
4	人的環境と子どもの育ち	①子どもと家族のつながり ②子どもと地域社会のつながり
5	人的環境と子どもの育ち	③子どもと友だちのつながり ④子どもと保育者のつながり
6	物的環境と子どもの育ち	①園内の生活環境 ②園内の遊びの環境 実技「土と水」
7	保育内容「環境」と子どもの理解	①好奇心・探究心の芽ばえ 内発的動機づけ 実技「ネイチャーゲーム」
8	保育内容「環境」と子どもの理解	②時間・空間の概念 一日の生活時間の構造
9	保育内容「環境」と子どもの理解	③数量・図形・文字の認識 遊びやかかわりの工夫
10	保育内容「環境」と子どもの理解	④思考力を育む保育 知的発達、創造力の発達
11	自然環境と子どものかかわり	身近な動植物とのかかわり 動物・植物・園外の自然・水・土
12	道徳性の芽ばえ	道徳の概念 道徳を育む保育
13	行事と子どもの育ち	・園内行事と子どものかかわり ・地域の行事と子どものかかわり
14	安全環境と教育	・養護の視点から見る安全環境 ・教育の視点から見る安全環境
15	授業の振り返りと理解度の確認	筆記試験

《学科教育科目》

科目名	保育内容・表現A	科目ナンバリング	C3022S◆●048
担当者氏名	永井 夕起子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

身体表現活動が子どもの発育発達にもたらす影響について学ぶ。幼児期に表れる表現の特徴について理解し、子どもにあった表現を使った遊びについて考える。また、自分自身の身体について理解を深め、幅広い表現力を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。配布したプリントをまとめるファイルを用意すること。

《参考図書》

授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

- ・自分のイメージや気持ちを動きで表現することができる。
- ・他者の動きを受け入れ、真似したり動きで応答したりして動きを共有することを主体的に楽しもうとする。
- ・基本の動きを発展させ発表することができる。
- ・全身を使った表現作品を創作し発表できる。

《授業時間外学習》

- ・体調管理
- ・日ごろから様々なジャンルの音楽に触れる。
- ・絵本や童話を読み、想像力をつける。

《成績評価の方法》

授業に取り組む姿勢（45%）、実技テスト（20%）、発表（20%）、提出物（15%）  
発表の後、講評を行い自らの達成度を確認する。

《備考》

動きやすい服装で参加すること。シューズ忘れは欠席と同等の減点になります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と受講上の注意
2	心と身体の結びつきを感じる	身体部位を認識する動き。身体知覚を刺激する遊び。
3	基本的なリズムステップの理解	基本ステップの名称と動き方を覚えて踊る。
4	基本的なリズムステップの発展	基本ステップを組み合わせた複合的ステップの名称と動き方を覚えて踊る。
5	基本的なリズムステップの発展②	ステップを組み合わせてひとまとまりの振りを創って踊る。
6	基本ステップのまとめ	基本ステップの体得を確認する。
7	リズム遊び	歌や曲のリズムに合わせて身体を動かす遊びに触れ、動きを発展させる方法を学ぶ。
8	歌を使った表現遊び	歌から全身を使った表現を考える。
9	絵本を使った表現遊び	絵本の言葉に合わせて全身を使った表現を考える。
10	身近な道具を使った表現遊び①	スカーフを使った表現遊びを考える。
11	身近な道具を使った表現遊び②	縄・フラフープを使った表現遊びを考える。
12	影絵遊びとデジタル機器を利用した表現	照明やデジタル機器を使って遊ぶ方法について学ぶ。
13	作品づくり	これまでの表現方法を利用して作品を創作する。
14	作品づくり②	作品の創作。発表会の計画と進行について。
15	発表会	リズムカルに動くこと、作品世界のメッセージ性、効果の使い方など総合的な表現力を確認する。

《学科教育科目》

科目名	保育内容・表現B	科目ナンバリング	C3021S◆●049
担当者氏名	井上 朋子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」に示されているねらいや内容を踏まえて、音楽、造形、言語、身体などの表現領域を総合的に学びます。そして、その指導法について習得し、保育現場での実践力へとつなげます。また、諸感覚を通した様々な表現活動を体験する中で、表現することの喜びを味わうとともに、感性を磨き、表現力を向上させることを目的とします。

《授業の到達目標》

- (1) 総合的な表現活動の内容とその指導方法について理解する。
- (2) 幼児の多様な表現に気付き、引き出すことができる感性を磨く。
- (3) 感じたことや思いを意欲的に表すことができる表現力を身に付ける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み25%、提出課題25%  
 実技試験25%、筆記試験25%  
 ※実技試験後には講評を伝えます。また最終試験後には解説を行います。

《テキスト》

『手あそび、体あそび、わらべうたがいっぱい あそびうた大全集200』細田淳子編著、永岡書店、2014

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館、2008  
 『保育所保育指針解説書』厚生労働省、フレーベル館、2008

《授業時間外学習》

授業内で得た知識及び内容は各自復習を行い、教育実習や保育実習の際に活用できるようにしておくこと。特に毎授業で習得した手遊びは、自信をもってできるようにしておくこと。

《備考》

体験による学習を主体としますので、授業への積極的な取り組みを期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心をひらく	・オリエンテーション ・表現とは ・ペア・グループによるコミュニケーション活動
2	感覚をひらく①	・サウンドマップづくり ・音、色、形を感じる
3	感覚をひらく②	・じっくり見る、耳を澄ます、イメージを広げる
4	音楽と造形をつなぐ	・音を絵にする、絵を音にする ・図形楽譜づくり
5	子どもの表現発達	・子どもの表現の発達について知る
6	言葉を介して①	・音や絵をオノマトペで表す ・オノマトペ絵本を用いて
7	言葉を介して②	・音や絵をオノマトペで表す ・オノマトペ絵本をつくる
8	音をつくる①	・様々な素材から音を見つける ・音の出るおもちゃづくり
9	音をつくる②	・楽器づくり ・手作り楽器を用いた表現活動
10	身体を使って	・音に反応して動く ・音楽に合う身体表現を考える
11	「表現」の基本的理解	・幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「表現」のねらいと内容について理解する
12	演じる①	・物語を演じる①
13	演じる②	・物語を演じる②
14	演じる③	・グループ発表
15	学習のまとめ	・理解度の確認

《学科教育科目》

科目名	障害児保育A	科目ナンバリング	C3021S-●054
担当者氏名	柳田 洋		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心</li> <li>◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感</li> <li>○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力</li> <li>○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> </ul>		

《授業の概要》

障害を理解すると共に、障害児保育の基本的な理念と実践について学ぶ。

《テキスト》

『新版テキスト障害児保育』白石正久・近藤直子・中村尚子編（全障研出版部）

《参考図書》

『幼児の発達の基礎』加藤直樹・中村隆一編（全障研出版部）  
 『発達の扉 下 障害児の保育・教育・子育て』白石正久著（かもがわ出版）  
 『多動症の子どもたち』太田昌孝著（大月書店）  
 その他、授業中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

障害の科学的な理解やひとの発達のすじみちを理解することによって、障害がある子どもたちについて理解を深めるとともに、発達を保障していくための保育場面でできる援助について考える。また、健常児との関わりや家庭・社会との連携の大切さについても保育者という実践者の立場から考えていく。

《授業時間外学習》

今回の授業範囲のテキストを読んでおくこと。

《成績評価の方法》

試験（テキスト・ノート等持ち込み可）。  
 適宜、レポート等の提出を課す。  
 試験（50%）、授業後レポート（50%）で評価する。

《備考》

毎時間、出席表（感想・質問等を記入）の提出をもって出席を確認する。提出物の期限は厳守し、返却されたものについては配付資料等とともにファイルしておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害児保育を学ぶために	障害児保育の現状と課題
2	障害児保育のあゆみ	障害児保育と発達保障の歴史
3	障害児保育の前提	保育者に求められること
4	障害児保育の内容と方法	生活の中で信頼感に支えられ、集団の中で育つ
5	障害児保育の目的	人格そのものの豊かな発達を支え導く
6	子どもの発達の道すじ	見通しある保育をするために
7	障害児の保育計画	あそびを軸に日々の保育計画を築く
8	知的障害①	障害の理解
9	知的障害②	保育上の留意点
10	広汎性発達障害①	LD、ADHD、高機能自閉症などの理解
11	広汎性発達障害②	保育上の留意点
12	自閉症①	障害の理解
13	自閉症②	保育上の留意点
14	医療的ケアの必要な子ども	その理解と保育上の留意点
15	家族と共に保育を築く	保護者への支援と支えあう仲間づくり



平成27（2015）年度入学者

学科教育科目

《学科教育科目》

科目名	音楽教育C	科目ナンバリング	C3031S-0003
担当者氏名	田中 敬子、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子、森本 満穂子、田中 智子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

2クラス合同の授業ですが、隔週で集団授業⇄ピアノ個人レッスンとクラスが入れ替わります。集団授業では伴奏付け、律動のピアノ、即興演奏、初見演奏の訓練などをします。ピアノ個人レッスンでは、実習や就職試験に備えて、演奏力の向上を目指すとともに、レパートリーを増やします。

《テキスト》

【個人レッスン】今までに音楽の授業で使った教材  
 【集団授業】適宜プリントを配布

《参考図書》

その他、資料等は必要に応じて配布します。

《授業の到達目標》

- マーチやスキップなどのリズム曲を弾くことができる。
- 電子ピアノの機能を生かして、様々な情景や動物等のイメージに合った伴奏を考えたり、弾いたりすることができる。
- 実習や就職試験に備え、自信をもってピアノ演奏や弾き歌いを行うことができる。
- ピアノ曲、弾き歌いのレパートリーを増やす。

《授業時間外学習》

各自、毎日十分な練習を行い、完成度を高くして授業を受けるようにすること。

《成績評価の方法》

実技試験100%（ピアノグレード試験・集団授業内での小試験）  
 試験結果はコメントを付して返却する。

《備考》

保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業を受ける前、受けた後の挨拶を徹底します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明、個人レッスンの担当教員との顔合わせ
2	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】律動のピアノ 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
3	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】律動のピアノ 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
4	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】即興演奏 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
5	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】即興演奏 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
6	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】初見演奏、ソルフエージュ 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
7	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】初見演奏、ソルフエージュ 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
8	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】コード、伴奏付け 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
9	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】コード、伴奏付け 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
10	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】移調奏、ソルフエージュ② 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
11	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】移調奏、ソルフエージュ② 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
12	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】律動のピアノの復習 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
13	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】律動のピアノの復習 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
14	クラス1（発表） クラス2（発表）	期末発表（ピアノ・弾き歌い等）
15	クラス1（発表） クラス2（発表）	期末発表（ピアノ・弾き歌い等）

《学科教育科目》

科目名	音楽教育D	科目ナンバリング	C3032S-0004
担当者氏名	井上 朋子、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子、森本 満穂子、田中 智子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

3クラスが2つに分かれて、集団授業⇔個人レッスンを90分の中で交互に行います。集団授業では、履修人数を考慮しながら、合唱、ボイスアンサンブル、トーンチャイム、ボディパーカッションなどのアンサンブルを行います。また個人レッスンでは、実習や就職試験に備えてピアノの個人指導を受けます。

《テキスト》

【集団授業】適宜プリントを配布  
 【個人レッスン】今までに音楽の授業で使った教材

《参考図書》

その他、資料等は必要に応じて、担当教員から指示・配布します。

《授業の到達目標》

- 様々なアンサンブル活動を通して、表現力を磨くとともに、聴く耳、協調性を育む。
- 様々なアンサンブル活動に関する指導法や指揮法を学び、保育者自身の実践力を高める。
- レパートリーを増やししながら、より表現豊かなピアノ演奏、弾き歌いができるようになる。

《授業時間外学習》

各自毎日十分な練習を行い、完成度を高くして授業を受けるようにすること。

《成績評価の方法》

○実技試験100%  
 ※グレード試験受験票に演奏に対する講評を記入して返却します。

《備考》

学生コンサートの実施により、15回の授業のうち1回を学生コンサートの出席で振り替えることもあります。また、履修者の人数によって、内容、回数を変更する場合もあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明、個人レッスンの担当教員との顔合わせ
2	アンサンブルとピアノ①	【集団授業】トーンチャイムを使って① 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
3	アンサンブルとピアノ②	【集団授業】トーンチャイムを使って② 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
4	アンサンブルとピアノ③	【集団授業】ミュージックベルを使って 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
5	合唱とピアノ①	【集団授業】合唱練習と指揮法① 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
6	合唱とピアノ②	【集団授業】合唱練習と指揮法② 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
7	合唱とピアノ③	【集団授業】合唱練習と指揮法③ 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
8	合唱とピアノ④	【集団授業】合唱練習と合唱指導法① 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
9	合唱とピアノ⑤	【集団授業】合唱練習と合唱指導法② 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
10	合唱とピアノ⑥	【集団授業】合唱練習と合唱指導法③ 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
11	様々なアンサンブル①	【集団授業】ボイスアンサンブル・ボイスアンサンブルづくり① 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
12	様々なアンサンブル②	【集団授業】ボイスアンサンブル・ボイスアンサンブルづくり② 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
13	様々なアンサンブル③	【集団授業】アカペラ 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
14	様々なアンサンブル④	【集団授業】ボディパーカッション 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
15	まとめ	期末発表(ピアノ・弾き歌い)

科目名	子どもの保健Ⅱ	科目ナンバリング	C3031S-●015
担当者氏名	西村 美穂代		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

乳児保育や子どもの保健で学んだ知識を基礎として、子どもの心とからだの健康問題や事故の特徴とその予防について理解し、保育現場において起こりうる様々な状況に対応するのに必要な技術を習得するとともに実践力を養う。

《テキスト》

『子どもの保健演習』 大西文子編集、中山書店

《参考図書》

子どもの保健 1 A・1 B で使用したテキスト

《授業の到達目標》

1. 発達段階に応じた観察・養護・援助ができるようになる。
2. 子どもが体調不良時や病気になったときの適切な正しい判断と対応ができる。
3. 応急処置や救急時の対応がすばやくできるようになる。  
・毎回の講義前に前回の講義内容を復習し、解り難かったことを質問で受け付けて回答する。

《授業時間外学習》

ニュース等で子どもに関する事故を視聴した場合、あなたがその場に出くわしたとして、どのような応急処置を行うか、をイメージしておく。また、実習時、園児の病気や怪我の時にどのような対応・応急手当をされていたかを想起して、講義に臨むこと。

《成績評価の方法》

- ・講義（実習）に臨む態度（10%）
- ・学期末テスト（90%）

《備考》

実習（講義）に必要な物品を持参しない場合は、実習（講義）を受けることができないため注意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	乳幼児の健康観察①	健康な乳幼児の発育・発達・生理機能の想起しながら、保育所・幼稚園での乳幼児の健康観察方法と見落としはならない健康観察を理解する。
2	乳幼児の健康観察②	モデル人形を用いて乳幼児の体温・脈拍・呼吸の測定方法を理解し、実際に学生同士で測定できるように記録を行うことができる。
3	主な乳幼児の症状とその対応	発達段階に応じた発熱・嘔吐・下痢・便秘・脱水を理解しその対応ができるようになり、必要に応じて薬法の当て方や与薬の方法がわかる。
4	乳幼児の養護	発達段階に応じた抱っこのしかた・衣服の着脱・おむつの当て方をモデル人形を使用して実際に行うことができ、注意点がわかる。
5	清潔の指導① —手洗いを通して—	発達段階に応じたの手洗いの目標と手洗い方法についてわかる。
6	清潔の指導② —手洗いを通して—	細菌やウイルスを取り除く手洗い方法ができ、園児に指導することができる。
7	清潔の指導 —むし歯予防—	発達段階に応じたのむし歯になりやすい箇所がわかり、その予防ができ園児に指導することができる。
8	保健活動と保健計画	これまでの演習が活かせるように園での保健活動と保健計画立案について理解できる。
9	子どもを取り巻く事故とその予防①	園で発生した事故を紹介し事故が起こる原因となった問題点をグループで考え、保育士・幼稚園教諭には危機管理のしかたがわかっていることがわかる。
10	子どもを取り巻く事故とその予防②	事故の種類を考えて、幼児が転倒事故を起こしやすいのはなぜか？を理解するためにチャイルドビジョンを装着して体験し「なぜか？」の理由がわかる。
11	応急手当	『幼稚園・保育所での応急手当』のビデオを視聴し、現場での応急手当のしかたがわかり、包帯の巻き方を実際に行う。
12	応急手当を実際に行う	『幼稚園・保育所での応急手当』のビデオに載っていない、応急手当の頭部外傷・骨折の症状と病院に搬送するまでの応急手当がわかる。
13	救急蘇生法	『幼稚園・保育所での心肺蘇生法』のビデオを視聴しながら、現場での発達段階に応じた心肺蘇生法のしかたがわかる。
14	救急蘇生法を実際に行う。	心肺蘇生法用のモデル人形を用いて、子どもの命を助けることができるように、発達段階に応じた心肺蘇生法ができるようになる。
15	まとめ	1回目～14回目までの学習内容がどこまで理解できているかを確認する。

《学科教育科目》

科目名	家庭支援論	科目ナンバリング	C3032S-●018
担当者氏名	山村 けい子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力</li> <li>◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力</li> <li>○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> </ul>		

《授業の概要》

近年、核家族化等の影響により、地域社会のコミュニティや家庭の形態も多様化してきた。子どもと家庭を取り巻く環境の変化の中で、育児と就労の両立の困難、子育ての孤立化、虐待の問題、貧困等、子どもの育ちの変容や家庭の子育て力の低下が言われてくるようになった。また、地域の中で近隣の人間関係が希薄化し、地域の子育ての力も低下が著しい。これらの背景を踏まえて、保育者の役割、家庭支援の在り方を理解する。

《授業の到達目標》

現代の家族・家庭の変容について知り、さまざまな人間関係について理解を深め、主体的に考えるようになる。  
 児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されている家庭支援の原理を理解をする。  
 実際の保育現場ではどのような支援をしているかを実践例を通して学習をし、保育現場で起こりうる諸問題に対して見通しを持つ力を習得する。

《成績評価の方法》

試験（70%）、レポート課題の提出（20%）授業への参加態度（10%）レポートにコメントを付して返却をする。

《テキスト》

児童育成協会監修 新保幸男、小林理編集（2016）『家庭支援論』中央法規

《参考図書》

柏女霊峰著（2003）『子育て支援と保育者の役割』フレーベル館  
 柏女霊峰著（2015）『子ども家庭福祉論』誠信書房  
 加藤邦子、牧野勝子他編著（2016）『子どもと地域と社会をつなぐ家庭支援論』福村出版  
 適宜プリントを配布する。

《授業時間外学習》

事前学習として教科書の指定箇所を目を通しておく。  
 「家庭支援」について実習で経験したことを踏まえてレポート等にまとめる。  
 実習等で経験したことから保育者の役割を考え、「家庭支援論」の授業に臨む。

《備考》

単に授業に出席をするだけでなく、積極的な授業参加を求める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家庭の意義と機能	家庭とは、家族や親族だけでなく、より広く個人の支えとなる関係性として環境をとらえる概念である。家族以外のネットワークを支援者という環境として家庭をとらえる。
2	家庭支援の必要性	生活課題を乗り越えて行くために資源の多さや多様さだけでなく、活用の在り方の重要性について理解をする。
3	保育士等が行う家庭支援の原理	児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されている家庭支援の原理を学ぶ。保育士等が関わる子どもと家庭について理解をし、方法を学び、深める。
4	家庭生活を取り巻く社会的状況の変化	家庭という子どもにとって大切な場が、社会的状況（少子高齢化、低成長経済等）によって大きく揺らいでいる。子育て家庭の貧困について知り、家庭支援を深める。
5	地域社会の変容と家庭支援	地域社会をめぐる動向と地域で生じている多様な福祉課題を知り、対応する新たな制度・施策を学ぶとともに保育者として必要な視点と実践について理解を深める。
6	現代の家庭における人間関係	現代の家族・家庭の変容について、また、家庭における様々な人間関係について学び、家庭支援の際にどのような配慮が必要であるか説明できる。
7	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	児童家庭福祉施策の全体像と、それを形成している児童家庭福祉の法制度や近年の動向、社会資源とその担い手や役割について理解をする。
8	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	児童家庭福祉の施策体制や国家計画の推進と子ども・子育て支援新制度までの経緯と新制度の枠組みと実施体制を理解をする。
9	多様な子育て支援サービスの概要	現在の子育て支援サービスは、すべての子育て家庭を対象としている。その対応も多岐にわたっているので多様な子育て支援サービスとその概要について理解をする。
10	保育所入所児童の家庭支援	保育所入所児童の家庭への支援について、保育所の役割と保育所の入所理由、「保育所保育指針」における家庭支援の視点から理解する。
11	地域の子育て家庭への支援	地域の子育て家庭への支援の意味や役割、支援機能、特性を法制度に規定されている内容から把握し、その枠組みに沿って支援者の役割を理解し、あり方について理解する。
12	子育て支援における関係機関との連携	子育て支援において関係機関との連携した環境の働きがけの重要性を知る。連携の意味を知り、保育士として連携を有意的に行うための知識と技術の習得の必要性を理解する。
13	子育て支援サービスの課題	子どもの「いのち」尊さを根底に子育てにふさわしい環境を創り、子育ての家庭を見守り、問題発生の予防や早期発見に努める支援の多様な展開を説明できる。
14	相談事例の検討 学習の振り返り	事例をソーシャルワークの方法を参考にし検討をしていく。家庭支援を「学ぶ」意義について振り返り、レポートを書き、保育士という専門職の学習内容を説明できる。
15	学習のまとめ	振り返りをして、自己評価と理解度を確認する。これまでの学習内容と得た知見を再確認し、具体的な成果を説明する。

《学科教育科目》

科目名	社会福祉	科目ナンバリング	C3031SG G019
担当者氏名	黒澤 祐介		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力</li> <li>◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力</li> <li>○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> </ul>		

《授業の概要》

社会福祉とは、広く人びとの幸せな社会生活を支援する考え方や具体的な方法、およびそれらを実現するさまざまな施策の総称である。本科目では、社会福祉の歴史や理念、法制度を学ぶことにより、社会福祉の実現にむけた担い手としての理解を深めることを目的とする。また、実践で求められる諸領域（児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉など）の基礎的知識など、保育士に必要な力を養うことを目指す。

《テキスト》

特に指定しない。各回の講義でレジュメを配布する。

《参考図書》

片山義弘・李木明德編著（2014）『新保育ライブラリ 社会福祉』北大路書房

《授業の到達目標》

- (1) 社会福祉の歴史や理念、法制度を理解する。
  - (2) 社会福祉の担い手としての知識や技術を体得する。
  - (3) 保育士に必要な諸領域の基礎的知識を身につける。
- 以上のことを通して、社会福祉にかかわる保育専門職としての価値・知識・技術を習得する。

《授業時間外学習》

具体的に指定はしないが、講義の内容をふまえて、普段から身近な福祉問題に関心を持ち、福祉の視点を育むようにすること。

《成績評価の方法》

平常点（10%）、小課題（レポートなど）（30%）、筆記試験（60%）により評価する。  
 なお、レポートや筆記試験に関しては、実施後に評価ポイントの説明や解説を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション（社会福祉の価値）	専門職として社会福祉にかかわるという将来像を見据え、多様な価値や視点がある社会福祉を学ぶ意義について理解する。
2	社会福祉の概念と理念	広く人びとの幸福を追求する社会福祉の理念や概念を理解するとともに、それを保障するための制度や支援の仕組みについて学習する。
3	社会福祉の歴史の変遷 ①：社会福祉の歴史	社会福祉が制度として確立されてきた諸外国の歴史と、その根底にある理念や特徴を学び、それが現代の社会福祉制度にどう反映されているのかを理解する。
4	社会福祉の歴史の変遷 ②：日本の社会福祉の歴史	日本における社会福祉の歴史とその社会的背景を学ぶことから、日本固有の社会福祉の特徴や価値を理解する。
5	社会福祉の支援と方法 ①：制度としての社会福祉	マクロな制度としての社会福祉の諸制度・施策やサービスについての基礎的知識を習得するとともに、社会福祉における制度と実践の相補性について理解する。
6	社会福祉の支援と方法 ②：相談援助の技術と方法	ミクロな実践としての社会福祉の支援方法や技術についての基礎的知識を習得するとともに、その根底にある価値や理論について理解する。
7	社会福祉の支援と方法 ③：権利擁護	個人の権利や意思を尊重する権利擁護の諸制度や支援体系に触れながら、社会福祉における利用者保護の仕組みについて学習する。
8	社会保障	社会保障制度の全体像を掴むとともに、とくに医療保障制度、所得保障制度についての知識を習得する。
9	社会福祉の機関と専門職の役割	社会福祉にかかわるさまざまな機関や専門職の役割を理解するとともに、その具体的な実施体系やサービス提供体制について学ぶ。
10	子ども家庭福祉	子ども家庭福祉に関する歴史や法制度（児童福祉六法など）を学習するとともに、子どもやその家族のかかえる問題を理解する。
11	高齢者福祉	高齢者福祉に関する歴史や法制度（介護保険制度など）を学習するとともに、高齢者に特徴的な問題を理解する。
12	障害者福祉	障害者福祉に関する歴史や法制度（障害者総合支援法など）を学習するとともに、障害者のかかえる問題を理解する。
13	生活困窮者福祉	生活困窮者福祉に関する歴史や法制度（生活保護制度、生活困窮者自立支援制度など）を学習するとともに、生活困窮者に特徴的な問題を理解する。
14	地域福祉	地域社会の福祉課題に対して、公私の社会福祉関係者と協力して解決を目指す地域福祉の考え方を学ぶとともに、その実現にむけた法制度や方法を理解する。
15	学習のまとめ	社会福祉を「学ぶ」意義について振り返り、学習内容が今後の専門職実践のなかでどのように反映されるのかを考察する。

《学科教育科目》

科目名	相談援助	科目ナンバリング	C3032S-●020
担当者氏名	山東 綾乃		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心</li> <li>◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力</li> <li>○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力</li> <li>○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> </ul>		

《授業の概要》

相談援助とは、さまざまな福祉課題を抱える人や子どもに対して、相談や制度・サービスの調整をとおして課題解決を図る具体的な方法や技術のことである。本科目では、保育における事例検討やロールプレイなどを通して、相談援助の歴史や理論、方法、技術を学習することで、保育士に必要な相談援助の力を養うことを目指す。

《テキスト》

特に指定しない。各回の講義でレジュメを配布する。

《参考図書》

片山義弘・李木明德編著（2014）『新保育ライブラリ 相談援助』北大路書房

《授業の到達目標》

- (1) 相談援助の歴史や理論、方法を理解する。
  - (2) 相談援助者としての知識や技術を体得する。
  - (3) 保育場面で求められる相談援助の実践力を身につける。
- 以上のことを通して、保育実践における相談援助の価値・知識・技術を習得する。

《授業時間外学習》

授業で指示する課題をこなして授業に参加すること。また、講義の内容をふまえて、普段から子ども・家庭の抱える問題に関心を持ち、そこに存在する福祉課題が何かを考えてみるようにすること。

《成績評価の方法》

平常点（10%）、小課題（レポートなど）（30%）、筆記試験（60%）により評価する。  
 なお、レポートや筆記試験に関しては、実施後に評価ポイントの説明や解説を行う。

《備考》

体験・参加型の講義が中心となるので、積極的な態度で受講することを期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション（相談援助の概要）	社会福祉の視点からみる今日的課題を概観し、保育専門職に求められる相談援助とは何かを理解する。
2	相談援助の価値と倫理	相談援助を行う上で基盤となる価値や倫理について、社会福祉士の倫理綱領や行動規範などから理解する。
3	保育と相談援助	保育所や児童福祉施設における今日的な課題をふまえて、保育相談援助の基本的な理念や意義を学ぶ。
4	相談援助の理論と実践 ①：相談援助の実践モデル	相談援助の多様な実践モデルについて、それぞれの視点や特徴を理解するとともに、問題状況や課題に応じた活用方法について学習する。
5	相談援助の理論と実践 ②：相談援助の展開過程	相談援助の展開過程について、各局面（エンゲージメント、アセスメント、プランニング、インターベンション、モニタリング、評価・終結）の目的や機能を理解する。
6	相談援助の方法①：相談援助のアプローチ	相談援助の多様なアプローチについて、それぞれの目的や対象、方法を理解するとともに、問題状況やニーズに応じて適切に活用する実践力を身につける。
7	相談援助の方法②：社会資源の調整・開発	問題解決やニーズの実現にむけて、相談援助者に求められる社会資源の調整（コーディネート）方法や、開発（ソーシャルアクション）方法について学習する。
8	相談援助の方法③：多機関・職種との連携・協働	相談援助にかかわる機関・職種の役割や業務を理解するとともに、支援や援助に必要な機関・職種との連携・協働方法を学習する。
9	相談援助の技術と技法 ①：自己覚知と他者理解	相談援助者としての自己覚知の重要性を理解するとともに、自己覚知を深めるためのスーパービジョンについても学習する。
10	相談援助の技術と技法 ②：面接技法	相談援助における面接技法とコミュニケーションについて、ロールプレイを行いながら体験的に習得する。
11	相談援助の技術と技法 ③：グループワークの方	相談援助や保育実践において活用できるグループワークの原則、またグループ活動を効果的に行うための方法や技術について学習する。
12	相談援助の技術と技法 ④：記録技法	相談援助を進めていくために必要となる記録技法や記録の種類、書き方を習得する。
13	事例研究①：家庭支援における相談援助	保育所や児童養護施設などにおける相談援助の事例をもちいて、家庭支援における相談援助を理解する。
14	事例研究②：発達支援における相談援助	児童発達支援センターや障害児施設などにおける相談援助の事例を用いて、発達支援における相談援助を理解する。
15	学習のまとめ	相談援助の方法や技術を振り返り、学習内容を保育専門職としての実践でどのように活用できるかを考察する。

《学科教育科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	C3031SG G022
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感</li> <li>○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力</li> <li>◎ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力</li> </ul>		

《授業の概要》

現代社会が急速に変化するなかでどのような教育が求められるのか、或いは、人間社会において不変的で本質的な教育課題はあるのか、あるとするならそれはどのようなものであるのか、このような事柄を念頭に置いて、教育にかかわる諸問題を多様な側面から考察する。特に、人間の成長や発達にとって必要で不可欠な「教育」の機能や役割、意義について、教育の社会的、歴史的、人間学的観点から理解できるようにしたい。

《授業の到達目標》

教育問題に関わる現代社会の構造的な変化と課題、とりわけ幼児教育や保育分野にある今日的な課題への理解を通して、教育や保育自体がもつ機能について洞察できるようにする。そのためにも、現在の教育的な課題の把握と考察、教育の歴史と理念、教育方法論と学習形態論について学ぶことで、教育の必要性と役割、そしてその意味や意義を理解できるようにする。総じて、人間にとっての教育の意味の把握に努める。

《成績評価の方法》

平常のレポート課題（30%）、および学期末の試験（70%）で評価する。試験内容や評価基準等について講評を行う。

《テキスト》

『新保育士養成講座第2巻 教育原理』新保育士養成講座編纂委員会/編、改訂第2版、2015。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。  
プリント資料を配布する。

《授業時間外学習》

教科書、ノート、プリント資料をよく読み、平常のレポートや学期末の試験に臨む。  
配布された資料や自分で収集した資料を用いて、レポート課題に対応できるようにする。

《備考》

授業中のスマートフォンや携帯電話の使用、私語を厳禁とする。レポートは、必ず、ホッチキス止めをして提出する。出席要件に注意して受講する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的な課題と教育の問題	幼児教育や保育をめぐる昨今の社会的な動向と課題について学び、成長・発達の初期段階にある人間のおかれた社会的な環境とそこにみられる課題について知る。
2	教育の定義	「教育」と「形成」、「教育」と「保育」の機能について理解する。 「教育」と「保育」の語が用いられてきた歴史的経緯について知る。
3	保育の環境や方法における教育の視点	人間にとっての「環境」の意味や環境を通じた教育の意義について学ぶ。また、保育の計画性と教育課程の関連性への理解を通して、意図的教育の意味について考察する。
4	教育の意義と目的	「教育」の文字に込められている教育の意義と役割について学び、歴史にみられる教育の目的について知る。
5	幼児教育および保育の目的・目標・ねらい	幼稚園教育要領や保育指針、その他の教育法規に定められた教育の目的や目標を通して現在の教育や保育に求められている事柄について学ぶ。
6	教育における社会化の問題	人間にとっての文化の意味と役割について学び、社会化の過程と学習の関係について理解する。
7	社会化に関わる諸問題	社会化とアイデンティティの形成、子どもの主体性の形成と教育の関係について考察する。
8	教育の基礎的概念と諸理論(1)	西欧における近代教育の樹立について学ぶ。とくに体系的教育学と子どもの発見について理解する。
9	教育の基礎的概念と諸理論(2)	作業教育の歴史と幼稚園の創設について学ぶ。
10	教育の基礎的概念と諸理論(3)	経験主義的教育理論および感覚訓練による教育法の開発について学ぶ。
11	日本の教育思想と子ども観(1)	江戸時代の教育施設と教育思想について学ぶ。
12	日本の教育思想と子ども観(2)	明治初期の教育理論について学ぶ。
13	日本の教育思想と子ども観(3)	大正期・昭和初期の教育理論について学ぶ。
14	現代教育の課題と人間教育の意義	現代社会のなかの教育問題と不変的な人間教育の意義について、改めて考察する。
15	まとめ	筆記試験を行い、学習内容の理解と考察を深める。



《学科教育科目》

科目名	保育原理B	科目ナンバリング	C3032S-0024
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心</li> <li>○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力</li> <li>◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> </ul>		

《授業の概要》

養護と教育の一体性とその意義について考察し、具体的な保育活動のなかでどのようにそれらが展開されるのか、さらに、保育活動と環境、生活と遊びの活動を5つの領域から理解し、そこでの保育者の援助と専門性の向上に向けた取り組みのあり方について教科書やその他の資料、視聴覚教材を通して概説する。

《テキスト》

乙訓稔監修『保育原理－保育士と幼稚園教諭を志す人に－』東信堂2014年初版第1刷

《参考図書》

そのつど紹介する。  
適時資料を配布する。

《授業の到達目標》

保育の意義について理解するとともに、保育の領域と子どもの活動である生活と遊びの総合的な活動全体を見通すことができるようにする。また、幼稚園教育要領や保育所保育指針に示された保育の目的や目標、ねらいと内容について改めて理解し、それらと保育活動の関連について考察できるようにしたい。

《授業時間外学習》

教科書やノート、配付資料をよく読み、授業内容の理解が定着するように努める。また、授業内容で紹介された参考図書や資料を読み、理解を広げることができるように努める。

《成績評価の方法》

平常の提出物（30%）および学期末のレポート（70%）により総合的に評価する。レポート課題の内容や評価基準等について講評を行う。

《備考》

授業中の私語や携帯電話・メール等の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育の意義	保育と教育の概念と社会的意義について理解する。
2	保育所保育と幼稚園教育の基本	養護と教育の一体性、環境の意味と機能について理解する。
3	環境を通して行う保育について	保育活動の事例を通して、人と自然、環境と保育活動のあり方について考察する。 領域「環境」に関する課題
4	表現活動としての保育活動について 1.	幼児期の社会的スキルの育成と表現活動について考察する。 領域「言葉」「人間関係」に関する課題
5	表現活動としての保育活動について 2.	幼児期の育ちにおける造形表現、身体表現、音楽表現の意義について考察する。 領域「表現」に関する課題
6	生活と遊びの活動としての保育活動 1.	乳幼児期にふさわしい生活と生活体験の展開について理解する。 領域「健康」に関する課題、生きる力を培う保育カリキュラム
7	生活と遊びの活動としての保育活動 2.	保育者の援助－生活、運動、安全に対する配慮について考察する。 集団における生活習慣の定着
8	生活と遊びの活動としての保育活動 3.	遊びの本質と意義、幼児期にふさわしい遊びの体験について考察する。 好きな遊びやクラスで取り組む活動
9	特長的な保育実践の理論と展開 1.	フレーベルの幼児教育論について学ぶ。
10	特長的な保育実践の理論と展開 2.	フレーベル幼稚園の保育活動
11	特長的な保育実践の理論と展開 3.	モンテッソーリの幼児教育論について学ぶ。
12	特長的な保育実践の理論と展開 4.	モンテッソーリ「子どもの家」の保育活動
13	特長的な保育実践の理論と展開 5.	シュタイナーの幼児教育論について学ぶ。
14	特長的な保育実践の理論と展開 6.	シュタイナー幼稚園の保育活動
15	まとめ	学習のまとめ

《学科教育科目》

科目名	保育相談支援	科目ナンバリング	C3032S-●026
担当者氏名	高見 スマ子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

本授業では「保育指導」業務を支える原理並びに専門技術を学び、実際の活用方法を学習する。保育相談支援の意義と基本、援助技術、展開過程、評価、実施体制等を学び、保育所等児童福祉施設において実践できるようにする。

《テキスト》

別途指示

《参考図書》

授業中に適宜紹介する

《授業の到達目標》

- 保育相談支援の意義と原則、保育相談支援の基本を理解し、主体的に考え、実践できる。
- 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解し、保育所投の児童福祉施設において保護者支援ができる。

《授業時間外学習》

授業前に、前回の授業内容の復習をすること。  
社会の動きに敏感になるために新聞を読むこと。

《成績評価の方法》

授業中に課すレポート及び小テスト（20％） 筆記試験（80％）

《備考》

配布した資料をよく読むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育相談支援の意義と基本的視点-1	保育相談支援とは何か、保育士の業務と相談支援
2	保育相談支援の意義と基本的視点-2	保育相談支援の原理、保育相談支援の構造・展開と相談援助との関係
3	保育相談支援の基本-1	保育相談支援の価値と倫理、信頼関係を築く受容と自己決定の尊重
4	保育相談支援の基本-2	子どもの最善の利益の重視、保護者とともに子どもの成長を喜び合う、保護者の養育力の向上に資する支援、他の社会資源との連携・協力
5	保育相談支援の展開-1	保育を基盤とした保育相談支援、保育相談支援の方法と技術
6	保育相談支援の展開-2	保育相談支援の展開過程、保育相談支援の実施体制
7	環境を通じた保育相談支援-1	環境を通じた保育と保育相談支援、保護者との信頼関係を形成する環境、保護者の日常生活を支える環境
8	環境を通じた保育相談支援-2	保護者の子ども理解を促す環境、家庭の暮らしを支える環境、子どもが育つ環境モデルとしての保育所
9	保育所利用児童の保護者へば保育相談支援-1	保育相談支援の実施事例と解説、保育相談支援の場面
10	保育所利用児童の保護者へば保育相談支援-2	保育相談支援の手段、保育相談支援の評価、特別な対応を必要とする家庭に対する保育相談支援
11	地域子育て支援における保育相談支援-1	保育所における地域子育て支援における保育相談支援、保育相談支援の実践場面
12	地域子育て支援における保育相談支援-2	保育所における保育相談支援の手段、保育相談支援の評価
13	児童福祉施設における保育相談支援-1	保育相談支援の特性、保育相談支援の実践内容
14	児童福祉施設における保育相談支援-2	保育相談支援の実践事例と解説、保育相談支援の評価
15	まとめ	演習課題に取り組み、学習内容の成果を確認する

《学科教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C3011S◆-027
担当者氏名	小林 孝子、青木 好代		
授業方法	実習	単位・必選	5・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感</li> <li>○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力</li> <li>○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> <li>◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル</li> <li>○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力</li> </ul>		

《授業の概要》

参加指導実習の目的、意義を理解する。課題を持って、参加指導実習をする。幼稚園教育の目的、意義をよく理解する。年齢別に子どもの成長発達を理解する。子どもの遊びを研究し、子どもが楽しむ保育を考える。保育に参加するという目的を持ち意欲を持って臨む。知識、技能を活かし、参加指導実習で保育力を身につける。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』『実習の手びき』授業で配付する必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

適宜、授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

子どもを見る視点、教師の動きから意図すること、思いなどを読み取り実習記録が書ける。環境構成、子どもの活動、教師の援助等を適切なことばで書く。子どもへのかかわり方など保育技術を学び、保育者としての資質を身につける。子どもの前で保育する力を身につける。指導計画を作成し、部分保育、研究保育をし、課題を知り、実践する力をつける。遊びのレパートリーを多く持ち、楽しい保育ができることを目指す。

《授業時間外学習》

絵本の読み聞かせ、手遊び、リズム遊び、ピアノで歌唱指導など授業で学んだことを力にして実践に活かす。図書館などで、数多く絵本に接し子どもの前で読む絵本を選ぶ。保育雑誌で実際に役立つ5領域の遊びや教材を研究する。動くおもちゃ、折り紙、子どもが楽しむものを制作し実習に役立てるように準備をする。常にハサミ、のり、セロテープ等準備し持参。

《成績評価の方法》

授業中に課する提出物 20% (指導計画等含)  
 授業中の発表内容、態度 10%  
 実習園の評価・実習ノート 70%  
 ・オフィスアワー等で質問を受け付け、必要に応じて個別の指導を行う。また、授業の到達目標に対して全体の講評を行う。

《備考》

教育実習を受ける資格条件を理解し、遵守する。積極的に発表をし、意欲を持って授業に取り組む。遅刻早退はしない。授業の妨害、私語、携帯電話の使用、飲食は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習・参加指導実習の目的・意義	幼稚園教諭の免許取得に必要な実習であることを理解し、保育者としての資質について考え、今までの授業で得られた知識、技能を発揮し、参加指導実習に臨む。
2	実習録の書き方	子どもを見る視点、教師のかかわりを見る視点から、観察記録を取る。なぜ保育するか意味も考える。子どもの育ちを援助する方法を学び、教師の意図、思いを理解する。
3	指導計画作成・模擬保育と相互学習	環境構成、子どもの活動、教師の援助など記入方法を取得しながら、保育に参加した時の自分の考え、思いも文章で表すことができる。
4	指導計画作成・模擬保育と相互学習	実習生としての課題や、問題など、保育に参加して、記録する方法を知り指導計画作成へとつなげる。
5	指導計画作成・模擬保育と相互学習	部分保育、研究保育の内容を考え、決定し指導計画を作成する。実際、模擬保育をし、お互いに検討し、意見を述べ、保育内容の充実を図る。
6	指導計画作成・模擬保育と相互学習	部分保育、研究保育の内容を考え、決定し指導計画を作成する。実際、模擬保育をし、お互いに検討し、意見を述べ、保育内容の充実を図る。
7	指導計画作成・模擬保育と相互学習	部分保育、研究保育の内容を考え、決定し指導計画を作成する。実際、模擬保育をし、お互いに検討し、意見を述べ、保育内容の充実を図る。
8	指導計画作成・模擬保育と相互学習	部分保育、研究保育の内容を考え、決定し指導計画を作成する。実際、模擬保育をし、お互いに検討し、意見を述べ、保育内容の充実を図る。
9	参加指導実習直前指導	実習の心得、礼儀、マナー、言葉遣い等、諸注意事項を確認する。DVD視聴する。指導計画書の見直しをし、準備物等の確認をする。
10	参加指導実習の反省と課題・実習園へのお礼	参加指導実習を終えて、反省と課題を発表する実習園へのお礼状を書く。
11	参加指導実習の反省と課題発表・自己評価	参加指導実習を終えて、これから保育者としての課題をグループ討議をし発表する。自己評価をする。
12	課題研究・実践内容発表	子どもが喜ぶ遊びを考え、その方法や環境構成に繋げる保育内容をテーマとして、実践発表をする。課題の検討をする。
13	課題研究・実践内容発表	子どもが喜ぶ遊びを考え、その方法や環境構成に繋げる保育内容をテーマとして、実践発表をする。課題の検討をする。
14	課題研究・実践内容発表	子どもが喜ぶ遊びを考え、その方法や環境構成に繋げる保育内容をテーマとして、実践発表をする。課題の検討をする。
15	評価とまとめ	実践内容発表の評価をする。授業のまとめをし、学んだことを説明する。

《学科教育科目》

科目名	保育実習Ⅱ《保育所実習》		科目ナンバリング	C3031S-〇030
担当者氏名	山村 けい子、古門 貞美			
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力			

《授業の概要》

保育所の生活に積極的に参加をし、子どもへの理解を深めると共に、それぞれの施設の機能や保育士の職務内容についてもより一層の理解を深める。

《テキスト》

百瀬ユカリ著『よくわかる保育所実習』創成社

《参考図書》

厚生労働省 『保育所保育指針解説書』

《授業の到達目標》

- ① 保育所の役割や機能について理解を深める。
- ② 計画に基づく指導実習等を通して子どもの理解を深める。
- ③ 実施した保育や実習記録から考察や自己評価を的確に行う。
- ④ 子どもの実態に即した指導計画を立案する。

《授業時間外学習》

積極的に保育現場を訪問し、子どもとの出会いを経験する。保育に関する本、絵本等を参考にし、遊びのレパトリーを増やし、教材研究をしておく。子どもの発達に関する本を参考にし、子どもの心身の理解を深めておく。体調を管理し、実習に臨む気持ちを高める。実習ノートは、丁寧に書く。

《成績評価の方法》

- ① 実習園の評価、保育実習指導Ⅱの受講状況（60%）
- ② 実習ノート（40%）

ただし、保育実習Ⅱは保育所2週間を終了しないと単位認定はされない。個人面談を行って自分の実習をふりかえる。

・実習ノートから各学生の成果と課題を明確にする。

《備考》

実習中は、アルバイト禁止。健康管理に気をつける。やむを得ず欠席する場合は、実習園、大学に連絡をする。保育内容については実習園に従うようにする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育所（園）参加指導実習	原則1日8時間×10日間 80時間以上 詳細は実習要項参照
2	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
3	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
4	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
5	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
6	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
7	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
8	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
9	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
10	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
11	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
12	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
13	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
14	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
15	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導Ⅱ《保育所実習》		科目ナンバリング	C3031S-0031
担当者氏名	山村 けい子、古門 貞美			
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
				3年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力</li> <li>◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル</li> <li>○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力</li> </ul>			

《授業の概要》

保育実習Ⅱ（保育所参加指導実習 8・9月 2週間）に必要な手続きについて指導するほか、実習の意義・目的、具体的な内容・方法・心構え、実習後の自己評価やそれに基づく新たな課題の発見などについて、保育実習Ⅱのための事前・事後指導を行う。

《テキスト》

百瀬ユカリ著 『よくわかる保育所実習（第三版）』創成社

《参考図書》

厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』フレーベル館

《授業の到達目標》

事前指導、保育所実習の意義・目的・内容・方法等を理解する。守秘義務や人権の尊重等実習中の留意事や心構え、自らの実習課題について理解する。事後指導実習を総括、自己評価し、新たな学習課題を発見するとともに、保育実習Ⅱに備える。

《授業時間外学習》

日頃から子ども達の言動に興味がいくように心がける。「自分お得意ワザ」を見つけておく。図書館の絵コーナーやおもちゃ屋さん、ホームセンター等に出かけ、実習で使えるものを発見しておく。

《成績評価の方法》

この授業は、事前指導（60%）、事後指導（40%）の比率で、受講態度（40%）や提出物（30%）、書類の作成状況等（30%）に基づき評価する。提出物は期限を守る。なお、最終的な成績は、施設実習に関する保育実習指導Ⅱの評価を加え評価する。レポート等にはコメントを付けて、返却する。

《備考》

欠席・遅刻・早退の場合は、必ず実習事務室へ連絡をすること。講義時は保育所での実習と考え出席する（服装・態度）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育実習とは	1年次の時の保育実習指導Ⅰを振り返り、保育実習について再認識する。
2	保育所の概要と実習の様子	保育所の概要と実習の様子を視聴覚教材で見聞し、改めて、保育所について学びを深める。
3	実習先の確認	自分の実習先について再確認し、オリエンテーションの準備をする。
4	保育所の施設、設備、機能の概要	保育所の職務内容・職業倫理についての学びを深め、参加指導実習に備える。
5	保育士の職務内容等	保育士の職務内容・職業倫理について学びを深め、参加指導実習に備える。
6	乳幼児の姿	乳幼児の姿について、視聴覚教材を通して、一層理解を深める。
7	実習中の留意事項	実習中の留意事項（守秘義務・人権の尊重等）について理解を深め、子どもへの援助方法等を探る。
8	実習課題の作成 実習記録について	実習課題の作成、実習記録についての学び、目的意識を鮮明に持つ。
9	指導案について①	指導案を書く意義について、再度学びを深める。
10	指導案について②	グループで遊びを設定し、指導案を作成する。
11	指導案について③	グループで作成した指導案に基づき、模擬保育の準備をする。
12	模擬保育①	グループごとに模擬保育をし、意見交流を図る。
13	模擬保育②	グループごとに模擬保育をし、意見交流を図る。
14	部分実習 全日実習	部分実習、全日実習について確認する。細菌検査等重要なことは提出期日を厳守する。
15	直前指導	実習中の心構え、諸注意、配布物の確認。実習終了後の日程について確認する。

科目名	保育実習指導Ⅱ《保育所実習》		科目ナンバリング	C3031S-〇031
担当者氏名	山村 けい子、古門 貞美			
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期 3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

保育実習Ⅱ（保育所参加指導実習8・9月2週間）に必要な手続きについて指導するほか、実習の意義・目的、具体的な内容・方法・心構え、実習後の自己評価やそれに基づく課題の発見などについて、保育実習Ⅱのための事前・事後指導を行う。

《テキスト》

百瀬ユカリ著『よくわかる保育所実習（第三版）』創成社

《参考図書》

厚生労働省編『保育所保育指針解説書』  
 プリント資料を配布する。  
 授業中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

事前指導、保育所実習の意義・目的・内容・方法等を理解する。守秘義務や人権の尊重等実習中の留意事や心構え、自らの実習課題について理解する。事後指導実習を総括、自己評価し、新たな学習課題を発見するとともに、保育実習Ⅱに備える。

《授業時間外学習》

日頃から子ども達の言動に興味がいくよう心がける。  
 「自分の得意ワザ」を見つけておくこと。図書館の絵本コーナーやおもちゃ屋さん、ホームセンター等に出かけ、実習で使えるものを発見しておくこと。

《成績評価の方法》

この授業は、事前指導（60%）、事前指導（40%）の比率で、受講態度（40%）や提出物（30%）に基づき評価する。提出物は期限を守ること。なお、最終的な成績は、施設実習に関する保育指導Ⅱの評価を加え評価する。レポート等にはコメントを付けて返却をする。

《備考》

欠席・遅刻・早退の場合は、必ず実習事務室へ連絡すること。  
 講義時は保育所での実習と考え出席する（服装、態度）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習の振り返り①	実習の振り返り（全体討議・アンケート・自己評価）を行う。
2	実習の振り返り②	実習の振り返り（実習記録）を行い、各自の学びと課題を明確にする。
3	実習の振り返り③	実習の振り返り（実習記録）を行い、各自の学びと課題を明確にする。
4	実習の振り返り④	実習の振り返り（実習記録）を行い、各自の学びと課題を明確にする。
5	乳幼児への配慮・支援	乳幼児への配慮・支援について、適切にできたか学びを深める。
6	遊びのレパトリー①	遊びのレパトリーを増やすために、事前学習を十分にできたか振り返る。
7	遊びのレパトリー②	遊びのレパトリーを増やすために、積極的に事前学習を十分にできたか振り返る。
8	保育所の機能・役割	保育所の機能・役割について理解を深める。
9	保育士の職務内容	保育士の職務内容について十分理解し、自信をもって実習できたか明確にする。
10	実習課題について	実習課題の持ち方（視点）は適切であるか改めて振り返る。
11	実習中の留意事項	実習中の留意事項（守秘義務・人権の尊重等・安全安心な生活）について確かな力をつけることができたか、課題等を明らかにする。
12	乳幼児の姿	乳幼児の姿（発達・成長）についての事前学習を十分にできたか点検する。
13	乳幼児の姿	乳幼児の姿と環境構成について、乳幼児が生活する環境構成を創造する力をつける。
14	保育実習のまとめ	目的意識をしっかりと持ち積極的に臨むことができたか実習のまとめをする。
15	保育実習のまとめ	保育内容の準備、手続き上の不備はないか点検する。

《学科教育科目》

科目名	保育実習Ⅲ《施設実習》	科目ナンバリング	C3031S-〇032
担当者氏名	古川 督、足立 法子		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・通年（Ⅰ期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能を学ぶ。施設における支援の実際（①受容し、共感する態度②個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子どもの理解③個別支援計画の作成と実践④子どもの家庭への支援と対応⑤多様な専門職との連携⑥地域社会との連携）について学ぶ。保育士の多様な業務と職業倫理を学ぶ。保育士としての自己の課題を明確化する。

《授業の到達目標》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。保育士としての自己の課題を明確化する。

《成績評価の方法》

施設の評価票に基づく評価（60%）、学習成果の表れである実習ノート（40%）

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編、(株)みらい、2013

《参考図書》

『最新保育資料集2013』子どもと保育総合研究所監修、ミネルヴァ書房、2013

《授業時間外学習》

万全の体調で実習に臨めるように、実習10日前から検温し、自己管理する。実習中は慣れない環境と緊張とで著しく体力を損なう可能性が高いため、生活のリズムを整えることに尽力し、実習に集中できるように努める。

《備考》

「保育実習指導Ⅲ」においての諸注意に気を配り、必要に応じて実習事務室等への連絡を行うようにする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	参加（実践）型実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2	—	「詳細は実習要項参照」
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導Ⅲ《施設実習》		科目ナンバリング	C3031S-〇033
担当者氏名	古川 督、足立 法子			
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期 3年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識			

《授業の概要》

社会福祉系の科目で学習した内容や「保育実習Ⅰ」での実習体験を生かして、福祉施設（通園施設、入所施設）での子どもや障害児への援助内容や方法について理解を深め、家族を含めた家庭支援のための知識や技術、判断力を養う。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編、(株)みらい、2013

《参考図書》

『最新保育資料集2013』子どもと保育総合研究所監修、ミネルヴァ書房、2013 そのほか実習施設に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解ができる。
- 子どもの状態に応じた適切な関わりができる。
- 保育士の専門性を生かした支援ができる。
- 職業倫理を理解し、実践できる。
- 事後指導における実習の総括と評価ができる。

《授業時間外学習》

実習施設の種別に応じた課題を出しますので、図書館、インターネット等を活用して情報収集につとめ、まとめるようにしてください。

《成績評価の方法》

事前指導：実習計画書の作成（50%）  
 事後指導：報告書の作成（50%）  
 実習計画書及び報告書について内容・改善点などの説明・解説を行う。

《備考》

実習のとりきめに基づいて出席を原則とします。やむを得ず欠席をする場合は、実習事務室に連絡をしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	「保育実習Ⅲ」の位置づけ、「保育実習Ⅲ」の目標と内容
2	実習施設の選定1	対象施設の選定
3	実習施設の選定2	対象施設の選定及び施設における支援の具体的内容
4	事前指導1	事前学習の内容、実習施設の理解
5	事前指導2	保育士と権利保障、実習書類の作成
6	事前指導3	保育とソーシャルワーク
7	事前指導4	保育士と地域社会との関係とかかわり
8	事前指導5	実習計画書の作成
9	事前指導6	実習当日までにやっておくこと
10	事前指導7	実習報告書の書き方・提出の方法について
11	事後指導1	施設保育士と児童福祉施設
12	事後指導2	「保育実習Ⅲ」の評価のまとめ
13	事後指導3	実習報告会の準備
14	事後指導4	実習報告会
15	事後指導5	保育士資格と進路



科目名	保育の心理学Ⅱ	科目ナンバリング	C3031S-●035
担当者氏名	杉田 律子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

保育者は、子どもたちを発達・成長へと導いていかなければならない。子どもたちを発達・成長へと導ける質の高い保育者となるために、子どもたちの心身の発達の流れを正しく理解するとともに、保育者として子どもたちの発達を促すにはどのように関わっていけばよいのかを考える。

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』厚生労働省編  
 ※他科目で使用しているもので可

《参考図書》

『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学』 岡本依子ら著 新曜社 2004

《授業の到達目標》

○保育実践に関わる心理学の知識を習得すること。○子どもの発達に関わる心理学の基礎的事項を理解すること。○子どもが人をはじめとする周囲の環境との相互作用を通して成長していく過程を理解すること。○人間の生涯発達の過程と、発達における初期経験の重要性を理解すること。○発達障がいについて正しく理解すること。○発達観さらには子ども観保育観を涵養すること。

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる新聞報道に注目する、ボランティア活動などして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深める努力をしてください。まずは、自分の生活態度を改めるなど、身近なところから保育者としての実践力を身につける努力をしてください。

《成績評価の方法》

15回目に行う試験の評価70%  
 授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組みの評価30%  
 試験終了後、解説を行い、学習理解を深める

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておくこと。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの発達の理解	発達とは何かについて改めて学ぶとともに、子どもの発達を正確に捉えるためにはどのような点に留意すべきかを学ぶ。
2	発達の個人差と評価	発達の個人差に関して、個人間差と個人内差について学ぶとともに、観察技法についても学ぶ。また保育における評価の在り方についても考える。
3	遊びの中にみる1歳児	1歳児の遊びの様子を観察し、記録を取り、その分析を行うことで、子どもの発達過程について理解を深める。
4	遊びの中にみる2歳児	2歳児の遊びの様子を観察し、記録を取り、その分析を行うことで、子どもの発達過程について理解を深める。
5	遊びの中にみる3歳児	3歳児の遊びの様子を観察し、記録を取り、その分析を行うことで、子どもの発達過程について理解を深める。
6	遊びの中にみる4歳児	4歳児の遊びの様子を観察し、記録を取り、その分析を行うことで、子どもの発達過程について理解を深める。
7	遊びの中にみる5歳児	5歳児の遊びの様子を観察し、記録を取り、その分析を行うことで、子どもの発達過程について理解を深める。
8	遊びの中にみる6歳児	6歳児の遊びの様子を観察し、記録を取り、その分析を行うことで、子どもの発達過程について理解を深める。
9	集団保育と発達	集団保育を通して子どもが発達する過程について理解を深める
10	仲間との関わりと集団保育の意義	社会性の発達に焦点を当て、仲間との関わりの中で子どもは理解することを学ぶ。集団の構造と機能について学び、集団生活の中での経験の重要性を学ぶ。
11	集団保育の形態と発達	集団保育のさまざまな形態について理解し、子どもの心の発達について理解を深める。
12	TEACCHプログラムによる支援方法	TEACCHプログラムの概要を理解し、構造化などの支援方法について理解を深める。
13	応用行動分析による問題行動の支援方法	応用行動分析(ABA)の概要を理解し、子どもの問題行動への支援方法について理解を深める。
14	就学支援	幼児教育と初等教育との継続性、さらには就業など生涯にわたる支援の継続の重要性について理解する。
15	学習のまとめ	1回目から14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験(60分)を行う。試験の解説(30分)により理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	C3031S◆-036
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

人は生まれてからたくさんのことを身につけて発達していく。それを可能にするのが広い意味での教育である。人の人としての発達を支える教育という営みについて、心理学の観点から考える。

《授業の到達目標》

教育心理学の基礎知識を学ぶことにより、教育の対象となる幼児・児童・生徒の発達と学習の過程について理解すること。また、発達障がいをはじめとする障がいを持つ子どもの発達と学習の過程について理解すること。

《成績評価の方法》

筆記試験の評価100%。  
質問等は、授業終了後やオフィスアワー等で受け付け、対応する。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。

《参考図書》

『やさしい教育心理学[第3版]』鎌原雅彦・竹網誠一郎(著) 有斐閣 2012  
 『絶対役立つ教育心理学 ー実践の理論、理論を実践ー』藤田哲也(編著) ミネルヴァ書房 2007  
 『よくわかる発達障害 第2版』小野次郎・上野一彦・藤田継道(編) ミネルヴァ書房 2010

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読むなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておこう。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育心理学への導入	教育心理学では何を学ぶのか、そして教育心理学を学ぶ意義について説明する。
2	学習の心理学～その1	学習を定義づけたうえで、学習を成立させるメカニズムについて学ぶ。
3	学習の心理学～その2	子どもを褒める、そして子どもを叱るということについて、学習の心理学の視点から考える。
4	学習への動機づけ～その1	動機づけについて、内発的動機づけをキーワードにして学ぶ。
5	学習への動機づけ～その2	学習意欲を高める、あるいは逆に低下させてしまう諸条件について学び、学習意欲を高める方策を探る。
6	記憶の心理学～その1	忘却とそのメカニズム、短期記憶と長期記憶について簡単な記憶実験を交えながら学ぶ。
7	記憶の心理学～その2	効果的な記憶の仕方と子ども時代の記憶の発達について学ぶ。
8	学習の方法と評価	学習指導の諸形態と学習評価のあり方について学ぶ。
9	学級集団の理解	リーダーシップと集団への同調現象について学ぶ。
10	教師のメンタルヘルス	ストレスとバーンアウトについて学び、教師の精神的健康を守るための方策について考える。
11	発達の基礎の理解	発達の規定因としての遺伝要因と環境要因との相互作用について学ぶ。
12	子ども時代の発達の理解～その1	子ども時代の人間関係の発達について学ぶ。
13	子ども時代の発達の理解～その2	子ども時代の知的能力の発達について学ぶ。
14	障がいをかかえる子どもの発達と学習	発達障がいをはじめとする障がいをもつ子どもたちの発達と学習の過程について学ぶ。
15	学習のまとめ	学習内容の理解度を測定するために筆記試験を行う。

《学科教育科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	C3031S◆-040
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

教育の「制度」（公教育制度、教育法制など）と「制度的実態」（教育行政、学校経営など）についての体系的な知識を獲得するとともに、昨今の教育改革の動向を検討しながら、現代日本における教育の課題を、みずからの問題として論理的に考えていく力が身につくよう、授業を進める。

《テキスト》

『現代教育の制度と行政』河野和清編著、福村出版、2008

《参考図書》

『図解・表解 教育法規 新訂版』坂田仰、河内祥子、黒川雅子、教育開発研究所、2012

《授業の到達目標》

1. 現代日本の公教育制度、教育法制などについての主要な知識を獲得する。
2. 現代日本の教育がどのように制度的に運用されているかについて、その実態を理解する。
3. 現代日本における教育改革の動向を検討し、今後の課題について考える力を養う。

《授業時間外学習》

授業中、指示する。

《成績評価の方法》

1. 筆記試験の結果で100%評価する。
  2. 筆記試験では、知識の定着度50%、文章作成能力（論理的思考力）50%の配点で、評価する。
- ※分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。  
 ※筆記試験実施後、試験問題についての解説を行う。

《備考》

教育改革の動向については、日頃から関心を持つよう心がけてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育制度とは何か	①教育制度、②公教育、公教育の歴史類型、③学校制度、学校制度の類型
2	近代以降の日本教育制度(1)	昭和(戦前)期までの公教育制度、教育行政
3	近代以降の日本教育制度(2)	昭和(戦後)期の公教育制度、教育行政
4	現代日本の教育制度(1)	公教育制度(現状と課題)
5	現代日本の教育制度(2)	教育法制(現状と課題)
6	現代日本の教育制度(3)	教育行政(現状と課題)
7	現代日本の教育制度(4)	学校経営(現状と課題)
8	現代日本の教育制度(5)	保育制度(1)(現状と課題)
9	現代日本の教育制度(6)	保育制度(2)(現状と課題)
10	現代日本の教育制度(7)	教職員人事(現状と課題)
11	現代日本の教育制度(8)	教員養成・研修(現状と課題)
12	現代日本の教育改革(1)	教育改革の動向
13	現代日本の教育改革(2)	教育改革における今後の課題
14	海外主要国の学校制度	アメリカ合衆国、イギリス、フランス、ドイツ等の学校制度
15	まとめ	学修内容の再確認

《学科教育科目》

科目名	乳児保育B	科目ナンバリング	C3032S-●053
担当者氏名	鈴木 富美子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心</li> <li>◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感</li> <li>○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力</li> <li>○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> </ul>		

《授業の概要》

- 1、乳児保育Aで学んだ理論・知識を基礎に乳児の発達過程を振り返り確認学習をする。
- 2、保育園（所）、乳児院における保育内容を学び、ベビー人形を用い援助技術の実践を学ぶ。
- 3、乳児への直接的援助と間接援助を学ぶため、様々な保育ニーズの事例検討を行い、幅広い援助技術を学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・0～2歳児（3歳中期頃まで）の発達を理解し、適切な援助活動ができるようになる。
- ・事例検討を行い、多様な保育ニーズを知り、幅広い視野を持つことができるようになる。
- ・子どもとおもちゃの関係を理解し、身近な素材を使って発達に応じたおもちゃを作ることができるようになる。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）、課題レポート（20%）、作品・積極性・集中度・調和（20%）  
 ※レポート及び作品にはコメントをつけて返却する

《テキスト》

必要に応じ資料配布

《参考図書》

- 「発達がわかれば子どもが見える」ぎょうせい  
 「乳児保育Ⅰ 演習と講義」金子保著 クオリティケア  
 「見直そう子育て 立て直そう生活リズム」エイゼル研究所  
 「すくすくハンドブック」神戸市保健福祉局  
 「乳児の保育新時代」ひとなる書房  
 「乳児の生活と保育」ななみ書房

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定範囲を読んでおく。
- ・配布資料は必ず読み、理解を深める。
- ・課題レポートについては自分の意見が述べられるよう学習をはかる。
- ・製作物は必ず完成させ、作品の提示を行う。

《備考》

- ・皆が気持ちよく学習できるように受講マナーを守る。
- ・身近なおもちゃを製作するので、予定の日には必要なものを持ってくる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・授業の概要と進め方、履修上の諸注意 ・乳児の概念 ビデオ「赤ちゃんからのメッセージ」
2	乳児保育の概念	・乳児保育の概念とその重要性
3	保育の歴史	・保育所保育と幼稚園教育
4	乳児保育と時代の変化	・時代と共に歩んできた乳児保育について
5	発達の姿と保育援助①	・0歳児の発達過程と特徴（4ヶ月まで） ・0歳児の保育環境
6	発達の姿と特徴①	・ホールディングの意味と方法 ・授乳の仕方、オムツ交換や着衣、応答的關係、離乳
7	発達の姿と保育援助②	・1歳児の発達過程と特徴 ・1歳児の保育環境（赤ちゃんのおもちゃ） 愛着の絆について ビデオ
8	発達の姿と特徴②	・探索活動の理解と援助 自我の芽生えと好奇心 ・感覚的活動から表象的活動へ移行の援助
9	発達の姿と保育援助③	・2歳児（3歳中期頃まで）の発達過程と特徴 ・2歳児の保育環境 自我の芽生えと好奇心
10	保育の計画	・乳児の指導計画
11	家族支援と事例検討	・保護者対応、様々な保育ニーズ・チームワーク
12	発達のつまづきへの対応	・子どもの発達障害へのアプローチやネットワークを考える
13	製作 乳児のおもちゃ①	・手袋シアター「三匹のやぎのガラガラドン」
14	製作 乳児のおもちゃ②	・製作「アンパンマン」
15	授業の振り返りと理解度の確認	・レポートから見る課題

《学科教育科目》

科目名	障害児保育B	科目ナンバリング	C3032S-●055
担当者氏名	杉田 律子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感</li> <li>◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力</li> <li>○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> <li>○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル</li> </ul>		

《授業の概要》

本授業の目的は、障害児保育の現状と課題などを踏まえながら障害を理解しようとする心構えと、実践的な技能及び認識を高めることを目指して学習することである。

《テキスト》

※障害児保育Aで使用したテキストを使用

《参考図書》

授業中に適宜案内します。

《授業の到達目標》

本授業では、障害という概念について多角的な理解を行うとともに、行政、地域レベルで行われている障害児の支援の在り方を学習することを通して、いかに行動することが必要であるかを理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

授業中に紹介した文献を読む、障害児に関わる新聞報道に注目するなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深める努力をしてください。  
また、保育所見学やボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に行ってください。  
まずは、自分の言語表現力を高める努力から始めて下さい。

《成績評価の方法》

15回目を行う試験の評価50%  
授業中に実施するレポート課題や発表および授業への取り組みの評価50%  
試験終了後、解説を行い、学習理解を深める

《備考》

8～13講のグループ研究はアクティブ・ラーニング・ゾーンの使用を予定している。発表を目指し、授業内での議論、自宅学習などに能動的に取り組むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、履修上の諸注意
2	障害の概念①障害とは何か	障害とは何か、について理解を深める。 障害児に対する保育・教育の歴史
3	障害の概念②障害とイメージ	「障害」と聞いたときに人が持つイメージから、障害の本質について理解を深める。障害理解教育についても理解を深める。
4	障害の概念③障害と福祉	障害児・者に対する福祉行政の問題から、今後の課題について理解を深める。
5	障害児保育の現状と課題①福祉・保育	障害児をめぐる福祉・教育の現状と課題について理解を深める
6	障害児保育の現状と課題②保健・医療	障害児をめぐる保健・医療の現状と課題について理解を深める
7	障害児保育の現状と課題③専門性	障害児保育と専門性の問題について理解を深める
8	障害児への支援①グループ研究	グループで相談し、グループ研究で取り扱う障害を選び、研究するテーマについての概要をまとめる
9	障害児への支援②グループ研究	自分たちの選んだ障害、テーマについて文献研究を行い、PPTのスライドを作成する
10	障害児への支援③グループ研究	発表のためのアンケートや実践、教材作りなどを行う
11	障害児への支援④グループ研究	アンケートなどの結果をまとめ、考察を行う。また、今後自分たちが身につけるべきこと、課題について考える
12	障害児への支援⑤グループ発表	障害に関する問題の中から、グループごとにテーマを選び、文献研究等で得られた知見を発表する。
13	障害児への支援⑥グループ発表	障害に関する問題の中から、グループごとにテーマを選び、文献研究等で得られた知見を発表する。
14	障害児への支援⑦グループ研究のまとめ	障害に関する問題の中から、グループごとにテーマを選び、文献研究等で得られた知見をレポートにまとめる
15	学習のまとめ	1回目から14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験（60分）を行う。試験の解説（30分）により理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	教育相談	科目ナンバリング	C3031S◆○056
担当者氏名	大久保 恵		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心</li> <li>◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力</li> <li>○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> <li>○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル</li> <li>○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力</li> </ul>		

《授業の概要》

1. 教育相談、カウンセリングの理論、基礎知識を身につける。
2. 描画など心理検査などを体験して自己理解を深める。
3. 教育相談現場での実際を通して、実践的な力を養う。

《テキスト》

「エッセンス 学校教育相談心理学」  
石川正一郎・藤井泰編著（北大路書房）

《参考図書》

「教師のための教育相談の基礎」久芳美恵子著（三省堂）

《授業の到達目標》

教育相談の基礎的な考え方を習得し、子どもの問題行動への理解を深め、その対応法を学んでいく。

1. 子どもの問題行動の裏側にあるその心理や発達の問題を理解することができる。
2. カウンセリングの技法や心理学の基礎的な知識について説明できる。
3. 保育現場で生じる子どもの問題行動に対応できる。

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定箇所を読んでおくこと。
- ・授業中に配布するプリントを整理し、よく読んでおくこと。
- ・実習などで出会った子どもたちをよく観察し、授業内容に照らし合わせて、理解と対応を考えること。

《成績評価の方法》

1. 授業態度（20%）
2. レポート課題等の提出物（20%）
3. 期末試験（60%）

1の授業態度に関しては、授業に関係のない私語は厳禁とし、積極的に参加する姿勢を評価します。

《備考》

- ・講義の開始時に出席を確認します。
- ・授業や心理学に関する質問は、授業中や授業後でも対応します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育相談と自己理解	1. 教育現場とは 2. 授業のオリエンテーション 3. 自己理解のための心理テスト
2	教育相談の実際1	1. 不登校とは 2. その対応
3	教育相談の実際2	1. いじめについて 2. 非行について
4	パーソナリティとその理解1	1. 心の構造 2. 自我の防衛機制について 3. 心の発達
5	パーソナリティとその理解2	1. 教育相談で扱う心の病気とは
6	発達と教育相談	1. 子どもの発達（心理検査を通して）
7	発達障害と教育相談	1. 発達障害とは 2. 広汎性発達障害 3. LD 4. ADHD
8	カウンセリングとは	1. カウンセリングとは 2. カウンセリングマインドについて
9	カウンセリング体験	1. カウンセリングのロールプレイを行います
10	主な心理療法と心理検査	1. 主な心理療法について 2. 心理検査とは
11	描画体験とその理解	1. 描画体験 2. その説明
12	関係機関との連携・協働	1. スクールカウンセラーとは 2. 関係機関との連携について
13	問題行動とその対応	1. 幼児期、児童期、思春期に生じやすい問題行動をあげ、その具体的な対応方法や関係機関との連携の仕方を学んでいく
14	ケーススタディ	1. 具体的な事例を通して、子どもへの理解とその対応を深めていく
15	学習のふり返り	1. 学習の習得度について振り返る（テスト）

《学科教育科目》

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）		科目ナンバリング	C3032S◆●057
担当者氏名	福田 規秀、三浦 摩美、石川 恵美、杉田 律子、金谷 公子、小林 孝子、未定			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心</li> <li>○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力</li> <li>○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力</li> <li>○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル</li> <li>○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力</li> </ul>			

《授業の概要》

教育委員会や幼稚園・保育所・認定こども園等から講師を招いての講義及びそれを基にした事例研究やグループ討議、実習の振り返りを行う。また模擬保育等を通して、教員（保育者）として必要な知識・技能を修得したことの確認を行う。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2008  
 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 2008  
 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 2015

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

○教職課程や保育士養成科目の履修により修得した知識・技能を基に、教員（保育者）としての使命感や責任感、教育的愛情を持つ。  
 ○社会性や対人関係能力を身につけ、幼児理解を深めながら保育内容の指導力を向上させる。  
 ○教員（保育者）の職務を支障なく実践できる資質・能力を獲得する。

《授業時間外学習》

課題に沿ったレポート、指導案の作成、発表（討論での意見、模擬保育等）の準備

《成績評価の方法》

課題（討議レポート、指導案等）50%、発表（討論での意見、模擬保育等）50%  
 課題、発表については、講義内で講評を行う。

《備考》

幼稚園教諭免許、保育士資格を取得するための「総仕上げの授業」と心得て、積極的に学修することが望まれる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	建学の精神と保育科教育目的の再確認をする。
2	講義（1）	保育者としての成長や保育の課題等についての講義（附属幼稚園からの講師）
3	講義からの学び	第2週の講義内容に関する事例研究、グループ討論をする。学んだことを保育実践に繋げることができる。
4	講義（2）	教職の意義や教員（保育者）の役割、職務内容についての講義（教育委員会からの講師）
5	講義からの学び	第4週の講義内容に関する事例研究、グループ討論をする。学んだことを保育者としてのあり方・生き方に繋げることができる。
6	講義（3）	幼児理解や社会性、対人関係能力、保育内容の指導力についての講義（保育現場からの講師）
7	講義からの学び	第6週の講義内容に関する事例研究、グループ討論をする。またロールプレイなどにより学んだことを幼児理解や保育実践に繋げる。
8	模擬保育1	模擬保育のための指導案を作成する。（グループ別）
9	模擬保育2	模擬保育のための教材研究と指導案の修正をする。（グループ別）
10	模擬保育3	模擬保育のための教材研究と指導案の修正をする。（グループ別）
11	模擬保育4	模擬保育のための教材研究と指導案の修正をする。（グループ別）
12	模擬保育発表（1）	模擬保育に取り組むことで、より実践力を身につけることができる。
13	模擬保育発表（2）	模擬保育に取り組むことで、より実践力を身につけることができる。
14	模擬保育発表（3）	模擬保育に取り組むことで、より実践力を身につけることができる。
15	学修のまとめ	今までの学修を振り返り、自己成長感を確認することができる。